

【表紙】

【提出書類】 有価証券報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 2026年6月22日

【事業年度】 第74期(自 2025年4月1日 至 2026年3月31日)

【会社名】 スズデン株式会社

【英訳名】 SUZUDEN CORPORATION

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 高谷 健文

【本店の所在の場所】 東京都千代田区外神田二丁目2番3号

【電話番号】 03(6910)6801(代表)

【事務連絡者氏名】 代表取締役専務 安岳 宗吉

【最寄りの連絡場所】 東京都千代田区外神田二丁目2番3号

【電話番号】 03(6910)6801(代表)

【事務連絡者氏名】 代表取締役専務 安岳 宗吉

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部 【企業情報】

## 第1 【企業の概況】

## 1 【主要な経営指標等の推移】

## (1) 連結経営指標等

回次	第70期	第71期	第72期	第73期	第74期
決算年月	2022年3月	2023年3月	2024年3月	2025年3月	2026年3月
売上高 (千円)	59,690,852	67,439,996	50,929,668	46,631,604	45,902,296
経常利益 (千円)	3,367,370	4,756,923	3,091,091	2,658,613	2,339,548
親会社株主に帰属する当期純利益 (千円)	2,342,265	3,309,496	2,091,883	1,789,904	1,722,899
包括利益 (千円)	2,306,806	3,374,858	2,181,533	1,700,904	1,736,564
純資産額 (千円)	17,627,179	18,610,823	18,467,297	18,694,339	16,758,552
総資産額 (千円)	32,736,188	33,370,571	28,300,575	29,104,424	28,351,637
1株当たり純資産額 (円)	1,261.67	1,329.89	1,317.54	1,332.54	1,321.60
1株当たり当期純利益 (円)	167.82	236.74	149.38	127.66	129.04
潜在株式調整後1株当たり当期純利益 (円)	-	-	-	-	-
自己資本比率 (%)	53.8	55.8	65.3	64.2	59.1
自己資本利益率 (%)	13.8	18.3	11.3	9.6	9.7
株価収益率 (倍)	13.1	11.1	14.5	14.8	13.2
営業活動によるキャッシュ・フロー (千円)	426,213	2,897,515	3,792,165	3,944,664	1,527,665
投資活動によるキャッシュ・フロー (千円)	696,799	897,977	28,580	30,332	1,982,704
財務活動によるキャッシュ・フロー (千円)	497,353	2,085,113	3,736,041	1,960,831	843,135
現金及び現金同等物の期末残高 (千円)	6,137,188	6,068,427	6,162,174	8,115,417	6,820,265
従業員数 (ほか、平均臨時雇用人員) (名)	359 (145)	358 (137)	342 (121)	345 (104)	336 (109)

(注) 1. 1株当たり純資産額の算定上、株式会社日本カストディ銀行(信託E口)が所有する当社株式を期末発行済株式総数から控除する自己株式に含めております。

また、1株当たり当期純利益及び潜在株式調整後1株当たり当期純利益の算定上、期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めております。

2. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

## (2) 提出会社の経営指標等

回次	第70期	第71期	第72期	第73期	第74期
決算年月	2022年3月	2023年3月	2024年3月	2025年3月	2026年3月
売上高 (千円)	59,110,939	67,358,997	50,929,668	46,631,604	45,902,296
経常利益 (千円)	3,367,374	4,847,822	3,094,752	2,654,025	2,338,734
当期純利益 (千円)	2,265,387	3,432,655	2,084,853	1,786,102	1,764,125
資本金 (千円)	1,819,230	1,819,230	1,819,230	1,819,230	1,819,230
発行済株式総数 (株)	14,652,600	14,652,600	14,652,600	14,652,600	13,282,000
純資産額 (千円)	17,449,388	18,591,067	18,449,778	18,655,359	16,706,378
総資産額 (千円)	32,521,991	33,337,436	28,287,660	29,093,481	28,333,885
1株当たり純資産額 (円)	1,248.94	1,328.48	1,316.29	1,329.76	1,317.49
1株当たり配当額 (1株当たり中間配当額) (円)	122.00 (25.00)	190.00 (76.00)	120.00 (53.00)	103.00 (39.00)	111.50 (36.00)
1株当たり当期純利益 (円)	162.32	245.55	148.87	127.38	128.76
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益 (円)	-	-	-	-	-
自己資本比率 (%)	53.7	55.8	65.2	64.1	59.0
自己資本利益率 (%)	13.4	19.0	11.3	9.6	10.0
株価収益率 (倍)	13.5	10.7	14.5	14.9	13.3
配当性向 (%)	75.2	77.4	80.6	80.9	86.6
従業員数 (ほか、平均臨時 雇用人員) (名)	336 (163)	335 (156)	321 (140)	317 (130)	307 (138)
株主総利回り (比較指標：配当込み TOPIX) (%)	178.4 (102.0)	225.8 (107.9)	199.8 (152.5)	187.1 (150.2)	181.5 (202.2)
最高株価 (円)	2,345	2,877	2,647	2,169	1,968
最低株価 (円)	1,252	1,843	2,078	1,666	1,627

(注) 1. 1株当たり純資産額の算定上、株式会社日本カストディ銀行(信託E口)が所有する当社株式を期末発行済株式総数から控除する自己株式に含めております。

また、1株当たり当期純利益及び潜在株式調整後1株当たり当期純利益の算定上、期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めております。

2. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

3. 最高株価及び最低株価は、2022年4月3日以前は東京証券取引所市場第一部におけるものであり、2022年4月4日以降は東京証券取引所スタンダード市場におけるものであります。

2 【沿革】

年月	事項
1952年12月	重電機器・電気工事材料等の販売を目的として、東京都千代田区田代町2番地(現：東京都千代田区外神田4丁目2番1号)に鈴木電業株式会社を設立。
1954年4月	日東工業株式会社と代理店契約を締結。
1956年9月	本格的な販売と流通体制整備のため、東京都千代田区神田金沢町5番地(現：東京都千代田区外神田3丁目11番12号)に倉庫を建設。
1957年7月	立石電機株式会社(現：オムロン株式会社)と特約店契約を締結。
1960年10月	制御機器販売部門を設置。
1961年10月	「電設資材型録」を発行。
1963年3月	制御機器販売部門を分離し、東京都千代田区田代町2番地(現：東京都千代田区外神田4丁目2番1号)に鈴木電興株式会社を設立。
1963年12月	松下電工株式会社(現：パナソニック株式会社)と代理店契約を締結。
1964年4月	鈴木電興株式会社に技術部門としてテクニカルセンター(現：システムエンジニアリング課)を設置。
1964年6月	本社を東京都千代田区神田金沢町5番地(現：東京都千代田区外神田3丁目11番12号)に移転。
1967年10月	鈴木電興株式会社と共同出資し、三多摩地区での電設資材と制御機器の販売を目的として、国立市に多摩鈴電株式会社を設立。
1969年7月	鈴木電興株式会社が国内で初めてのオートメーションパーツ及び使用回路実例等の情報提供の手段として「オートメーションガイドブック」を発行。
1970年10月	梅島電材センターを開設。
1978年11月	鈴木電興株式会社と共同出資し、茨城鈴電株式会社を設立。
1984年12月	鈴木電興株式会社が日系企業を中心とした市場への制御部品の販売を目的に、シンガポール支店を開設。
1986年8月	鈴木電興株式会社の本社社屋を東京都墨田区緑2丁目3番4号に新築移転し、物流センター機能を確立。
1987年9月	情報誌として「Bell」を創刊。
1988年1月	鈴木電興株式会社、多摩鈴電株式会社、茨城鈴電株式会社と共同出資し、横浜鈴電株式会社を設立。
1991年1月	本社を東京都文京区湯島二丁目2番2号に新築移転。
1991年4月	鈴木電興株式会社、多摩鈴電株式会社、茨城鈴電株式会社、横浜鈴電株式会社を合併、商号をスズデン株式会社とする。
1993年3月	シンガポール支店を現地法人化し、SUZUDEN SINGAPORE PTE. LTD.(連結子会社)を設立。 (注)2023年11月清算終了。
1995年12月	当社株式を日本証券業協会に店頭売買銘柄として登録。
1996年3月	パソコンショップ「俺コンハウス」を秋葉原にオープン。(注)2006年6月末閉店。
1996年7月	当社プライベートブランド「ユーボン」の商品カタログ「ユーボンパーツダイジェスト」を発行。
1997年12月	品質管理及び品質保証に関する国際規格「ISO9002」の認証を取得。
2000年2月	インターネットショッピングサイト「幕の内アキバ街」(現：FA Ubon)をオープンし、インターネットによる通信販売を開始。
2001年12月	品質管理及び品質保証に関する国際規格「ISO9001-2000年版」認証を取得。
2002年3月	環境マネジメントシステムの国際規格「ISO14001」認証を取得。
2002年4月	株式会社スズデンインダストリアルシステムズを設立。(注)2005年4月当社に吸収合併。
2002年8月	SUZUDEN HONG KONG LIMITED(鈴電香港有限公司)を設立。(注)2010年9月清算終了。
2004年8月	上海に斯咨電貿易(上海)有限公司(SUZUDEN TRADING (SHANGHAI) CO., LTD.)(連結子会社)を設立。(注)2023年1月清算終了。
2004年12月	当社株式を東京証券取引所市場第二部に上場。
2005年12月	スズデンビジネスサポート株式会社(連結子会社)を設立。
2007年6月	当社株式が東京証券取引所市場第一部銘柄に指定。
2009年3月	千葉県松戸市に東京物流センターを開設。
2010年11月	宮城県黒川郡大和町に大和工場を開設。

年月	事項
2016年10月	愛知電機株式会社（長野県上田市）の全株式を取得し、連結子会社化。（注）2022年7月吸収合併。
2018年12月	本社を東京都港区に移転。
2021年7月	本社を東京都千代田区に移転。
2022年4月	東京証券取引所の市場再編に伴い「スタンダード市場」に移行。
2022年5月	宮城県黒川郡大和町の大和工場を増築し操業を開始。
2023年3月	長野県松本市に松本事業所新社屋完成。
2025年7月	ベル株式会社（東京都千代田区）の全株式を取得し、完全子会社化。
2026年1月	完全子会社であるベル株式会社を吸収合併。

### 3 【事業の内容】

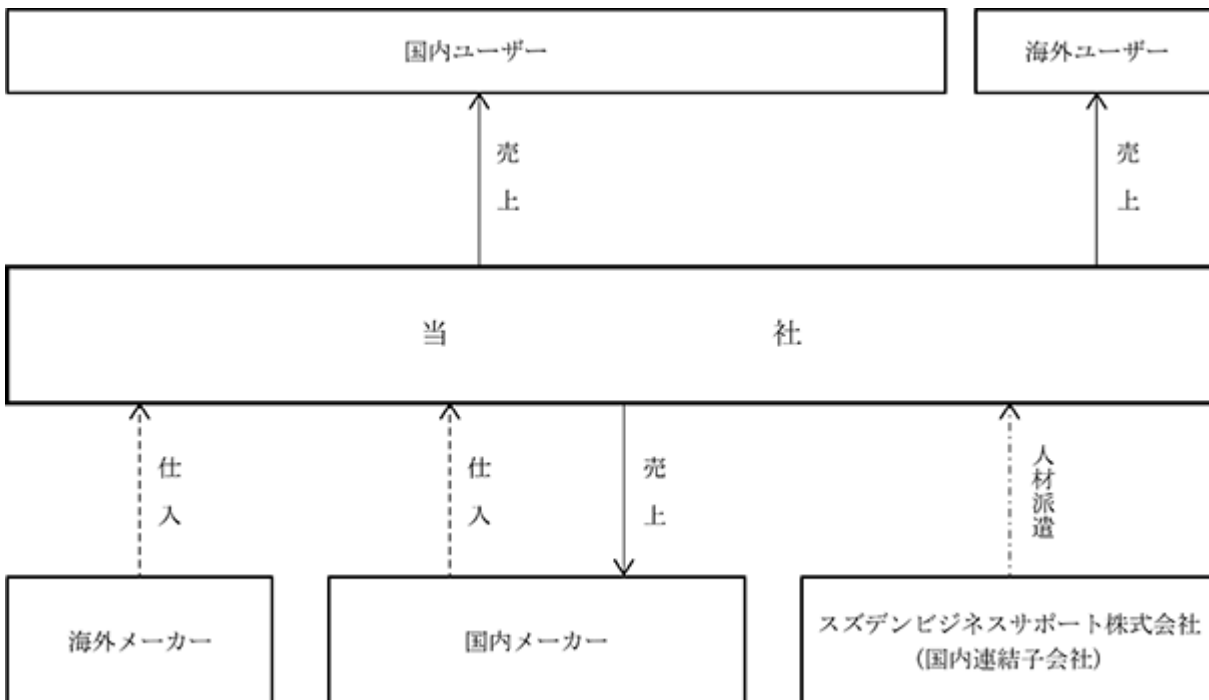
当社グループは当社と子会社1社で構成され、主な事業内容とその位置づけは、次のとおりです。

(1) 当社は、国内有力メーカーよりF A機器、情報・通信機器、電子・デバイス機器、電設資材等を仕入れ、国内の有力企業への販売を行っております。また、もの造り機能の強化及び顧客要求事項に対応するため、大和工場（宮城県黒川郡）において半導体製造装置向けアルミフレームの組立等の製造事業を行っております。

(2) 子会社の主な事業内容とその位置づけ

スズデンビジネスサポート株式会社は、高齢者雇用安定法に則した雇用の継続に対応しており、当社に人材派遣を行って販売、受発注、物流、売掛・買掛管理、企画等の業務を請負い、当社業務の効率化やノウハウの継承を行っております。

当社グループの概要図（2026年3月31日現在）



4 【関係会社の状況】

(連結子会社)

名称	住所	資本金又は 出資金	主要な事業の内容	議決権の 所有(被所有)割合		関係内容
				所有割合 (%)	被所有割合 (%)	
スズデンビジネスサポ ート株式会社	東京都文京区	10,000 千円	コンピュータによる 情報処理に関する業 務、販売促進に関す る情報・資料の収 集、企画及び販売、 労働者派遣業務	100.0		当社の受発注、物流、売掛・ 買掛管理等の事務代行及び高 齢者等の人材派遣  役員の兼任 1名

- (注) 1. 上記子会社は、特定子会社ではありません。  
 2. 上記子会社は、有価証券届出書及び有価証券報告書を提出していません。  
 3. 上記子会社については、売上高(連結会社相互間の内部売上高を除く)の連結売上高に占める割合が10%を超えておりませんので、主要な損益情報等の記載を行っていません。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【経営方針、経営環境及び対処すべき課題等】

当社グループは、「もの造りサポーターカンパニー」として、社憲「私たち一人ひとりのはたらきで心豊かな暮らしをつくり出し喜びあえる未来にしよう」を共有し、社は「誠実」のもとコーポレート・ガバナンスの強化と環境への配慮、企業の社会的責任を果たすべく経営を行ってまいります。

加えて「顧客第一」で商圏・商材の拡大・拡充・深耕と不断のコスト見直しによる収益の継続的拡大を図るとともに資本効率を高めて自己資本利益率（ROE）の向上に取り組んでまいります。

なお、文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものであります。

#### (1) 経営の基本方針

当社グループは、株主の皆様、お客様、社員とその家族、地域社会が当社グループを支えてくださる基盤と認識するとともに、企業市民としての社会的責任を果たすべく、社は「誠実」のもと経営を推進しております。今後も全てのステークホルダーの皆様にご満足いただけるよう企業価値の向上を実現し、社会的責任を果たすべく経営を行ってまいります。

以上を踏まえ、経営の基本方針を以下の通り定め、実践しております。

#### 社会的責任

国際行動規範を尊重し、事業活動を行う国や地域の法令・ルール・規制を守り、人権を尊重し、環境に配慮した事業活動を行い、倫理的に行動します。

また、国・地方自治体への納税を基本とし、世界の将来を担う世代や教育機関を対象とした継続的な寄付と、地域社会や災害復興を目的とした寄付を行ってまいります。

#### 社員

社憲「私たち一人ひとりのはたらきで心豊かな暮らしをつくり出し喜びあえる未来にしよう」に基づき、社員が能力を最大限に発揮できるよう会社は個人を尊重し、働きがいのある場を提供することにより共に成長できる経営を行ってまいります。

#### 共育

お客様の満足度を高めるため、社員一人ひとりに適切な教育・訓練及び経験の機会を提供し「共に育つ」を教育理念としてまいります。

#### お取引先様

お取引先様と強固なパートナーシップを構築し、持続可能な成長と相互の発展を目指してまいります。

#### お客様

お客様が必要としている商品・ソリューションを的確に提案し、商品品質・サービス品質を向上させるとともに、お客様の多様なニーズに適切かつ迅速にお応えし、お客様の満足度を高めてまいります。

#### 地域社会

循環型社会構築に向け、地域社会との共存共栄を図り、企業市民として遵法・地球環境の向上・安全を基本として活動してまいります。活動を具体化するため、品質・環境方針を定め行動します。

#### 投資家の皆様

配当性向：80%を配当総額の基準として、各事業年度の利益状況や将来の事業展開等を総合的に勘案し、重点事業の競争力強化を図るための設備投資や人材育成などに向けた内部留保にも考慮しつつ、配当を行うことを基本方針といたします。

## (2) 目標とする経営指標

当社は、効率化経営と自己資本の効率的活用による収益性を重視する観点から自己資本利益率（ROE）を経営指標としてまいります。

## (3) 当社グループを取り巻く経営環境

当社グループを取り巻く経営環境は、雇用・所得環境などの改善を背景に景気は緩やかな回復基調で推移いたしました。一方で、不安定な国際情勢を背景とした資源価格の高騰や物価上昇などによる景気への影響懸念など、依然として先行き不透明な状況が続いており、企業の生産活動や設備投資に慎重な姿勢が見られました。

今後につきましては、主要顧客の生産活動や設備投資は緩やかに回復に向かうものの、中東情勢や国際紛争の長期化といった地政学リスクの高まりなど、先行きは依然として不透明な状況が続いております。そうした中で、半導体市場においては、生成AI関連の高性能な半導体需要の拡大の継続とあわせ、最先端メモリ等の需要増加に向けた更なる投資拡大を見込んでおり、当社の受注環境は好転するものと見ております。

## (4) 優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題

当社は収益の継続的拡大と企業の社会的責任を果たすべく経営を行い、その実現のために以下の重点課題に取り組んでまいります。

### コーポレート・ガバナンスの強化

当社は、コーポレート・ガバナンスが有効に機能するうえで、株主の権利・利益が守られ、平等に保障されることが重要であり、全てのステークホルダーの権利・利益の尊重と円滑な関係の構築が企業価値向上には欠かせないものと認識しております。

当社は、「監査等委員会設置会社」の形態を採用しており、取締役会が経営戦略の創出及び業務執行の監督を主として担い、監査等委員会が取締役の職務執行の監査等を担うことにより、業務執行を監督及び監視する体制を強化しております。

2026年3月31日現在においては取締役8名、うち監査等委員である取締役は3名であります。また、社外取締役は3名、うち監査等委員でない社外取締役が1名、監査等委員である社外取締役は2名であります。なお、独立役員は3名となっております。

当社では、取締役の指名や報酬に係る基本方針及び手続きに関する事項の公正性・透明性・客観性の担保と、当社コーポレート・ガバナンスの充実を図るため、取締役会の任意の諮問機関として「指名報酬委員会」を設置しております。指名報酬委員会は、取締役会の決議により選定された取締役5名以上で構成し、その過半数を独立社外取締役とし、委員長は、指名報酬委員会における委員の互選で選出されております。2026年3月31日現在においては、取締役5名で構成されており、うち独立社外取締役は3名、委員長は非業務執行の社外取締役が務めております。

今後とも、取締役会の監督機能強化と透明性の高い経営、迅速な意思決定を実現するためにコーポレート・ガバナンス体制を一層充実させるとともに、コーポレートガバナンス・コードの趣旨を踏まえ、経営体制の強化を行ってまいります。

### 商圏・商材の拡大・拡充・深耕

商圏の拡大を図るため、既存顧客の深耕に注力し成長市場へ経営資源を集中するとともに、新規顧客の開拓やWEBビジネス、地場の顧客を主力とした営業所の展開等による商圏の拡大に注力してまいります。

商材では、オリジナルブランド「Ubon（ユーボン）」の品揃えの充実を柱に商材の拡大を図るとともに、「もの造り」拠点である大和工場（宮城県黒川郡）及び松本ユーボン工場（長野県松本市）での高付加価値製品の生産と顧客要求事項に対応できる生産体制の確立をより一層強化してまいります。また、当社の商材・機能等をより深くご理解いただく活動として、お客様に出向いての展示会やWEBセミナーを開催するなど販売促進策を行ってまいります。

海外への対応は、海外営業所による国内製造業の海外生産拠点への輸出業務の拡大を図ってまいります。

#### コンプライアンス及びCSR（企業の社会的責任）の整備と強化

コンプライアンス及びCSR（企業の社会的責任）の整備と強化を社憲、社是、社訓を根幹として推し進めてまいります。子会社社員、派遣社員・パート社員等を含む当社グループの社員全員に行動指針を示した「スズデンCSR要綱」を配布して啓発に努めております。

また、ISOを基盤とした品質と環境のマネジメントに注力してまいります。

社会貢献の一環として、東日本大震災において被災された地域を中心に、修学が困難となった学生等への支援を目的として、2012年より20年間にわたり毎年3月11日（休日の場合は直前の営業日）の当社売上額の一部を寄付することとしております。

#### 環境への配慮

FA機器、情報・通信機器、電子デバイス機器及び電設資材を取扱う商社として、地球の環境保全が人類共通の最重要事項のひとつであることを十分に認識し、その販売事業・製造事業活動、商品及びサービスにおいて環境問題に積極的に取り組む環境配慮型商社を標榜しております。

具体的には、ISO9001・ISO14001を基盤とした「品質・環境方針」を定め、環境マネジメントシステム及びパフォーマンスを定期的に見直し継続的改善を図ってまいります。また、当社が販売する商品の含有化学物質管理、紛争鉱物調査など品質管理体制を充実させ汚染の予防に努め、環境にやさしい環境配慮型商品の販売を推進してまいります。

#### サステナビリティへの対応

ESG（環境/社会/ガバナンス）を重視した経営を推進し、気候変動への対応及び人権の尊重をはじめとする社会的課題の解決に事業活動を通じて取り組むことにより、持続可能な社会の実現と中長期的な企業価値向上を目指してまいります。

#### 財務報告の信頼性の向上

会社法に基づく経営体制の整備とコーポレート・ガバナンス、内部統制システムの一層の強化や、内部統制報告制度への対応を通じて、財務報告の信頼性の一層の向上を継続的に行ってまいります。

#### 生産性・効率性の向上

IT投資の継続による合理化や経費の見直しを推進し、スピード化するビジネス環境への対応力、即応力を強化するとともに、ISO9001を基盤として業務改善を図りながら、DX推進による生産性・効率性の向上を図ってまいります。

#### 人材育成（共育）

当社グループにとって、人材の育成は最重要課題として位置付けており、上司・部下双方が共に育つという理念のもと「共育」を実施しております。具体的には、当社グループ独自のカリキュラムによる「スズデンカレッジ」の充実、通信教育・資格取得の促進、OJT等を通じて、人材の育成を行ってまいります。

#### 事業継続マネジメント（BCM：Business Continuity Management）の構築

パンデミックや災害など様々なリスクによって生じる事業活動の中断に対する対策を策定し、事業継続の効率的な確保と健全な企業経営を行うため、事業継続マネジメントの構築を継続して行い、影響を最小限に抑えるための対応の整備を図ってまいります。

また、災害時や停電等での初期対応を中心に事業継続計画（BCP：Business Continuity Plan）を充実してまいります。

#### 働き方改革と健康経営の推進

男女が共に働きやすい職場環境づくりとノー残業DAYや連続2日以上の有給休暇取得の推進等によるワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）の向上に取り組むとともに、社員の健康診断100%受診と被扶養者の受診促進の支援及び社員の就業時間内禁煙の徹底等を行い、「働き方改革」と「健康経営」を推進してまいります。当社は、健康保険組合連合会東京連合会より健康優良企業として「銀の認定」を取得しております。

## (5) 中長期的な会社の経営戦略

企業価値向上を目指す経営戦略を基本に、「もの造りサポーターカンパニー」として、もの造りの現場（工場などの生産現場・建築現場等）への設備・機器・部品・サービス等の供給とサポートを行ってまいります。

また、品質・生産性・効率化の更なる向上をめざし、DX推進による業務や物流機能の効率化等、IT化とロボット化を中心とした投資に加え、教育体系を充実させ社員一人ひとりがレベルアップできるよう取り組み、持続的な成長及び企業価値向上に努めてまいります。

### 営業戦略

成長市場と成長分野への経営資源の選択と集中を行うとともに「顧客第一」の精神で商圏の拡大・拡充・深耕による業績の拡大を図ってまいります。

重点的な取り組みとして、ロボットやIoT商材の販売による人手不足の解消や生産性の向上・品質管理の向上を図り、スマート工場の構築に向けた提案を進めてまいります。次に、エンジニアリング部門として設置したロボット・ソリューション課では、ロボットなどの機器選定からデータ蓄積及び活用までお客様の生産現場のスマート工場化に向けたトータルソリューションを提供してまいります。更に、AI、自動運転等の実用化及び技術開発の加速に伴い、今後も半導体業界では成長が見込まれることから、半導体製造装置や電子部品関連のお客様へ経営資源を集中させ注力してまいります。また、これまでも中長期的に力を入れてきた医療機器関連市場、医療現場・介護関連市場をはじめとするメディカル市場においては、お客様のご要望に応じた提案を実行することで更なる業績の拡大を図ってまいります。そして、買い手の多様化により今後も需要拡大が見込まれるインターネットビジネスにおいては、通販サイト「FAUbon（エフエーユーボン）」の機能拡充と取扱商品の拡大を重点戦略とし、業績の拡大を図ってまいります。

なお、大和工場（宮城県黒川郡）は、当社の「もの造り」拠点として、もの造り機能の強化及び顧客要求事項に対応するため、半導体製造装置向けアルミフレームの組立や端子台の組立加工等を行っております。今後も高付加価値製品の提供と高度なSCM要求に対応できる体制を一層強化してまいります。

### 商品戦略

「もの造りサポーターカンパニー」として、最先端の制御機器や電設資材の提案とともに、生産現場が常に向上を求めている「品質、環境（省）、安全」といったキーワードに対してメカトロニクス商材やセーフティ商材、環境関連商材等の販売を推し進めてまいります。成長分野であるロボット及びIoT分野については、メーカー研修を含め人材の育成による提案力の強化とシステムインテグレーターとの協業や当社エンジニアリング部門との連携による、お客様ニーズに沿った省力化・省人化・IoT化といったソリューション提案を展開してまいります。

オリジナルブランド「Ubon（ユーボン）」では、更なる顧客ニーズに直結した「もの造り」を進めるべく松本ユーボン工場（長野県松本市）にて、生産体制を強化し、主力の配線アクセサリや盤内パーツを更に充実させるとともに、産業用パソコン等の高付加価値商品や検定対策キット等の顧客ニーズを先取りした商材の開発を加速し、顧客の利便性向上と収益拡大を図ってまいります。

## 2 【サステナビリティに関する考え方及び取組】

当社グループのサステナビリティに関する考え方及び取組は、次のとおりであります。

なお、文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものであります。

### (1) ガバナンス

当社グループは、中長期的な企業価値向上のため、サステナビリティを巡る課題対応について、ESG（環境/社会/ガバナンス）の観点を重視した企業経営に取り組むとともに、当社グループの事業活動を通じて、SDGs（持続可能な開発目標）など社会的課題の解決に貢献し、持続可能な社会の実現と中長期的な企業価値向上を目指しております。

当社は、2026年3月1日付でサステナビリティ委員会を設置し、サステナビリティに関する重要課題の特定、方針の策定及び取組の推進・進捗管理に係る体制の整備を進めております。これにより、全社横断的にサステナビリティへの対応を強化しております。

サステナビリティに関する方針の一つとして「品質・環境方針」を定め、当社ホームページにて公開しております。（<https://www.suzuden.co.jp/csr/iso/>）

また、環境への取り組みとして、温室効果ガス排出量（スコープ1およびスコープ2）の把握・開示を行っており、その詳細は当社ホームページにて公開しております。（<https://www.suzuden.co.jp/csr/scope1-2/>）

品質リスク及び環境リスクについては、品質環境部がその防止・予防と発生後の対策を実施しており、大規模な地震、風水害等の不測の自然災害や事故、パンデミック等の不測の事態に対応するため、事業継続マネジメント（BCM）を構築し、影響を最小限に抑えるための体制を整えております。

なお、人的資本・知的財産への投資等やTCFD（気候関連財務情報開示タスクフォース）への対応については、取り組みを開始しており、現時点では開示内容の具体化に向けた検討を進めております。

### (2) 戦略

当社における人材の多様性の確保を含む人材の育成に関する方針及び社内環境整備に関する方針は、以下のとおりであります。

なお、数値につきましては、単体ベースで記載しております。

#### 人材育成方針

当社では、人材の育成は最重要課題として位置付けており、上司・部下双方が共に育つという理念のもと「共育」を実施しております。

具体的には、当社独自のカリキュラムによる「スズデンカレッジ」の充実、通信教育・資格取得の促進、OJT等を通じて、人材の育成を行っております。

中核人材の登用等における多様性の確保について重要性を認識しているとともに、人材の育成が中長期的な企業価値向上に繋がるものと考え、女性・外国人・中途採用者の管理職への登用等で特に制限は設けておりません。

また、女性社員がより働きやすく活躍できる職場を目指した目標設定とポジティブアクションの推進に取り組んでおり、女性活躍推進法に基づく行動計画を定め、「女性係長級以上の人数を12名」を目標に定め取り組んでおり、2026年3月末時点における係長級以上の女性社員は10名であり、社内取締役への女性の登用はありませんが、社外取締役に女性1名を選任しております。

なお、外国人・中途採用者の管理職への登用については、社員に占めるその比率が大きくないため、現時点では測定可能な数値目標を定めるには至っておりません。

今後、引き続き中核人材の登用等における多様性の確保に向けた施策を推進するとともに、測定可能な数値目標についても検討してまいります。

## 社内環境整備方針

男女が共に働きやすい職場環境づくりや地域社会に参加しやすい職場づくりと、ノー残業DAYや連続2日以上有給休暇取得の推進等によるワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）の向上に取り組むとともに、社員の健康診断100%の受診促進と被扶養者の受診促進の支援及び社員の就業時間内禁煙の徹底等を行い、「働き方改革」と「健康経営」を推進しております。

当社は、健康保険組合連合会東京連合会より健康優良企業として「銀の認定」を取得しております。

また、育児休業及び介護休業を取得しやすく、職場復帰しやすい環境の整備のため以下を行っております。

- ・産休・育休前に制度や当社規程・申請方法などの事前説明会を実施
- ・産休・育休後に業務復帰前に研修を実施
- ・介護が必要な家族の有無について適宜確認を行い、介護休暇制度の説明及び取得意思の確認を実施
- ・その他、社内通達やポスター掲示による社内周知の実施

なお、これらの取り組みは「育児休業、介護休業等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律」の規程に基づき実施しており、社員が安心して育児及び家族介護と仕事を両立できるよう、社内環境の整備に努めております。

## (3) リスク管理

当社グループにおいて、全社的なリスク管理は、コンプライアンス体制の整備と強化により管理しております。

サステナビリティに係るリスクについては、ISO9001・ISO14001に基づくマネジメントシステムに則ってリスクの現実化を予防するための管理を行うとともに、現実化したリスクに基づき損失が発生した場合には、損失を最小限度に留めるために必要な対応を行っております。

毎月、経営者主催によるマネジメントレビューを開催し、当社のISO9001の品質マネジメントシステム及びISO14001の環境マネジメントシステムの両面を通じて、内部統制を含めた執行状況を把握し、適時開示に該当する発生事実を必要に応じて速やかに開示できる体制をとっております。

## (4) 指標及び目標

当社では、上記「(2) 戦略」において記載した方針に取り組むべく、女性活躍推進法における一般事業主行動計画を策定しており、具体的な取り組みが行われているものの、本報告書提出日現在においては、当該指標についての目標は設定しておりません。測定可能な数値目標設定につきましては、引き続き重要な経営課題であると認識しており、早期に対応できるよう取り組んでまいります。

また、関連する実績については以下のとおりとなっております。

なお、数値につきましては、単体ベースで記載しております。

指標	実績（当事業年度）	前事業年度
管理職に占める女性労働者の割合（注1）	7.0%	11.9%
係長級にある者に占める女性労働者の割合（注2）	21.7%	
女性労働者の育児休業取得率	100.0%	100.0%
男性労働者の育児休業取得率	100.0%	50.0%
労働者の男女の賃金の差異	64.6%	65.7%
連続2日以上有給休暇取得状況	100.0%	99.7%

- (注) 1. 管理職に占める女性社員の割合は7.0%と低く、男女の賃金格差が生じる一因となっております。当事業年度においては、女性管理職のうち2名を執行役員に登用いたしました。これにより、当該2名が管理職の集計対象から外れたことも影響し、女性の賃金割合は前事業年度と比較して低下しております。当社では、女性活躍推進の取り組みとして、キャリア支援及びマネジメント支援等を実施しており、今後においても、これらの取り組みを継続し、女性活躍の推進を図ってまいります。
2. 係長級にある者に占める女性労働者の割合については、当事業年度より算出しておりますため、前事業年度の数値は記載しておりません。

### 3 【事業等のリスク】

当社グループの事業その他に関するリスクについて、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性があると考えられる主な事項を記載しております。また、必ずしもそのようなリスク要因に該当しない事項についても、投資者の投資判断上、重要であると考えられる事項については、投資者に対する積極的な情報開示の観点から以下に開示しております。ただし全てのリスクを網羅しているわけではありません。

なお、当社グループは、これらのリスク発生の可能性を認識した上で、発生の回避及び発生した場合の対応に努める所存であります。

本項においては、将来に関する事項が含まれておりますが、当該事項は有価証券報告書提出日現在において判断したものであります。

#### 経営成績の変動に関するリスク

当社グループが取扱うF A 機器及び電子・デバイス機器分野の商品は、電気機器・機械メーカー等の生産設備に使用される制御部品・機器、また生産される製品に組み込まれる電気部品、電子・デバイス機器等が中心であります。これらの商品の販売動向は、民間設備投資や半導体製造装置関連産業等の電気機器メーカー及び機械メーカーの需要動向の影響を受けます。

また、当社グループの電設資材分野の商品は、オフィスビル・マンション等に使用される照明器具・電線・配線機器等が中心であり、販売動向は、新規住宅着工、建築設備需要等に影響される傾向があります。

これらのことから、景気低迷等の影響による民間設備投資の低下、電気機器・機械メーカーの需要の落込み及び建設投資・新設住宅着工件数が減少した場合等に経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

#### 規制変更・公的規制に関するリスク

公的規制等が当社グループのビジネスに著しく、あるいは特異な影響を及ぼしていることはありません。しかしながら、環境への配慮が求められる現在、取扱商品の中で環境に影響を及ぼす恐れのある物質を含むものについては、当該商品の取扱いを停止する可能性があります。

また、取扱商品において環境への悪影響が判明した場合、または新たな規制等の対象となった場合に、当該商品の販売の継続が不可能となる可能性があります。

#### 競争激化に関するリスク

当社グループは主力商品であるF A 機器及び電子・デバイス機器関連商品、あるいは電設資材等をはじめ全ての事業分野において、厳しい競争を行う環境にあります。F A 機器及び電子・デバイス機器関連商品においては、F A 機器商社、その他メーカー子会社・販社と、情報・通信機器関連商品においては、情報通信機器商社及び通信販売業者と競合関係にあります。また、電設資材については、電設資材商社との競合関係にあります。

当社グループは競争力強化に努めておりますが、同業他社に対して競争優位を得られない場合、当社グループの事業、業績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

#### 商品の欠陥に関するリスク

当社グループの取扱商品に欠陥があった場合、原則としてメーカーが欠陥の原因調査、当該商品の引取り及び代替品の提供を行うことになっております。

しかし、当社グループが顧客・エンドユーザーより訴訟等の方法で損害賠償請求等を受ける可能性があります。当社はそのような事態に備え、P L 保険に加入しておりますが、P L 保険で補えない場合、あるいはP L 保険によって補える上限額を超える損害賠償請求等を受けた場合、当社グループの経営成績及び財政状態に影響を与える可能性があります。

#### 在庫に関するリスク

当社グループはお客様の利便性と販売機会の損失を考慮し、多品種の商品を取り扱うとともに一定量の在庫を保有しております。急激な環境変化や需要動向等の影響により、滞留在庫となった場合には棚卸資産の評価減等を通じて、当社グループの財政状態や経営成績等に影響を及ぼす可能性があります。

#### 売掛債権の回収に関するリスク

当社グループの取引先の倒産もしくは財政状態の悪化によって、当社グループの売掛債権が遅延または回収不能となる可能性があります。

当社グループは取引先への与信供与にあたり、与信管理規程を基に報告が行われ、かつ見直し等を慎重に実施しておりますが、大幅な景気変動等の理由により大口債権の遅延または回収不能が多発した場合、財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの悪化をまねく可能性があります。

#### 特定仕入先への依存に関するリスク

当社は、主要仕入先であるオムロン株式会社と次の契約を結んでおります。

- ・ F A用コンポーネントをはじめ、各種コントローラ、センシング機器、コントロール機器を取扱う「インダストリアルオートメーションビジネスカンパニー（I A B）」との制御機器販売店認定及び売買取引基本契約。

当該契約が変更及び破棄された場合、一時的に当社グループの経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

#### 感染症及び自然災害等に関するリスク

当社グループの営業・物流等の拠点は、顧客・仕入先との関係や経営資源の有効活用などの点を考慮して立地しておりますが、それらの地域に大規模な地震、風水害等不測の災害や事故が発生した場合、損害が多額になるとともに当該拠点での事業活動が中断し、当社グループの経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

また、新型コロナウイルス感染症等の大流行（パンデミック）により多数の従業員の欠勤や欠勤の長期化によって、当社グループの事業活動が中断し、当社グループの経営成績に影響を及ぼす可能性があります。現在も本社及び物流センターをはじめとした各拠点では、毎日の検温、手指の消毒、飛沫防止パネルの設置等による各種感染防止対策を継続しております。ただし、当社の物流機能の拠点である東京物流センターはワンフロアの環境となっており、感染者が発生した場合には感染が広まり、事業活動に影響を及ぼす可能性があります。

これらに対し、当社グループは、事業継続マネジメント（BCM）の構築により、可能かつ妥当な範囲で対策を講じ、影響を最小限に抑えるための対応の整備を図っております。

#### 特定顧客への依存に関するリスク

当社グループの売上高は、東京エレクトロングループをはじめとした半導体製造装置関連顧客への依存度が高くなっております。そのため、同顧客の設備投資の動向や生産計画の変更等は、当社グループの経営成績及び財政状況等に影響を与える可能性があります。同顧客の生産計画の延期等が発生した場合、納入時期の後倒し等により一時的に在庫金額が増加する可能性があります。当社グループの経営成績及び財政状況等に影響を与える可能性があります。

当社グループは、次世代技術等の発展や普及による半導体製品の需要拡大や高度化といった技術革新に伴う顧客要求事項へ対応するため、特定顧客と緊密な連携を図り、販売体制及び物流・生産体制の強化と拡大に努めるとともに、他業界を含めた新規顧客の獲得を進めることでリスクの低減を図ってまいります。

なお、当連結会計年度の当社の売上高における東京エレクトロングループに対する売上高及び売上構成比は以下のとおりであります。

（単位：千円）

	2026年3月期
連結売上高	45,902,296
東京エレクトロングループに対する売上高	10,201,796
東京エレクトロングループに対する売上構成比	22.2%

（注）上記東京エレクトロングループに対する売上高には、東京エレクトロン宮城株式会社への売上高を含んでおります。

#### 当社グループにおける固定資産の減損に関するリスク

当社グループが業績不振等により固定資産の減損が必要となった場合には、当社グループの財政状況及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

#### 代表者への依存に関するリスク

当社グループの代表取締役会長ＣＥＯである鈴木敏雄氏は、長年にわたり最高経営責任者として、経営方針や事業戦略の決定及びその遂行において極めて重要な役割を果たしております。当社グループでは、取締役会及びその他の会議体において取締役及び執行役員等との情報の共有を図り経営組織の強化と、同氏に過度に依存しない経営体制の整備を進めております。しかしながら、何らかの理由により同氏が当社グループの業務を継続することが困難となった場合、当社グループの事業及び業績に影響を及ぼす可能性があります。

#### 4 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

##### (1) 経営成績等の状況の概要

当連結会計年度における当社グループの財政状態、経営成績及びキャッシュ・フロー（以下、「経営成績等」という。）の状況の概要は次のとおりであります。

##### 財政状態及び経営成績の状況

###### （財政状態）

###### ・資産

当連結会計年度末の総資産は、前連結会計年度末に比べて752百万円減少し、28,351百万円となりました。

流動資産は、前連結会計年度末に比べて439百万円減少し、22,930百万円となりました。

これは主に、売掛金の増加765百万円、現金及び預金の減少1,295百万円によるものであります。

固定資産は、前連結会計年度末に比べて313百万円減少し、5,421百万円となりました。

###### ・負債

当連結会計年度末の負債は、前連結会計年度末に比べて1,183百万円増加し、11,593百万円となりました。

流動負債は、前連結会計年度末に比べて1,415百万円増加し、10,495百万円となりました。

これは主に、支払手形及び買掛金の増加1,490百万円、短期借入金の増加1,000百万円、電子記録債務の減少684百万円、1年内返済予定の長期借入金の減少260百万円によるものであります。

固定負債は、前連結会計年度末に比べて232百万円減少し、1,097百万円となりました。

これは主に、長期借入金の減少176百万円によるものであります。

###### ・純資産

当連結会計年度末の純資産は、前連結会計年度末に比べて1,935百万円減少し、16,758百万円となりました。

これは主に、当連結会計年度の親会社株主に帰属する当期純利益の計上1,722百万円、配当金の支払1,376百万円、自己株式の取得による増加2,332百万円によるものであります。なお、自己資本比率は59.1%となりました。

###### （経営成績）

当連結会計年度（2025年4月1日～2026年3月31日）における当社グループを取り巻く環境は、雇用・所得環境などの改善を背景に景気は緩やかな回復基調で推移いたしました。一方で、不安定な国際情勢を背景とした資源価格の高騰や物価上昇などによる景気への影響懸念など、依然として先行き不透明な状況が続いており、企業の生産活動や設備投資に慎重な姿勢が見られました。

当社グループの業績につきましては、主力販売先である電気機器・電子部品・産業機械業界において、一部の主要顧客では受注環境は緩やかな回復基調で推移したものの、回復時期の遅れや前期の大口案件の反動減なども影響し、売上高は前期を下回る結果となりました。利益面につきましては、DX化や業務の効率化による販売費及び一般管理費の削減に努めましたが、売上高の減少による売上総利益の減少等をカバーするまでには至らず、前期を下回る結果となりました。

以上の結果、当連結会計年度の売上高は45,902百万円（前期比1.6%減）、営業利益は2,072百万円（前期比14.5%減）、経常利益は2,339百万円（前期比12.0%減）、親会社株主に帰属する当期純利益は1,722百万円（前期比3.7%減）と前期に比べ減収減益となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

#### 電機・電子部品販売事業

電機・電子部品販売事業における売上高は45,454百万円（前期比1.8%減）、営業利益は2,087百万円（前期比15.3%減）となりました。

なお、商品分野別の売上高につきましては、次のとおりであります。

##### ・ F A 機器分野

R F I D、グラフィック操作パネル等が増加いたしました。センサー、制御盤等が減少し、売上高は25,078百万円（前期比3.0%減）となりました。

##### ・ 情報・通信機器分野

O A アクセサリー、産業用パソコン等が減少いたしました。ネットワーク機器、システムラック等が増加し、売上高は4,320百万円（前期比0.3%増）となりました。

##### ・ 電子・デバイス機器分野

コネクター全般、電池関連商品等が増加いたしました。基板、スイッチング電源等が減少し、売上高は5,389百万円（前期比12.7%減）となりました。

##### ・ 電設資材分野

受変電設備、ボックス等が減少いたしました。端子台、電線ケーブル等が増加し、売上高は10,666百万円（前期比7.3%増）となりました。

#### 製造事業

製造事業における売上高は448百万円(前期比22.5%増)、営業損失は15百万円(前期は営業損失39百万円)となりました。

キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末から1,295百万円減少し、6,820百万円となりました。当連結会計年度における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

・営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動の結果、資金は1,527百万円の増加となりました。（前連結会計年度における資金は3,944百万円の増加）これは主に、税金等調整前当期純利益2,563百万円、法人税等の支払額976百万円によるものであります。

・投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動の結果、資金は1,982百万円の減少となりました。（前連結会計年度における資金は30百万円の減少）これは主に、連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出2,298百万円によるものであります。

・財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動の結果、資金は843百万円の減少となりました。（前連結会計年度における資金は1,960百万円の減少）これは主に、短期借入れによる収入1,000百万円、長期借入金の返済による支出436百万円、配当金の支払額1,381百万円によるものであります。

（参考） キャッシュ・フロー関連指標の推移

	2023年3月期	2024年3月期	2025年3月期	2026年3月期
自己資本比率(%)	55.8	65.3	64.2	59.1
時価ベースの自己資本比率(%)	109.7	107.0	91.2	76.4
キャッシュ・フロー対有利子負債比率(年)	0.9	0.3	0.2	0.9
インタレスト・カバレッジ・レシオ(倍)	201.3	287.2	748.7	174.6

- (注) 1. 各指標は、いずれも連結ベースの財務数値により計算しております。  
2. 株式時価総額は、期末株価終値×期末発行済株式総数(自己株式控除後)により算出しております。  
3. 営業キャッシュ・フローは、連結キャッシュ・フロー計算書の営業活動によるキャッシュ・フローを使用しております。有利子負債は、連結貸借対照表に計上されている負債のうち利子を支払っている全ての負債を対象としております。また、利払いについては、連結キャッシュ・フロー計算書の利息の支払額を使用しております。

仕入、受注及び販売の状況

a. 仕入実績

当連結会計年度の仕入実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	品目名	金額(千円)	前期比(%)
電機・電子部品販売事業	F A 機器	22,087,514	2.0
	情報・通信機器	3,590,483	4.2
	電子・デバイス機器	4,155,541	12.4
	電設資材	8,429,365	8.8
製造事業	その他	312,464	8.1
合計		38,575,369	0.5

(注) 記載金額は千円未満を切捨てて表示しております。

b. 受注実績

当連結会計年度の受注実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	品目名	受注高(千円)	前期比(%)	受注残高(千円)	前期比(%)
電機・電子部品 販売事業	F A 機器	28,069,120	13.6	7,391,899	63.3
	情報・通信機器	4,769,037	13.3	1,379,907	48.3
	電子・デバイス機器	5,541,144	5.7	1,556,112	10.8
	電設資材	11,388,572	16.6	2,055,485	54.6
製造事業	その他	414,205	2.9	36,473	47.3
合計		50,182,080	13.2	12,419,877	50.3

(注) 記載金額は千円未満を切捨てて表示しております。

c. 販売実績

当連結会計年度の販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

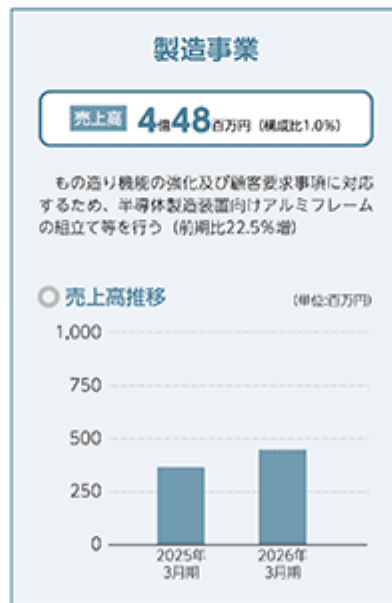
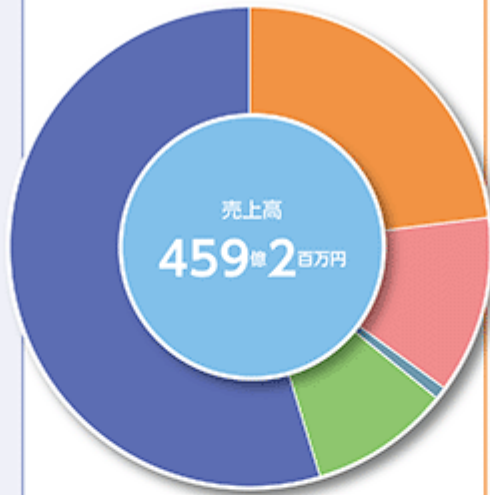
セグメントの名称	品目名	金額(千円)	前期比(%)
電機・電子部品販売事業	F A 機器	25,078,155	3.0
	情報・通信機器	4,320,558	0.3
	電子・デバイス機器	5,389,404	12.7
	電設資材	10,666,111	7.3
製造事業	その他	448,066	22.5
合計		45,902,296	1.6

(注) 記載金額は千円未満を切捨てて表示しております。

d. 主な相手先別の販売実績及び総販売実績に対する割合

相手先	前連結会計年度		当連結会計年度	
	金額(千円)	割合(%)	金額(千円)	割合(%)
東京エレクトロン宮城株式会社	6,065,923	13.0	4,655,158	10.1

(ご参考) 事業 / 分野別の状況



(2) 経営者の視点による経営成績等の状況に関する分析・検討内容

経営者の視点による当社グループの経営成績等の状況に関する認識及び分析・検討内容は次のとおりであります。  
 なお、文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において判断したものであります。

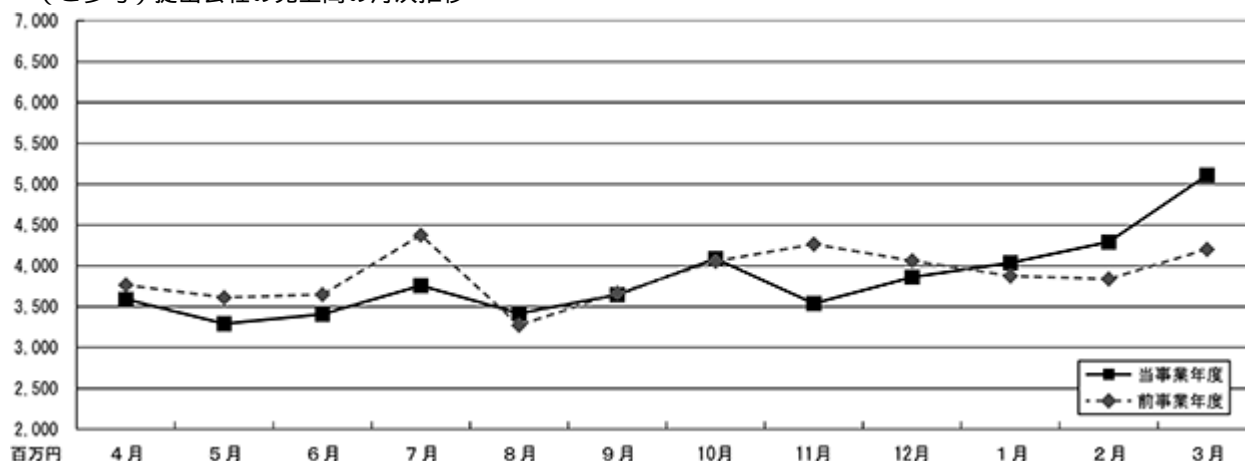
財政状態及び経営成績の状況に関する認識及び分析・検討内容

(経営成績等の状況)

当社グループの当連結会計年度の経営成績は、売上高が、45,902百万円（前期比1.6%減）となりました。詳細につきましては、「第2 事業の状況」「4 経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析

(1) 経営成績等の状況の概要 財政状態及び経営成績の状況」をご参照ください。

(ご参考) 提出会社の売上高の月次推移



売上総利益は、売上高の減少に伴い17,475百万円（前期比4.2%減）となり、前期に比べ331百万円減少いたしました。

販売費及び一般管理費は、前期に比べ19百万円増加いたしました。これは給与手当の増加が主な要因と認識しております。

以上の結果、営業利益は2,072百万円（前期比14.5%減）となり、前期に比べ351百万円減少いたしました。

経常利益は2,339百万円（前期比12.0%減）となり、前期に比べ319百万円減少いたしました。

親会社株主に帰属する当期純利益は、法人税等840百万円を計上した結果、1,722百万円（前期比3.7%減）となり、前期に比べ67百万円減少いたしました。

財政状態については、子会社株式の取得に伴う、現金及び預金の減少等がありましたが、適切な範囲内での推移と認識しております。なお、自己資本比率は59.1%となっております。

(経営上の目標の達成状況を判断するための客観的な指標等)

効率化経営と自己資本の効率的活用による収益性を重視する観点から自己資本利益率（ROE）を経営指標としており、向上に向けた取り組みを行っております。

当連結会計年度につきましては、売上高の減少に伴う売上総利益の減少により経常利益が減少いたしました。自己株式の取得により自己資本が減少した結果、自己資本利益率（ROE）は、前期に比べ0.1%増加し9.7%となりました。

今後も自己資本利益率（ROE）8.0%以上を継続出来るよう様々な施策を実施してまいります。

(経営成績に重要な影響を与える要因)

当社グループは、企業価値向上を目指す経営戦略を基本として、「もの造りサポーターティングカンパニー」として、もの造りの現場(工場などの生産現場・建築現場等)への設備・機器・部品・サービス等の供給とサポートを行うことで収益を拡大し、企業価値を高めることを中長期的な会社の経営戦略として掲げております。詳細につきましては、「2 事業の状況」「1 経営方針、経営環境及び対処すべき課題等(5) 中長期的な会社の経営戦略」をご参照ください。

当社グループの経営成績に重要な影響を与える要因は、海外及び日本の経済状況を背景とした生産・設備投資の動向と認識しております。特に半導体・液晶製造装置関連顧客の生産・設備投資の動向は、大きな要因であると認識しております。

なお、「第2 事業の状況」「3 事業等のリスク」に記載した項目に対しては、以下のような対応を行っております。

a. 経営成績の変動に関するリスク

新規顧客の獲得及び商材の拡大への恒常的な取り組みや新分野・新業界への取り組みを強力に推し進めることで需要減の影響を最小限に抑え、安定的な収益の確保に努めております。

b. 規制変更・公的規制に関するリスク

取扱商品の環境物質管理に関しては、品質環境部が仕入先・メーカーと緊密な連携を取り、顧客へ情報提供する事によって、環境へ悪影響を及ぼすことの無いよう努めております。

c. 競争激化に関するリスク

同業他社との差別化を図るべく、ISO9001に基づいた品質マネジメントシステムの推進による業務品質の向上に加え、在庫の拡充及び物流システムの強化による安定した納品体制の構築や、「もの造り」拠点である大和工場(宮城県黒川郡)及び松本ユーボン工場(長野県松本市)にて更なる高付加価値製品の提供とお客様の要求に対応できる体制を作り、当社の競争力強化に努めております。

d. 商品の欠陥に関するリスク

当社グループの取扱商品に欠陥があった場合、早急に仕入先・メーカー・顧客と緊密な連携を取り、原因の追究、対応策の早期構築を行うことによって、欠陥による損害賠償等による影響を最小限に留めるよう努めております。

e. 在庫に関するリスク

当社グループでは、適正在庫水準の維持を図るべく、一定期間受注のない商品や過剰な量の商品について定期的に把握し、見直すことで、在庫の圧縮に努めております。

また、仕入先との連携強化による生産リードタイム情報、お客様の生産計画情報の収集等により過剰在庫や機会損失防止に努めております。

f. 売掛債権劣化の可能性に関するリスク

当社グループは、通常の営業活動での顧客状況の確認や外部データを参考とした与信調整に加え、半期に1度、執行役員全員の協議によって債権状況の確認と適正な与信が確保されているか検証を行い、債権保全に努めております。

また、保証ファクタリングを有効に活用し、損失を最小限に留めるよう努めております。

g. 特定仕入先への依存に関するリスク

主要仕入先であるオムロン株式会社とは、各層で緊密にコミュニケーションをとり、売上を拡大する事によって、両社の収益を拡大し、今後も良好な関係が継続するよう努めております。

h. 感染症及び自然災害等に関するリスク

パンデミック及び自然災害等の不測の事態に備えて、事業継続マネジメント（BCM）並びに事業継続計画（BCP）を常に見直し、現状に合った可能かつ妥当な範囲で対策を講じ、影響を最小限に抑えるための対応の整備に努めております。

i. 特定顧客への依存に関するリスク

当社グループでは、特定顧客との緊密な連携を維持継続させ、顧客要求事項へ対応することにより競合他社との差別化を図るとともに、市場環境の変化を常に注視し、他業界を含めた新規顧客の獲得を進めるなど可能な限り顧客の分散化を図ることで、経営成績への影響を最小限に抑えるよう努めております。

j. 当社グループにおける固定資産の減損に関するリスク

当社グループの事業計画に対する進捗状況について月次報告会等で状況を把握することにより、早期の把握と対応を検討できる体制に努めております。

k. 代表者への依存に関するリスク

当社グループは、後継者育成計画（サクセッションプラン）を策定し、同プランに基づいた人材育成を進めるとともに、取締役会及び独立社外取締役が過半数を占める指名報酬委員会にて定期的な執行報告、面談等を実施し後継者育成に努めております。

キャッシュ・フローの状況の分析・検討内容及び資本の財源及び資金の流動性に係る情報

当社グループの当連結会計年度のキャッシュ・フローの状況の分析・検討内容は、「（1）経営成績等の状況の概要 キャッシュ・フローの状況」に含めて記載しております。

当社グループの資本の財源及び資金の流動性については、現金・預金の適正水準は、月商のほぼ1か月程度と考えております。これは、月商1か月の現金・預金を保有していることで常に仕入債務、給料をはじめとした諸経費等の支払が可能な状態を保つことができるためであります。当連結会計年度では、適正な水準を維持できたと認識しております。

当社グループの資金調達目的は、大きく分けてIT投資を中心とした設備投資資金と運転資金調達となっております。当社グループでは、総資産のスリム化を基本方針とした運営を行っており、資金繰りについても、営業活動によるキャッシュ・フローにより賄うことを目指しております。この方針に基づき営業所展開も賃貸を中心に行うなど、費用を各期中で処理するようにしております。運転資金については、粗利益の確保、債権回収の迅速化、及び棚卸資産の適正水準の維持により、不足のないように運営しております。子会社についても、グループ内での資金調達を基本としております。

当社グループは、外部からの資金調達については銀行借入れを中心に行っております。また、緊急の支出に対応する方法として、通常の銀行借入とは別に株式会社三菱UFJ銀行、株式会社みずほ銀行と総額53億円の当座貸越契約及びコミットメントライン契約を締結しております。当連結会計年度においては、コミットメントライン契約による借入10億円を調達しております。

重要な会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定

当社グループの連結財務諸表は、わが国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて作成されております。この連結財務諸表の作成にあたっては、当連結会計年度における財務状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に影響を与えるような見積り、予測を必要としております。当社グループは、過去の実績値や状況を踏まえ合理的と判断される前提に基づき、継続的に見積り、予測を行っております。そのため実際の結果は、見積り特有の不確実性があるため、これらの見積りと異なる場合があります。

連結財務諸表の作成に当たって用いた会計上の見積り及び仮定のうち、重要なものは「第5 経理の状況 (1)連結財務諸表 注記事項 (重要な会計上の見積り)」に記載のとおりであります。

## 5 【重要な契約等】

(提出会社)

主な代理店契約は、次のとおりであります。

相手先	契約締結年月日	主要取扱品目	契約期間	契約内容
オムロン株式会社 インダストリアル オートメーションビ ジネスカンパニー (IAB)	2010年4月1日	PLC・スイッチ・センサ・リレー・ タイマ・温度調節器・視覚認識装 置・メカトロニクス関連機器、オ ンボード関連商品	2025年4月1日～ 2026年3月31日 (毎年度更新中)	販売店 (注1)
パナソニック株式会 社エレクトリック ワークス社	2012年4月1日	照明器具・配線器具・分電盤・配 電盤	2025年4月1日～ 2026年3月31日 (毎年度更新中)	代理店 (注2)
日東工業株式会社	1954年4月1日	受変電設備機器・分電盤・配電 盤・ボックス・システムラック	2025年4月1日～ 2026年3月31日 (毎年度更新中)	代理店

(注) 1. 1957年7月1日に立石電機株式会社(現：オムロン株式会社)と特約店契約を締結し、2010年4月1日より、上記契約内容に変更となっております。

2. 1963年12月1日に松下電工株式会社(現：パナソニック株式会社)と代理店契約を締結し、2012年4月1日より、上記契約内容に変更となっております。

## 6 【研究開発活動】

該当事項はありません。

### 第3 【設備の状況】

#### 1 【設備投資等の概要】

当連結会計年度において実施した設備投資の総額は、16百万円となりました。  
これは主に、Web通販サイトのリニューアル費用7百万円によるものであります。  
なお、上記設備投資の総額には、無形固定資産への投資額を含めて記載しております。

#### 2 【主要な設備の状況】

##### (1) 提出会社

事業所名 (所在地)	セグメントの 名称	設備の内容	帳簿価額(千円)						従業員数 (名)
			建物 及び構築物	機械及び装置 及び運搬具	土地 (面積㎡)	リース資産	その他	合計	
本社 (東京都千代田区)	電機電子部 品販売事業 ・製造事業	営業所・全社 管理	64,359	0	- (-)	1,808	17,851	84,020	169(40)
松本事業所 (長野県松本市)	電機電子部 品販売事業	工場・営業所	296,313	0	83,528 (1,593.00)	-	5,298	385,141	14(7)
多摩事務所 (東京都町田市)	電機電子部 品販売事業 ・製造事業	文書保管庫	7,675	-	73,026 (770.31)	-	0	80,702	-(-)
松戸事業所 (千葉県松戸市)	同上	物流センター ・事務所	775,457	2,710	1,413,743 (8,103.43)	41,668	26,595	2,260,175	41(68)
大和事業所 (宮城県黒川郡大 和町)	同上	工場・営業所 ・物流セン ター	1,028,004	289	263,194 (12,573.00)	2,701	5,307	1,299,497	28(7)
その他の営業所 13件	電機電子部 品販売事業	営業所	627	-	- (-)	-	720	1,347	55(16)
BELL ALC ASAまほろば (社宅) (宮城県黒川郡大 和町)	-	社員用社宅	82,086	-	76,000 (1,887.74)	-	-	158,087	-

- (注) 1. 帳簿価額のうち「その他」は、工具、器具及び備品の合計額であります。  
2. 上記のほか建物(主に本社事務所)、工具、器具及び備品(事務機器)及び車両運搬具を賃借しており、オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料が281,988千円あります。  
3. 従業員数欄の(外書)は、臨時従業員の年間平均雇用人員であります。

##### (2) 国内子会社

記載すべき主要な設備はありません。

#### 3 【設備の新設、除却等の計画】

##### (1) 重要な設備の新設等

該当事項はありません。

##### (2) 重要な設備の除却等

該当事項はありません。

## 第4 【提出会社の状況】

### 1 【株式等の状況】

#### (1) 【株式の総数等】

##### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	47,590,000
計	47,590,000

##### 【発行済株式】

種類	事業年度末現在 発行数(株) (2026年3月31日)	提出日現在 発行数(株) (2026年6月22日)	上場金融商品取引所名又は登録 認可金融商品取引業協会名	内容
普通株式	13,282,000	13,282,000	東京証券取引所 スタンダード市場	1. 完全議決権株式であり、 権利内容に何ら限定の ない当社における標準と なる株式 2. 単元株式数は100株
計	13,282,000	13,282,000		

#### (2) 【新株予約権等の状況】

##### 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

##### 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

#### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

#### (4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
2026年1月5日	1,370,600	13,282,000		1,819,230		1,527,493

(注) 自己株式の消却による減少であります。

(5) 【所有者別状況】

2026年3月31日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数100株)								単元未満株式の状況(株)
	政府及び地方公共団体	金融機関	金融商品取引業者	その他の法人	外国法人等		個人その他	計	
					個人以外	個人			
株主数(人)		11	22	113	48	23	11,729	11,946	
所有株式数(単元)		17,019	1,939	30,247	1,407	73	81,957	132,642	17,800
所有株式数の割合(%)		12.83	1.46	22.80	1.06	0.06	61.79	100.00	

- (注) 1. 自己株式380,007株は、「個人その他」に3,800単元、「単元未満株式の状況」に7株含まれております。  
 なお、当該自己株式には、「株式給付信託(BBT)」の信託財産として株式会社日本カストディ銀行(信託E口)が所有する当社株式221,528株は含まれておりません。
2. 「その他の法人」の欄には、株式会社証券保管振替機構名義の株式が10単元含まれております。

(6) 【大株主の状況】

2026年3月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数(千株)	発行済株式(自己株式を除く。)の総数に対する所有株式数の割合(%)
株式会社トレンド	東京都千代田区神田淡路町1丁目3-1	1,446	11.21
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	東京都港区赤坂1丁目8番1号	1,055	8.18
株式会社ターツ	東京都千代田区神田淡路町1丁目3-1	512	3.97
鈴木敏雄	東京都目黒区	426	3.30
岡野妙子	埼玉県新座市	399	3.10
鈴木達夫	東京都世田谷区	351	2.72
株式会社サンセイテクノス	大阪府大阪市淀川区西三国1丁目1-1	323	2.50
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	東京都中央区晴海1丁目8-12	282	2.19
株式会社日本カストディ銀行(信託E口)	東京都中央区晴海1丁目8-12	221	1.72
岡野淳志	埼玉県ふじみ野市	192	1.49
計		5,210	40.38

- (注) 1. 当社は自己株式380千株を保有しておりますが、上記の大株主から除いております。
2. 当社は「株式給付信託(BBT)」を導入しており、株式会社日本カストディ銀行(信託E口)が当社株式221千株を取得しておりますが、自己株式に含めておりません。

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

2026年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 380,000		1. 権利内容に何ら限定のない 当社における標準となる株式 2. 単元株式数は100株
完全議決権株式(その他)	普通株式 12,884,200	128,842	同上
単元未満株式	普通株式 17,800		1 単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	13,282,000		
総株主の議決権		128,842	

(注) 1. 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、株式会社証券保管振替機構名義の株式が1,000株含まれております。

また、「議決権の数」欄には、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数10個が含まれております。

2. 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式が7株含まれております。

3. 株式会社日本カストディ銀行(信託E口)が所有する当社株式221,528株(議決権の数2,215個)につきましては、「完全議決権株式(その他)」に含めて表示しております。

【自己株式等】

2026年3月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) スズデン株式会社	東京都千代田区 外神田二丁目2番3号	380,000		380,000	2.86
計		380,000		380,000	2.86

(注) 株式会社日本カストディ銀行(信託E口)が所有する当社株式221,528株(1.67%)は、上記自己株式に含めておりません。

(8)【役員・従業員株式所有制度の内容】

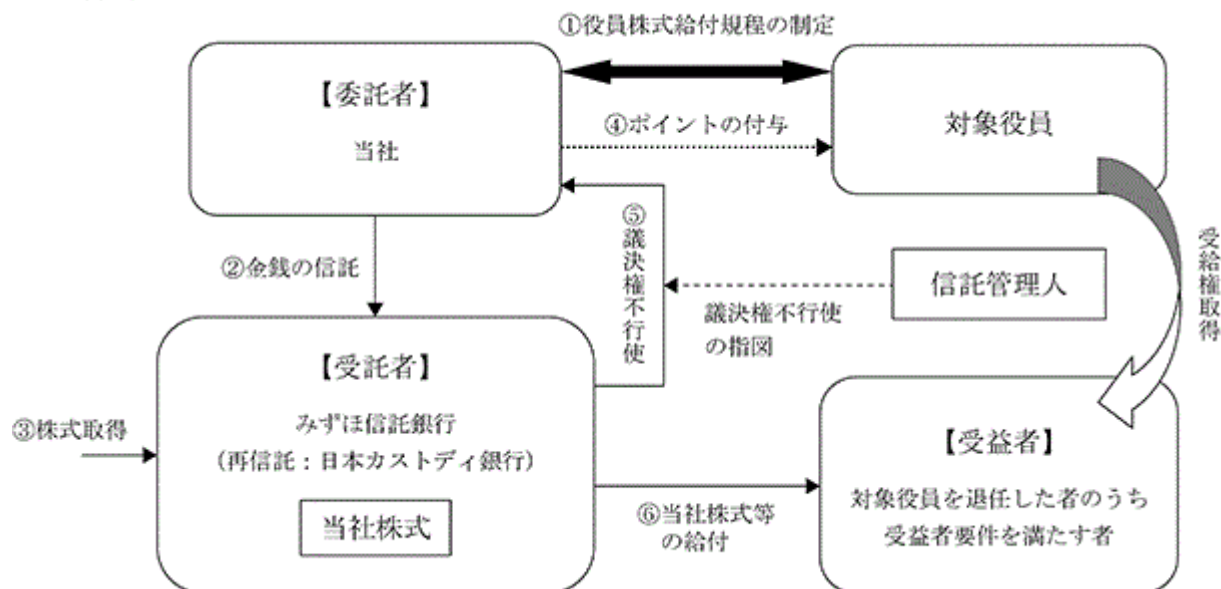
当社は、2016年4月18日開催の取締役会において、役員報酬制度の見直しを行い、2016年6月24日開催の第64回定時株主総会において、取締役（監査等委員である取締役と社外取締役を除きます。以下、「対象取締役」といいます。）及び執行役員（以下、対象取締役及び執行役員を総称して「対象役員」といいます。）に対する新たな株式報酬制度「株式給付信託（BBT（=Board Benefit Trust）」）（以下、「本制度」といいます。）を導入することを決議いたしました。また、会社法の一部を改正する法律（令和元年法律第70号）が2021年3月1日に施行されたことに伴い、2021年6月25日開催の第69回定時株主総会において、本制度の継続につき改めてご承認をいただき、2024年6月24日開催の第72回定時株主総会において、本制度の見直しについてご承認いただきました。

1. 本制度の概要

当社取締役会は、対象役員の報酬と当社の業績及び株式価値との連動性をより明確にし、対象役員が株価上昇によるメリットのみならず、株価下落リスクまでも株主の皆様と共有することで、中長期的な業績の向上と企業価値の増大に貢献する意識を高めることを目的として、本制度を導入いたしました。

本制度は、当社が拠出する金銭を原資として当社株式が信託（以下、本制度に基づき設定される信託を「本信託」といいます。）を通じて取得され、対象役員に対して、当社が定める役員株式給付規程に従って、当社株式及び当社株式を時価で換算した金額相当の金銭（以下「当社株式等」といいます。）が本信託を通じて給付される業績連動型株式報酬制度です。なお、対象役員が当社株式等の給付を受ける時期は、原則として対象役員の退任時とします。

<本制度の仕組み>



当社は、第72回定時株主総会において、本制度について役員報酬の決議を得て、同株主総会で承認を受けた枠組みの範囲内において、役員株式給付規程を制定いたしました。

当社は、の株主総会決議で承認を受けた範囲内で金銭を信託します。

本信託は、で信託された金銭を原資として当社株式を、取引市場を通じて又は当社の自己株式処分を引き受ける方法により取得します。

当社は、役員株式給付規程に基づき対象役員にポイントを付与します。

本信託は、当社から独立した信託管理人の指図に従い、本信託勘定内の当社株式に係る議決権を行使しないこととします。

本信託は、対象役員を退任した者のうち役員株式給付規程に定める受益者要件を満たした者（以下「受益者」といいます。）に対して、当該受益者に付与されたポイント数に応じた当社株式を給付します。ただし、対象役員が役員株式給付規程に定める要件を満たす場合には、ポイントの一定割合について、当社株式の時価相当の金銭を給付します。

## 信託の概要

名称：株式給付信託（BBT）

委託者：当社

受託者：みずほ信託銀行株式会社

みずほ信託銀行株式会社は、資産管理サービス信託銀行株式会社(現 株式会社日本カストディ銀行)と包括信託契約を締結し、資産管理サービス信託銀行株式会社は再信託受託者となります。

受益者：対象役員を退任した者のうち役員株式給付規程に定める受益者要件を満たす者

信託管理人：当社と利害関係のない第三者（弁護士）

信託の種類：金銭信託以外の金銭の信託（他益信託）

本信託契約の締結日：2016年8月31日

金銭を信託する日：2016年8月31日

信託の期間：2016年8月31日から信託が終了するまで

（特定の終了期日は定めず、本制度が継続する限り信託は継続します。）

## 2. 株式給付信託（BBT）に拠出した株式

2016年8月31日付

自己株式126,000株（115,920千円）を資産管理サービス信託銀行株式会社（信託E口）（現 株式会社日本カストディ銀行）に拠出

2024年11月18日付

自己株式140,000株（250,180千円）を株式会社日本カストディ銀行（信託E口）に拠出

## 2 【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 会社法第155条第11号及び会社法第155条第13号による普通株式の取得

### (1) 【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

### (2) 【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

### (3) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

会社法第155条第11号による普通株式の取得

区分	株式数(株)	価額の総額(千円)
当事業年度における取得自己株式	1,370,600	2,332,761
当期間における取得自己株式	-	-

(注) 2026年1月1日付でベル株式会社を吸収合併したことにより、同社が保有していた当社株式を承継したものであります。

会社法第155条第13号による普通株式の取得

区分	株式数(株)	価額の総額(千円)
当事業年度における取得自己株式	1,600	-
当期間における取得自己株式	-	-

(注) 1. 当事業年度及び当期間における取得自己株式は、譲渡制限付株式の無償取得によるものであります。

2. 当期間における取得自己株式には、2026年6月1日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取り及び譲渡制限付株式の無償取得による株式数は含めておりません。

### (4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額(千円)	株式数(株)	処分価額の総額(千円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式	-	-	-	-
消却の処分を行った取得自己株式	1,370,600	2,076,365	-	-
合併、株式交換、株式交付、会社分割に係る移転を行った取得自己株式	-	-	-	-
その他 (譲渡制限付株式報酬による自己株式の処分)	12,300	10,325	-	-
保有自己株式数	380,007	-	380,007	-

(注) 1. 当事業年度及び当期間の保有自己株式数には、「株式給付信託(BBT)」の信託財産として株式会社日本カストディ銀行(信託E口)が所有する当社株式221,528株は含めておりません。

2. 当期間における保有自己株式数には、2026年6月1日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式数は含めておりません。

### 3 【配当政策】

当社は、事業拡大と業績向上を通じて、株主の皆様に対する利益還元を経営の重要課題と位置づけるとともに、財務の健全性を維持しながら、資本効率を高めていく方針です。

配当につきましては、配当性向：80%を配当総額の基準として、各事業年度の利益状況や将来の事業展開等を総合的に勘案し、重点事業の競争力強化を図るための設備投資や人材育成などに向けた内部留保にも考慮しつつ、配当を行うことを基本方針として、中間配当及び期末配当の年2回を基本としております。

内部留保金につきましては、将来の事業発展に必要な不可欠な投資を行うために活用し、中長期的な成長による企業価値の向上を目指してまいります。

当社は、会社法第459条第1項の規定に基づき、取締役会の決議によって剰余金の配当を行うことができる旨及び期末配当、中間配当のほか、基準日を定めて剰余金の配当をすることができる旨を定款に定めております。

また、会社法第454条第5項に規定する中間配当を行うことができる旨を定款に定めております。

当期の期末配当につきましては、記念配当7.50円を加え、1株当たり75.50円といたしました。この結果、2026年3月期の年間配当金は、中間配当金36.00円を加え1株あたり111.50円となります。

第74期の剰余金の配当は以下のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額(千円)	1株当たり配当額(円)
2025年11月4日 取締役会決議	464,050	36.00
2026年5月21日 取締役会決議	974,100	75.50

## 4 【コーポレート・ガバナンスの状況等】

### (1) 【コーポレート・ガバナンスの概要】

コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

当社は、コーポレート・ガバナンスが有効に機能するうえで、株主の権利・利益が守られ、平等に保障されることが重要であり、全てのステークホルダーの権利・利益の尊重と円滑な関係の構築が企業価値向上には欠かせないものと認識しております。

当社は、コーポレート・ガバナンスを強化することを目的に2003年4月より経営と執行を分離した執行役員制度を導入しております。

当社は、2016年6月24日開催の第64回定時株主総会において必要な定款変更等をご決議いただき、「監査役設置会社」から「監査等委員会設置会社」に移行しました。

また当社は、コーポレート・ガバナンスの充実を図ることを目的に2018年12月より取締役会の公正性・透明性・客観性を担保する諮問機関として「ガバナンス委員会」を設置し、2019年12月に名称を「指名報酬委員会」に改称し設置運営しております。

当社は、企業価値向上のために「戦略創出」「業務執行」「執行の監督」により経営を統治するガバナンスの機能として主な役割を次のように考えております。

(1)取締役は、中長期的な戦略創出及び業務執行の監督を主として担う

(2)執行役員は、業務執行の責任を負い業績向上及び業務管理を担う

(3)監査等委員会は、取締役の職務の執行の監査及び株主総会における意見陳述を担う

(4)指名報酬委員会は、取締役（監査等委員である取締役を除く）の指名・報酬等に関する事項に関して審議を行い意見陳述を担う

当社は、これら4つの機能でガバナンスを形成し、企業価値を向上させることにより、全てのステークホルダーの権利・利益の尊重が実現できると考えております。

また、適時・適切な情報開示と株主をはじめとしたステークホルダーと積極的な対話を促進することによって、企業活動の説明責任と透明性を確保することが、ガバナンスの強化につながるものと考えております。

#### 企業統治の体制の概要及び当該体制を採用する理由

当社は、前述したとおり監査等委員会設置会社となり、会社法に規定する株主総会、取締役会及び監査等委員会を設置しております。取締役会と監査等委員会によって業務執行の監督及び監査を行っており、取締役会は提出日現在において、業務執行取締役3名、非業務執行取締役5名（内、社外取締役3名）の合計8名で構成されております。そのうち監査等委員である取締役は3名であります。また、社外取締役3名のうち監査等委員でない社外取締役1名、監査等委員である社外取締役は2名であります。

常勤監査等委員は、社内業務全般に精通し、業務執行の遵法監査に加え、取締役会、執行役員会等の重要な会議に出席し、意思決定の過程及び業務の執行状況を監査しております。また、定期的な監査によって稟議書その他業務執行に関する重要な文書を開覧し、必要に応じて取締役または使用人にその説明を求め、監査を行っております。

社外取締役は、独立した立場として取締役会に出席し、客観的な立場で、経営者としての豊富な経験や会計・税務等の専門的見地から積極的な意見具申を行っており、専門的な知見と広い視野から、株主の立場に立って経営への参画を行っているものと認識しております。

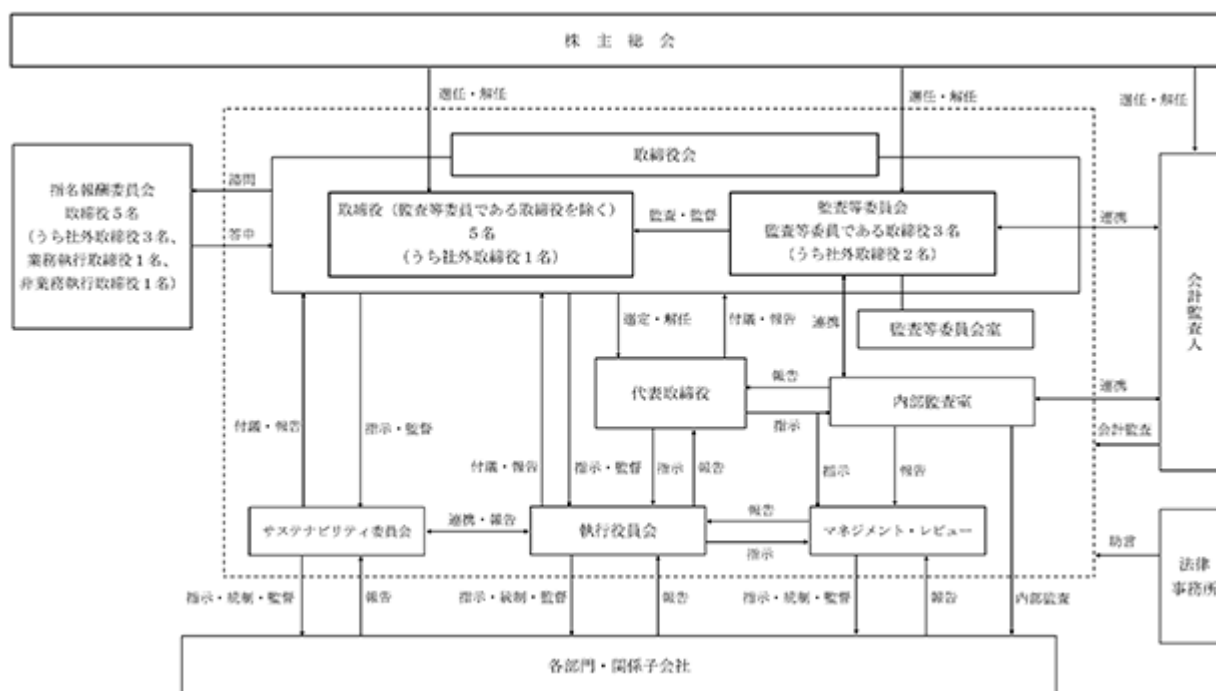
加えて、任意の諮問機関として設置している「指名報酬委員会」では、経営の透明性・客観性を高める観点から、取締役（監査等委員である取締役を除く）の選任及び解任に関する事項、取締役（監査等委員である取締役を除く）の報酬に関する事項、その他取締役会における意思決定の公正性を担保するため、取締役会が諮問する事項に関して審議を行い、取締役会へ答申しております。

提出日現在における体制は、委員長：1名（独立社外取締役）、委員：4名（内、独立社外取締役2名）であります。

以上、業務執行に対する取締役会の監督と監査等委員会による監査及び指名報酬委員会による意思決定プロセスの透明性担保により、実効性の高い企業統治が実現できると判断し、現状の体制を採用しております。

なお、2015年6月1日より適用されたコーポレートガバナンス・コードへは、当社の状況と今後の構想を踏まえ、たうえで、コーポレート・ガバナンスが最も有効に機能する形態を検討し対応しております。

(当社のコーポレート・ガバナンス体制) [2026年6月22日提出日現在]



(注) マネジメント・レビュー (MR) は、経営者が主催し、原則月1回開催する。

MRでは、品質マネジメントシステム (ISO9001) 及び環境マネジメントシステム (ISO14001) が効果的に運用されているかを評価して、変更の必要性の有無を検討する。

MRでは、以下の項目について報告され、検討される。

- ・ 内部監査の結果及び外部審査機関の監査結果
- ・ 顧客等の外部利害関係者からのクレーム、要求事項
- ・ 法的要求事項の遵守評価及び変化の状況
- ・ 業務の実施状況及び適合性、有効性の評価
- ・ 品質及び環境マネジメントシステムに影響を及ぼす可能性のある事項
- ・ 予防処置及び是正処置
- ・ 内部統制システムの評価及び不備の是正、全社への水平展開

サステナビリティ委員会を2026年3月1日付で設置いたしました。当委員会は、代表取締役社長を委員長とし、全執行役員が委員、品質環境部門、総務部門、経営企画部門が事務局で構成されております。

企業統治に関するその他の事項

・内部統制システムの整備の状況

当社は、取締役会において以下のとおり「内部統制システムの整備に関する基本方針」を決議しております。  
この基本方針については、年1回内容の見直しを実施して取締役会で審議し、必要であれば改訂することとしております。

当社は、会社法に基づき「取締役の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制その他株式会社の業務並びに当該株式会社及びその子会社から成る企業集団の業務の適正を確保するために必要なものとして法務省令で定める体制の整備」に関し以下のとおり定める。

本方針に基づく内部統制システムの構築は、速やかに実行するとともに、不断の見直しを行い、その改善・充実を図る。

1. 取締役及び使用人の職務執行が法令・定款に適合することを確保するための体制

- 1)当社は、役員（取締役、監査等委員である取締役。以下同じ。）及び使用人（執行役員、社員、嘱託、契約社員、派遣社員、その他当社の業務に従事する全ての従業員。以下同じ。）がとるべき行動の規範である社憲、社是、社訓に基づき、職制を通じて適正な業務執行と監督を行うとともに、社内規程に則り適正に職務を執行する。
- 2)当社は、コンプライアンス体制を確立するため、コンプライアンス担当役員を定め、担当部署を通じて教育・研修を実施し、社会から信頼される企業風土を醸成する。
- 3)内部監査部門は、社内規程に基づき業務ラインから独立した立場で定期的に内部監査を行い、月1回開催される経営者主催のマネジメント・レビューにおいて報告し、問題があった場合には対策を講じる。
- 4)当社は、「内部通報規程」「第三者通報規程」を制定し、組織または個人による不正・違法・反倫理的行為等を速やかに認識し対処するとともに通報者に対する不利益な取扱いを防止する。
- 5)当社は、反社会的勢力・団体とは一切関係を持たず、さらに反社会的勢力・団体からの不当要求を拒否し、毅然とした態度で臨む。

2. 取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制

- 1)取締役の職務執行に係る情報については、法令及び社内規程に基づき作成・保存するとともに、取締役、監査等委員である取締役、会計監査人等が閲覧可能な状態にて管理する。
- 2)取締役の職務執行に係る情報の作成・保存・管理状況については、監査等委員である取締役の監査を受ける。

3. 損失の危険の管理に関する規程その他の体制

- 1)品質リスク及び環境リスクについては、ISO9001・ISO14001に基づくマネジメントシステムに則ってリスクの現実化を予防するための管理を行うとともに、現実化したリスクに基づき損失が発生した場合には、損失を最小限度に留めるために必要な対応を行う。
- 2)災害・情報セキュリティに係るリスク等、事業継続を阻害するリスクについては、早期に事業継続マネジメント（BCM：Business Continuity Management）を構築してリスクの現実化を阻止するとともに、現実化したリスクに基づき損失が発生した場合には、損失を最小限度に留めるために必要な体制を整える。

4. 取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

- 1)当社は、経営と業務執行の分離及び責任と権限の明確化を図る観点から、執行役員制度を採用する。  
取締役会は、経営戦略の創出及び業務執行の監督という本来の機能に特化し、執行役員が業務執行の責任と業績向上及び業務管理を担う。  
執行役員の職務の担当範囲は取締役会にて定め、その責任と権限を明確にする。
- 2)取締役会は、経営基本方針及び経営目標・予算を策定し、執行役員は、取締役会の策定した経営目標の達成に向けて職務を遂行する。取締役会は、定期的に執行役員の実績管理を行う。

#### 5. 当社及び子会社から成る企業集団における業務の適正を確保するための体制

- 1) 当社は、子会社の業務の適正を確保するため、担当部署に担当役員を配置し、社内規程に基づいて子会社を管理する。担当部署は、子会社の業務の状況を調査し、定期的にその結果を当社の取締役会に報告する。
- 2) 当社の内部監査室は、定期的に子会社の業務を監査し、その結果を当社の代表取締役及び取締役会に報告する。
- 3) 当社は、当社と子会社との取引条件（子会社間の取引条件含む）が、第三者との取引と比較して著しく不利益に、また恣意的にならないよう、必要に応じて会計監査人に確認する。また、子会社との取引を行うにあたっては、書面による契約を締結し、相互の権利・義務を明確にする。
- 4) 子会社の運営については、関係会社管理規程を定める。また、関係会社管理規程には、子会社のリスク管理に係る内容が含まれるものとし、担当役員の下、子会社の管理責任者を定め、同規程によりリスクの管理を行う。
- 5) サステナビリティ課題への対応として、当社及び子会社共通のCSR行動基準及び経営の基本方針の見直しにより、「人権方針」を新たに制定し、法令遵守の意識の醸成を図る。

#### 6. 財務報告の信頼性を確保するための体制

当社は、当企業集団の財務報告の信頼性を確保するため、財務報告に係る内部統制の評価の基準に従い、関連規程等の整備を図るとともに適切に報告する体制を整備し、その体制についての整備・運用状況を定期的・継続的に評価する仕組みを構築する。

#### 7. 監査等委員である取締役がその補助すべき使用人を置くことを求めた場合における当該使用人に関する事項

- 1) 当社は、監査等委員会室を設置して使用人を1名以上配置し、監査業務を補助する。
- 2) 監査等委員である取締役の前「1）」の使用人に対する指示実効性の確保のために、監査等委員である取締役は、監査等委員会室の使用人に対して、指揮命令権を有するものとする。

#### 8. 前号の使用人の取締役からの独立性に関する事項

監査等委員である取締役は、監査等委員会室に属する使用人の人事に関して取締役と意見交換を行うものとし、取締役は、監査等委員である取締役の意見を尊重する。

#### 9. 取締役及び使用人等が監査等委員である取締役に報告するための体制その他の監査等委員である取締役への報告に関する体制

- 1) 取締役、執行役員及び使用人は、監査等委員である取締役の求めに応じて会社の業務執行状況を報告する。また、取締役は、当企業集団に著しい損害を及ぼすおそれのある事実を発見したときは直ちに監査等委員である取締役に報告する。

また、子会社の取締役、執行役員及び使用人から監査等委員である取締役に報告すべき事項として報告を受けた者は、当該報告事項を監査等委員である取締役に対して報告する。

- 2) 前「1）」の報告をした者（監査等委員である取締役に報告すべき事項の報告を行った子会社の取締役、執行役員及び使用人を含む。）が当該報告をしたことを理由として不利な取り扱いを受けないことを確保するための体制として、当社は、内部通報規程を制定している。

#### 10. その他監査等委員である取締役の監査が実効的に行われることを確保するための体制

- 1) 常勤監査等委員である取締役は、取締役会に出席する他、執行役員会に出席し、経営・執行について重要情報の提供を受ける。
- 2) 監査等委員である取締役は、内部監査部門と緊密な関係を保つとともに、必要に応じて自ら監査を実施する。また、監査上の重要課題等について代表取締役社長と意見交換を行う。
- 3) 監査等委員である取締役は、会計監査人と定期的に会合を持ち、意見及び情報の交換を行うとともに、必要に応じて会計監査人に報告を求める。
- 4) 監査等委員である取締役は、必要に応じ子会社の監査を行うことができる。

・内部統制システムの運用状況

コーポレート・ガバナンスの強化・充実を図ることを目的として、次の施策等を実施・定着させており、有効に機能しております。今後も更なるコーポレート・ガバナンスの強化・充実を図るべく、経営管理組織の整備・充実を継続してまいります。

- 1)2003年4月 執行役員制度を導入しました。
- 2)2003年6月 取締役の員数を「10名以内」とする旨を定款に定めました。
- 3)2003年6月 取締役の任期を「1年内」とする旨を定款に定めました。
- 4)2010年3月 独立役員として社外監査役1名を選任しました。
- 5)2010年6月 独立役員として社外取締役1名を新たに選任し、独立役員は2名となりました。
- 6)2014年6月 女性役員として社外監査役1名を新たに選任しました。
- 7)2015年6月 経営体制強化のため、取締役1名を新たに選任し、取締役は6名となりました。
- 8)2016年6月 取締役会の監督機能強化と透明性の高い経営、迅速な意思決定を実現するために「監査等委員会設置会社」に移行しました。  
取締役の員数を「15名以内」とし、うち監査等委員でない取締役は「10名以内」、監査等委員である取締役は「5名以内」とする旨を定款に定めました。  
監査等委員である取締役の任期を「2年内」とする旨を定款に定めました。  
また、独立役員として社外取締役1名を新たに選任し、独立役員は3名となりました。
- 9)2018年6月 独立役員として社外取締役1名を新たに選任し、独立役員は4名となりました。
- 10)2018年12月 取締役の指名・報酬等に関する手続きの公正性・透明性・客観性を強化し、コーポレートガバナンスの充実を図るため、取締役会の諮問機関として「ガバナンス委員会」を設置しました。
- 11)2019年4月 監査等委員会室に使用人1名を配置しました。(2020年6月より使用人は配置しておりません)
- 12)2019年12月 「ガバナンス委員会」を「指名報酬委員会」に改称
- 13)2022年6月 独立役員として社外取締役1名を新たに選任し、独立役員は5名となりました。
- 14)2024年6月 独立役員の社外取締役1名が任期満了に伴い退任し、独立役員は4名となりました。
- 15)2025年6月 独立役員の社外取締役1名が任期満了に伴い退任し、独立役員は3名となりました。

取締役会は、ほぼ毎月開催される定時取締役会のほかに必要に応じて、臨時取締役会を開催しており、当事業年度においては12回開催いたしました。また、執行役員会を32回開催いたしました。執行役員会には、日々変化する経営環境への迅速かつ的確な対応、業績向上への施策検討、重要な情報伝達、リスクの未然防止等のため常勤監査等委員である取締役が出席しており、当社の経営の透明性を高めております。また、毎月1回経営者主催によるマネジメント・レビューを開催し、当社のISO9001の品質マネジメントシステム及びISO14001の環境マネジメントシステムの両面を通じて、内部統制を含めた執行状況の確認、問題解決、改善と改善手法の定着に努めております。

なお、監査等委員会は当事業年度においては8回開催されております。

これら内部統制システムの運用の中で発生した社内外の決定・発生情報は、経営企画部門が一元的に管理し適時・適切な開示を行い、経営の透明性を高めております。

・リスク管理体制の整備状況及び運用状況について

当社は、経営の根幹である社是「誠実」に基づきコンプライアンス体制の整備と強化に取り組み、リスク発生の防止・予防及び法令・企業倫理順守を推進しております。

コンプライアンス担当役員は、リスク発生の防止・予防及び法令・企業倫理順守の観点から、それぞれの組織を通じ対応しております。

具体的には、関連する規程・マニュアルの見直しを随時行い執行役員会やマネジメント・レビュー等を通じて周知徹底を図っております。特にインサイダー取引、ハラスメント、個人情報保護、安全衛生に関わる事項や、社内外で発生する事故、緊急事態の管理体制と教育体制を構築し、発生の防止・予防と迅速な対応、社内への啓発・浸透に努めております。また、品質リスク及び環境リスクについては、品質環境部がその防止・予防と発生後の対策を実施しております。

事故、緊急事態が発生した場合は、総務部門・経営企画部門が情報の収集・管理にあたり、必要に応じて適時・適切に開示する体制をとっております。

重要な法務的課題及びコンプライアンスに係る事象については、法務部が所管し総合法律事務所の顧問弁護士の助言を受けて、必要な検討・措置を実施しております。また、会計監査人とは、経理部門が重要な会計的課題について随時相談、検討を実施しております。

なお、全社員に小冊子「スズデンCSR要綱」を配布し、定期的な研修を行うことによって周知徹底を図っております。

また、大規模な地震、風水害等不測の自然災害や事故、パンデミック等に対応するため、事業継続マネジメント（BCM）を構築し、影響を最小限に抑えるための体制を整えております。

・取締役及び常勤監査等委員である取締役の責任免除

当社は、会社法第426条第1項の規定に基づき、同法第423条第1項に規定する取締役（取締役であった者を含む）及び監査等委員である取締役（監査等委員である取締役であったものを含む）の損害賠償責任を法令の限度額において、取締役会の決議によって免除することが出来る旨、定款に定めております。これは、取締役及び常勤監査等委員である取締役が期待される役割を十分に発揮できるようにすることを目的としております。

・社外取締役の責任免除

当社は、会社法第427条第1項の規定により、社外取締役との間に同法第423条第1項の賠償責任を限定する契約を締結しており、賠償責任の限度額は法令が規定する額としております。

・会計監査人の責任免除

当社は、会社法第427条第1項の規定により、会計監査人との間に同法第423条第1項の賠償責任を限定する契約を締結しており、賠償責任の限度額は法令が規定する額としております。

・役員等賠償責任保険契約

当社は、当社におけるすべての取締役を被保険者とした、改正会社法（2021年3月1日施行）第430条の3に規定する役員等賠償責任保険（D&O保険）契約を保険会社との間で締結しております。

当該契約の内容の概要は、以下のとおりです。

- ・会社の役員としての業務に関する行為または不作為に起因して損害賠償請求がなされたことにより、被保険者が負担することとなった争訟費用及び損害賠償金等を填補の対象としております。
- ・被保険者の職務の執行の適正性が損なわれないようにするための措置として、被保険者による犯罪行為等に起因する損害等については、填補の対象外としております。
- ・当該契約の保険料は全額当社が負担しております。

## 取締役会及び指名報酬委員会の活動状況

## a．取締役会の活動状況

当事業年度において、当社は取締役会を12回開催しており、個々の取締役の出席状況については、次のとおりであります。

役職名	氏名	開催回数	出席回数
代表取締役会長兼社長	鈴木 敏雄	12回	12回
代表取締役専務	高谷 健文	12回	12回
代表取締役専務	安岳 宗吉	12回	12回
取締役	伊藤 義則	12回	12回
取締役	小川 幸二	3回	3回
取締役	藤本 茂樹	12回	11回
取締役常勤監査等委員	山田 雅司	12回	12回
取締役監査等委員	平 真美	12回	12回
取締役監査等委員	中嶋 正博	12回	12回
取締役監査等委員	安藤 真紀	3回	3回

(注) 1．藤本 茂樹、平 真美、中嶋 正博及び安藤 真紀の各氏は、社外取締役であります。  
2．小川 幸二氏及び安藤 真紀氏は、2025年6月25日退任以前の取締役会を対象としております。

取締役会における具体的な検討内容として、法令及び定款、取締役会規程に定められた事項、及び当社グループの重要事項の決定、執行役員の任命、業務執行の監督及び監視等を行いました。

## b．指名報酬委員会の活動状況

当事業年度において、当社は指名報酬委員会を5回開催しており、個々の委員の出席状況については、次のとおりであります。

役職名	氏名	開催回数	出席回数
代表取締役専務	安岳 宗吉	5回	5回
取締役	藤本 茂樹	5回	5回
取締役常勤監査等委員	山田 雅司	5回	5回
取締役監査等委員	平 真美	5回	5回
取締役監査等委員	中嶋 正博	5回	5回

(注) 藤本 茂樹、平 真美及び中嶋 正博の各氏は、社外取締役であります。

指名報酬委員会における具体的な検討内容として、経営の透明性・客観性を高める観点から、取締役（監査等委員である取締役を除く）の選任及び解任に関する事項、取締役（監査等委員である取締役を除く）の報酬に関する事項、その他取締役会における意思決定の公正性を担保するため取締役会が諮問する事項に関して審議を行い、取締役会へ答申を行いました。

#### 取締役の定数、選任・解任の決議要件

当社は、取締役の員数を15名以内（監査等委員でない取締役：10名、監査等委員である取締役：5名）とする旨、定款で定めております。

また、取締役の選任決議は、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨及び選任決議は累積投票によらない旨を定めております。

解任決議については、議決権を行使することができる株主の議決権の過半数を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨を定款に定めております。

#### 自己の株式の取得の決定機関

当社は、会社法第165条第2項の規定に従い、取締役会の決議によって市場取引等により自己の株式を取得することができる旨を定款に定めております。これは、経済環境の変化に対応した機動的な資本政策の遂行を可能とするため、市場取引等により自己の株式を取得することを目的とするものであります。

#### 株主総会の特別決議要件

当社は、会社法第309条第2項に定める株主総会の特別決議要件について、定款に別段の定めがある場合を除き、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨を定款に定めております。これは、株主総会における特別決議の定足数を緩和することにより、株主総会の円滑な運営を行うことを目的とするものであります。

#### 剰余金の配当等の決定機関

当社は、会社法第459条第1項各号に定める剰余金の配当等の事項については、法令に別段の定めがある場合を除き、株主総会の決議によらず取締役会の決議により定める旨を定款に定めております。これは、剰余金の配当等を取締役会の決議とすることにより、株主への機動的な利益還元を行うことを目的とするものであります。

また、会社法第454条第5項の規定により、取締役会の決議によって毎年9月30日を基準日として中間配当を行うことができる旨を定款に定めております。

(2) 【役員の状況】

役員一覧

1. 2026年6月22日（有価証券報告書提出日）現在の当社の役員の状況は、以下のとおりです。

男性7名 女性1名（役員のうち女性の比率12.5%）

役職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (株)
代表取締役 会長 CEO	鈴木 敏 雄	1949年12月28日生	1973年4月 立石電機株式会社（現オムロン株式会社）入社 1977年10月 鈴木電興株式会社（現スズデン株式会社）入社 1982年4月 同社取締役 1986年4月 同社代表取締役社長 1991年4月 当社代表取締役社長 2003年4月 当社執行役員社長 2009年4月 当社代表取締役会長 2012年10月 当社代表取締役会長兼社長執行役員社長 2015年6月 当社代表取締役会長 2020年10月 当社代表取締役会長兼社長 2025年4月 当社代表取締役会長CEO（現任）	(注)4	426,070
代表取締役社長 COO 執行役員社長 営業部門・技術部門管掌	高 谷 健 文	1972年6月20日生	1996年4月 スズデン株式会社入社 2015年2月 当社東京営業部長 2017年11月 当社エネルギーソリューション営業部長 2020年4月 当社執行役員 2020年10月 当社常務執行役員CTO 2021年6月 当社取締役常務執行役員CTO 2022年4月 当社代表取締役専務執行役員CMO・CTO 2025年4月 当社代表取締役社長COO 執行役員社長（現任）	(注)4	12,000
代表取締役専務 専務執行役員 管理部門・IT部門管掌 コンプライアンス担当	安 岳 宗 吉	1975年7月21日生	1998年4月 スズデン株式会社入社 2017年4月 当社iクリエイト部長 2020年4月 当社執行役員 2020年6月 当社取締役 2020年10月 当社代表取締役常務執行役員CFO 2021年6月 当社取締役常務執行役員CFO 2022年4月 当社代表取締役専務 専務執行役員CFO 2025年4月 当社代表取締役専務 専務執行役員（現任）	(注)4	15,100
取締役 常務執行役員 業務部門管掌	伊 藤 義 則	1982年5月1日生	2001年4月 スズデン株式会社入社 2017年4月 当社東北営業部長 2019年7月 当社中部営業部長 2020年4月 当社執行役員 2020年6月 当社取締役 2020年10月 当社代表取締役常務執行役員CMO 2021年6月 当社取締役常務執行役員CMO 2022年4月 当社取締役常務執行役員CBO 2025年4月 当社取締役常務執行役員（現任）	(注)4	10,400
取締役	藤 本 茂 樹	1958年2月19日生	1980年4月 立石電機株式会社（現オムロン株式会社）入社 2002年4月 同社アジアパシフィック本社 Managing Director 2004年9月 同社セーフティ事業部長 2007年6月 同社執行役員 営業統轄事業部長 2012年4月 同社執行役員常務 I A Bカンパニー社長 2015年4月 同社執行役員常務 事業開発本部長 2020年6月 当社社外取締役（現任）	(注)4	

役職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (株)
取締役 常勤監査等委員	山田 雅司	1957年7月21日生	1984年10月 2005年1月 2010年3月 2018年4月 2024年6月	鈴木電興株式会社(現スズデン株式会社)入社 当店舗営業部長 当社内部監査室長 当社内部監査室 当社取締役常勤監査等委員(現任)	(注)5	12,300
取締役 監査等委員	平 真美	1962年2月20日生	1987年10月 1990年10月 1991年9月 1992年4月 2002年10月 2011年5月 2014年5月 2014年6月 2016年3月 2016年6月 2020年12月 2024年6月	サンワ・等松青木監査法人(現有限責任監査法人トーマツ)入所 早川善雄税理士事務所入所 公認会計士登録 税理士登録 税理士法人 早川・平会計パートナー公認会計士・税理士(現任) イオンモール株式会社 社外監査役 同社社外取締役 当社社外監査役 井関農機株式会社 社外監査役 当社社外取締役監査等委員(現任) 株式会社FOOD & LIFE COMPANIES 社外取締役監査等委員(現任) 昭和産業株式会社社外取締役(現任)	(注)5	
取締役 監査等委員	中嶋 正博	1956年10月7日生	1979年4月 2007年3月 2010年3月 2012年6月 2014年6月 2018年4月 2021年6月 2022年6月	株式会社東海銀行(現株式会社三菱UFJ銀行)入行 同行浄心支店長 日東工業株式会社入社 同社執行役員 同社取締役 同社常務取締役 当社社外取締役 当社社外取締役監査等委員(現任)	(注)5	900
計						476,770

- (注) 1. 取締役藤本 茂樹、平 真美及び中嶋 正博は、社外取締役であります。  
2. 取締役山田 雅司、平 真美及び中嶋 正博は、監査等委員であります。  
3. 執行役員は次のとおりであります(\*印は取締役を兼務しております)。

職名	氏名	担当または主な職業
執行役員社長	高 谷 健 文 *	営業部門・技術部門統括
専務執行役員	安 岳 宗 吉 *	コンプライアンス担当 管理部門・IT部門統括
常務執行役員	伊 藤 義 則 *	業務部門・物流部門統括
執行役員	桑 山 真 次	半導体製造装置営業部門統括 半導体製造装置営業部門担当
執行役員	浜 中 信 昭	営業部門担当
執行役員	矢 野 晃 治	営業部門担当
執行役員	平 田 匡 庸	営業部門担当
執行役員	中 野 諭	経営企画部門担当
執行役員	渡 部 勝 彦	物流部門担当
執行役員	榎 本 剛	電材営業部門担当・営業部門担当
執行役員	小 針 知 宏	営業部門担当
執行役員	竹 腰 一 麻	半導体製造装置営業部門担当・製造部門担当
執行役員	青 山 恵	総務部門担当
執行役員	日 高 明 子	業務部門担当

4. 監査等委員でない取締役の任期は、2025年3月期に係る定時株主総会終結の時から2026年3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。  
5. 監査等委員である取締役の任期は、2024年3月期に係る定時株主総会終結の時から2026年3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。

#### 社外取締役の状況

提出日現在の取締役8名のうち、3名が社外取締役であります。

監査等委員でない取締役は5名で、うち1名が社外取締役であります。また、監査等委員である取締役は3名で、うち2名が社外取締役であります。

当社は社外取締役が果たす役割について、客観的な立場として取締役に出席し、経営者としての豊富な経験や会計・税務等の専門的見地からの積極的な意見具申と、より広い視野からの経営への参画並びに監督を行うことであると認識しております。

また、当社は社外取締役3名をより一般株主の立場に立った独立役員としてガバナンス体制を強化しており、社外取締役が果たす役割を十分発揮できる体制と判断しております。

社外取締役 藤本 茂樹氏との人的関係、資本的関係、その他の利害関係はありません。

社外取締役監査等委員 平 真美氏との人的関係、資本的関係及び兼職先である税理士法人早川・平会計パートナーと当社との間に重要な取引関係、その他の利害関係はありません。また、社外取締役監査等委員及び社外取締役として兼職する他の法人と当社との間に重要な取引関係、その他の利害関係はありません。

社外取締役監査等委員 中嶋 正博氏との人的関係、資本的関係、その他の利害関係はありません。

#### (社外取締役の独立性に関する基準または方針)

当社では、一般株主と利益相反が生じるおそれのない独立社外取締役の候補者を選定しております。独立社外取締役候補者の選定にあたって、東京証券取引所が定める基準に加え、以下の通り当社独自の基準を満たす候補者を選定しております。

また、独立社外取締役の候補者は取締役会における率直・活発で建設的な検討への貢献が期待できる人物を選定するよう努めております。

- 1) 当社の役員（社外取締役を除く）、従業員並びにその近親者、及び当社の関連当事者（関連当事者が法人の場合、その法人の役員、従業員並びにその近親者）でない者。
- 2) 当社及び当社の連結子会社を主要取引先とする法人又は当社の主要取引先である法人の役員、従業員並びにその近親者でない者。主要取引先とは、当該期の前期末時点における当社の売上額又は仕入額が上位10社以内の法人及びその連結子会社並びに主要取引金融機関及びその連結子会社とする。ただし、退職後1年間を経過している場合は除く。
- 3) 当社及び法人である関連当事者から役員報酬以外の報酬を受けていない者。
- 4) 当社及び法人である関連当事者が契約している監査法人、弁護士事務所、税理士法人、弁理士、司法書士、コンサルティング等の法人の役員、従業員並びにその近親者でない者。ただし、退職後1年間を経過している場合は除く。

社外取締役による監督又は監査と内部監査、監査等委員会監査及び会計監査との相互連携並びに内部統制部門との関係

社外取締役は、取締役会に出席し、業務の執行について監督を行っております。提出日現在において、監査等委員会は、監査等委員である取締役3名のうち2名が社外取締役で構成され、各監査等委員は監査等委員会で定められた監査の方針、職務の分担等を定め、監査を行っております。

常勤監査等委員は「取締役会」をはじめ、「執行役員会」「マネジメントレビュー」等の重要な会議にも出席し、内部監査室並びに会計監査人と連携を取りながら経営・執行について監査するとともに、三現主義（現地・現物・現実）に基づいた営業所等の往査を通じ、コンプライアンスを含めた業務執行の状況を監査しております。

また、監査等委員会では各委員からの報告及び意見交換による監査意見の形成を行っております。

内部監査部門である内部監査室は、計画的運営のもと適正なる業務遂行状況を監査すべく各部門の業務監査を監査等委員と連携して実施し、併せて品質環境部と連携のうえ、内部統制監査及びISO9001の品質マネジメント監査を行っております。

### (3) 【監査の状況】

監査等委員会の監査の状況

#### a. 組織、人員及び手続き

当社は、「監査等委員会設置会社」の形態を採用しており、提出日現在において、監査等委員会は、監査等委員である取締役3名（常勤監査等委員1名と監査等委員である社外取締役2名）で構成され、監査等委員会で定めた監査方針、監査計画に沿って業務執行の監査を実施しております。各監査等委員は取締役会に出席し、取締役の業務執行の適法性・妥当性について監査しています。また、監査等委員である社外取締役は、企業経営、税理士、公認会計士等、それぞれの分野での豊富な経験と知識を活かし、独立的な視点で必要な助言・提言・意見を述べています。

常勤監査等委員は、その他重要な会議にも出席し、内部監査室並びに会計監査人と緊密に連携を取りながら経営・執行について監査するとともに、三現主義（現地・現物・現実）に基づいた営業所等の往査を通じ、コンプライアンスを含めた業務執行の状況を監査しております。

#### b. 監査等委員会の活動状況

当事業年度において当社は監査等委員会を8回開催しており、個々の監査等委員の出席状況については次のとおりであります。

役職名	氏名	開催回数	出席回数
取締役常勤監査等委員	山田 雅司	8回	8回
取締役監査等委員	平 真美	8回	8回
取締役監査等委員	中嶋 正博	8回	8回
取締役監査等委員	安藤 真紀	3回	3回

(注) 1. 平 真美、中嶋 正博及び安藤 真紀の各氏は、社外取締役であります。

2. 安藤 真紀氏は、2025年6月25日退任以前の監査等委員会を対象としております。

監査等委員会における具体的な検討内容として、監査方針の策定、取締役及び執行役員の職務執行の状況や内部統制システムの整備・運用の確認、会計監査人の監査の方法及び結果の相当性の判断、並びに会計監査人の評価及び再任・不再任の決定等を行いました。

また、常勤監査等委員の活動として、取締役会や取締役会以外の重要な会議への出席、代表取締役等との面談、会計監査人、内部監査室との定例会の開催、稟議書や監査報告書等の重要な決裁書類の閲覧、本社、営業所、物流センター、工場、子会社への往査を行いました。

#### 内部監査の状況

内部監査部門である内部監査室は3名で構成されており、内部監査規程に基づき、内部統制監査・業務監査・品質マネジメント監査を実施しております。計画的運営のもと、当社及び子会社の業務遂行状況と業務内容の有効性及び効率性、コンプライアンスの遵守状況等についての監査を定期的実施し問題点の指摘、改善のための提言、改善状況の確認等を行い結果を社長主催の「マネジメント・レビュー」に出席し報告しております。

また、内部監査室は、監査等委員会及び会計監査人との定例会を実施し、監査実施内容に関する情報交換及び内部統制の状況やリスクの評価等に関する意見交換を行い、緊密な連携を図っております。

取締役会に対しては、金融商品取引法に基づく「財務報告に係る内部統制の有効性」の報告を含め、定期的に内部監査活動の報告をしているほか、執行役員会に対しても定期的に報告を行っております。

#### 会計監査の状況

##### a. 監査法人の名称

有限責任 あずさ監査法人

##### b. 継続監査期間

6年間

##### c. 業務を執行した公認会計士

指定有限責任社員 業務執行社員 宮木 直哉

指定有限責任社員 業務執行社員 水野 勝成

##### d. 監査業務に係る補助者の構成

当社の会計監査業務に係る補助者は、次のとおりであります。

・公認会計士 10名 ・公認会計士試験合格者等 5名 ・その他 23名

##### e. 監査法人の選定方針と理由

監査等委員会は、「会計監査人の解任または不再任の決定の方針」を策定し、これに基づき、会計監査人としての適格性、独立性、専門性、監査業務に係る審査体制、監査品質及び監査の遂行状況等を総合的に評価し、毎期検討を行います。

その結果、不再任が妥当と判断した場合、監査等委員会は、会計監査人の不再任に関する株主総会提出議案の内容を決定いたします。

##### (会計監査人の解任または不再任の決定の方針)

会計監査人が会社法第340条第1項各号に定める項目に該当すると認められる場合、監査等委員全員の同意に基づき会計監査人を解任いたします。

この場合、監査等委員会は解任後最初に招集される株主総会において、会計監査人を解任した旨およびその理由を報告いたします。

また、会計監査人の再任の可否については、会計監査人の適格性、独立性、監査品質、監査の遂行状況および会計監査人の継続監査年数等を総合的に評価し、会計監査人の職務の執行に支障がある場合、または、会計監査人の変更が妥当であると判断された場合、監査等委員会は会計監査人の不再任に関する株主総会提出議案の内容を決定いたします。

##### f. 監査等委員会による監査法人の評価

監査等委員会は、会計監査人が独立の立場を保持し、かつ適正な監査を実施しているかを監視及び検証するとともに、会計監査人からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求めました。また、会計監査人から「職務の遂行が適正に行われることを確保するための体制」(会社計算規則第131条各号に掲げる事項)を「監査に関する品質管理基準」(2005年10月28日企業会計審議会)等に従って整備している旨の通知を受け、必要に応じて説明を求めました。その結果、会計監査人の監査の方法及び結果は相当であると評価しました。

監査報酬の内容等

a. 監査公認会計士等に対する報酬

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬(千円)	非監査業務に基づく報酬(千円)	監査証明業務に基づく報酬(千円)	非監査業務に基づく報酬(千円)
提出会社	41,300	-	51,250	-
連結子会社	-	-	-	-
計	41,300	-	51,250	-

b. 監査公認会計士等と同一のネットワークに対する報酬(a.を除く)  
該当事項はありません。

c. その他の重要な監査証明業務に基づく報酬の内容  
該当事項はありません。

d. 監査報酬の決定方針  
該当事項はありません。

e. 監査等委員会が会計監査人の報酬等に同意した理由

取締役会が提案した会計監査人に対する報酬等に対して、当社の監査等委員会は、経営執行部等からの情報入手及び会計監査人からの資料の入手や報告の聴取を通じて、監査計画の内容、職務執行状況及び報酬見積の算出根拠などが適切であるかについて検証したうえで同意の判断をいたしました。

(4) 【役員の報酬等】

役員の報酬の額又はその算定方法の決定に関する方針に係る事項

当社は、2024年5月22日開催の取締役会において、「役員の報酬の額又はその算定方法の決定に関する方針」を決議しております。

役員報酬に関しては、原則として固定報酬である「基本報酬」と業績の達成度や配当額によって変動する「取締役賞与」「業績連動型株式報酬」によって構成され、各報酬の種類ごとの割合は、概ね、金銭報酬「基本報酬」「取締役賞与」：非金銭報酬「業績連動型株式報酬」＝9：1を目安とします。各報酬の額又は算定方法の決定方針につきましては、以下のとおりであります。なお、監査等委員である取締役及び社外取締役は客観性・独立性を保つ観点から、原則として「基本報酬」のみとしておりますが、株主総会で決議された場合はその限りではありません。

区 分	報酬の種類	支給基準	報酬限度額	支給月
監査等委員ではない取締役	基本報酬 (固定)	役職・役割等を踏まえて決定	年額450百万円 以内	毎月
	取締役賞与 (変動)	利益連動部分と個人評価 に基づき算定		年1回
	業績連動型株式報酬 (変動)	役位ポイント × 業績係数	(注)	退任時
監査等委員である取締役	基本報酬 (固定)	監査等委員会で決定	年額80百万円 以内	毎月

(注) 後掲「業績連動型株式報酬の額又は算定方法の決定方針」「3)総支給水準」に記載のとおり、対象取締役に付与されるポイント数(合計)には上限があります。

<基本報酬の額又は算定方法の決定方針>

基本報酬は、各取締役の役職又は役割等を踏まえ、会社の業績及び担当業務における貢献・実績に基づき決定しております。監査等委員ではない取締役の報酬額は、過半数を独立社外取締役が占める指名報酬委員会での審議及び答申を踏まえ、取締役会にて決議しております。監査等委員である取締役の報酬額は、監査等委員会で決議しております。

<取締役賞与の額又は算定方法の決定方針>

取締役賞与は、株主様への配当額を指標とし利益総額・社員賞与・株価・株主様に対するコミットメントの状況を判断要素として総合的に評価し、株主総会の決議により、支給総額を決定しております。各人への配分額は、過半数を独立社外取締役が占める指名報酬委員会での審議及び答申を踏まえて判断し、代表取締役が最終決定しますが、代表取締役が複数いる場合は、取締役順位の上位者が最終決定しております。

<業績連動型株式報酬の額又は算定方法の決定方針>

業績連動型株式報酬は、毎年の業績に応じて支給されるインセンティブ報酬としての株式報酬制度「株式給付信託（BBT（＝Board Benefit Trust））」で構成されております。

業績連動型株式報酬は、2016年6月24日開催の第64回定時株主総会における決議により、中長期的な業績の向上と企業価値の増大に貢献する意識を高めることを目的として、取締役（監査等委員である取締役と社外取締役を除きます。以下、「対象取締役」といいます。）及び執行役員（以下、対象取締役及び執行役員を総称して「対象役員」といいます。）に対する株式報酬制度「株式給付信託（BBT（＝Board Benefit Trust））」（以下、「本制度」といいます。）を導入しております。

本制度は、下記の方法に基づき算定の上、1事業年度あたりに対象役員に付与するポイント数（株式数）を確定します。原則として累積したポイント数に相当する株式数が対象役員の退任時に交付されます。

1)対象役員

取締役（監査等委員である取締役と社外取締役を除きます。）及び執行役員

2)業績連動型報酬として給付される報酬等の内容

当社発行の普通株式及び金銭とします。

3)総支給水準

対象役員に対して付与するポイントは、次表のとおり、対象期間ごとに、取締役及び執行役員のそれぞれについて合計ポイント数の上限を設けます。

対象期間	取締役	執行役員
2017年3月末日で終了した事業年度から2021年3月末日で終了した事業年度までの5事業年度の期間	合計76,000ポイント	合計54,000ポイント
2022年3月末日で終了した事業年度から2024年3月末日で終了した事業年度までの3事業年度の期間	合計45,600ポイント	合計32,400ポイント
2025年3月末日で終了する事業年度から2029年3月末日で終了する事業年度までの5事業年度の期間	合計76,000ポイント	合計84,000ポイント
以降5事業年度ごとの期間	同上	同上

4)算定方法及び役位ポイントと業績係数

算定式

ポイント数（株式数）＝ 1事業年度あたりの役位ポイント × 業績係数

1 事業年度あたりの役位ポイント

役位	ポイント数
取締役会長	2,300
取締役社長	2,300
取締役( 1)	1,400
役付執行役員( 2)	1,000
執行役員( 3)	800

( 1)取締役とは、取締役会長、取締役社長を除く、その他の対象取締役を指す。

( 2)役付執行役員とは、専務執行役員、常務執行役員を指す。

( 3)執行役員とは、役付執行役員を除く、その他の執行役員を指す。

業績係数

連結売上高目標達成率と同経常利益目標達成率の平均値	業績係数
120%以上	1.5
110%以上120%未満	1.2
100%以上110%未満	1.0
80%以上100%未満	0.7
80%未満	0.5

当社の業績において重要となる指標が、連結売上高及び連結経常利益であるとの考えから、業績係数として連結売上高目標達成率と同経常利益目標達成率の平均値を選択しております。なお、当連結会計年度における業績係数は1.0であります。

役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (千円)	報酬等の種類別の総額(千円)				対象となる 役員の員数 (人)
		基本報酬	賞与	退職慰労金	役員株式給付 信託(BBT)	
取締役(監査等委員を除く) (社外取締役を除く)	278,100	99,435	168,000		10,665	5
取締役(監査等委員) (社外取締役を除く)	12,000	12,000				1
社外役員	24,300	24,300				4

- (注) 1. 役員株式給付信託(BBT)の対象となっている取締役(監査等委員である取締役及び社外取締役を除く)は5名です。
2. 役員株式給付信託(BBT)の欄の金額は、当事業年度に係る役員株式給付引当金繰入額であります。
3. 役員退職慰労金については、第55期以降廃止しており、2006年6月28日開催の第54回定時株主総会で第54期までの在任期間に対応する役員退職慰労金の精算に関してご承認をいただいております。

役員ごとの連結報酬等の総額等

連結報酬等の総額が1億円以上である者が存在しないため、記載しておりません。

役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針の決定権限を有する者

取締役(監査等委員である取締役を除く)の報酬は、株主総会で承認された報酬額の範囲内において、基本報酬は取締役会から諮問を受けた指名報酬委員会によって審議され、その答申によって取締役会で決定しています。取締役賞与は、配当額及び利益総額等を総合的に評価し、支給総額を株主総会にて決議された後、各人への支給額については指名報酬委員会からの答申に基づき、代表取締役が最終決定しております。業績連動型株式報酬は、算定方法に基づき累積されたポイント数について対象役員が退任時に取締役会で決議し決定しております。

監査等委員である取締役の報酬については、株主総会において承認された報酬額の範囲内で、監査等委員会決定しています。

(5) 【株式の保有状況】

投資株式の区分の基準及び考え方

純投資目的株式には、専ら株式価値の変動または配当金を目的として保有する株式を、純投資目的以外の株式には、それら目的に加え中長期的な企業価値の向上に資すると判断し保有する株式を区分しております。

保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式

a．保有方針及び保有の合理性を検証する方法並びに個別銘柄の保有の適否に関する取締役会等における検証の内容

当社は発行会社であるお客様や取引先との中長期的な関係維持や取引拡大、事業シナジー等を勘案し、企業価値の向上に資すると判断した場合、政策保有株式の保有を行うこととしております。

毎期、取締役会で個別の政策保有株式について、保有目的や合理性、保有に伴う便益やリスクが資本コストに見合っているか等を具体的に精査し、保有の適否を検証しております。

また、政策保有株式に係る議決権の行使基準は定めておりませんが、議決権の行使は政策保有株式の発行企業の企業価値の向上につながる重要な手段と考えており、中長期的な企業価値向上、株主還元につながるかどうかを判断し行使いたします。

b．銘柄数及び貸借対照表計上額

	銘柄数 (銘柄)	貸借対照表計上額の 合計額(千円)
非上場株式	2	5,200
非上場株式以外の株式	15	310,008

(当事業年度において株式数が増加した銘柄)

	銘柄数 (銘柄)	株式数の増加に係る取得 価額の合計額(千円)	株式数の増加の理由
非上場株式	-	-	
非上場株式以外の株式	11	14,929	取引先持株会に加入して定期購入しているため

(当事業年度において株式数が減少した銘柄)

	銘柄数 (銘柄)	株式数の減少に係る売却 価額の合計額(千円)
非上場株式	-	-
非上場株式以外の株式	14	266,530

## c. 特定投資株式及びみなし保有株式の銘柄ごとの株式数、貸借対照表計上額等に関する情報

## 特定投資株式

銘柄	当事業年度	前事業年度	保有目的、業務提携等の概要、 定量的な保有効果 及び株式数が増加した理由	当社の 株式の 保有の 有無
	株式数(株)	株式数(株)		
	貸借対照表計上額 (千円)	貸借対照表計上額 (千円)		
日東工業株式会社	45,157	69,782	電機・電子部品販売事業における当社の販売先かつ仕入先であり、安定的かつ継続的な取引関係を維持するため保有しております。また、関係強化のため取引先持株会に加入しております。当事業年度において、保有株式の一部を売却いたしました。	有
	190,566	217,373		
シーケーディ株式会社	17,310	33,201	電機・電子部品販売事業における当社の販売先かつ仕入先であり、安定的かつ継続的な取引関係を維持するため保有しております。また、関係強化のため取引先持株会に加入しております。当事業年度において、保有株式の一部を売却いたしました。	有
	73,914	67,067		
オムロン株式会社	5,000	5,000	電機・電子部品販売事業における当社の販売先であり、安定的かつ継続的な取引関係を維持するため保有しております。	無
	22,160	21,060		
ミネベアミツミ株式会社	2,740	9,691	電機・電子部品販売事業における当社の販売先であり、安定的かつ継続的な取引関係を維持するため保有しております。また、関係強化のため取引先持株会に加入しております。当事業年度において、保有株式の一部を売却いたしました。	無
	6,945	21,065		
東京エレクトロン株式会社	100	300	関連会社が電機・電子部品販売並びに製造事業における当社の販売先であり、安定的かつ継続的な取引関係を維持するため保有しております。当事業年度において、保有株式の一部を売却いたしました。	無
	3,723	6,033		
日本酸素ホールディングス株式会社	526	3,409	関連会社が電機・電子部品販売事業における当社の販売先であり、安定的かつ継続的な取引関係を維持するため保有しております。また、関係強化のため取引先持株会に加入しております。当事業年度において、保有株式の一部を売却いたしました。	無
	2,912	15,390		
住友電気工業株式会社	298	967	電機・電子部品販売事業における当社の販売先であり、安定的かつ継続的な取引関係を維持するため保有しております。また、関係強化のため取引先持株会に加入しております。当事業年度において、保有株式の一部を売却いたしました。	無
	2,500	2,386		
理研計器株式会社	580	642	電機・電子部品販売事業における当社の販売先かつ仕入先であり、安定的かつ継続的な取引関係を維持するため保有しております。また、関係強化のため取引先持株会に加入しております。当事業年度において、保有株式の一部を売却いたしました。	無
	1,695	1,653		
アイダエンジニアリング株式会社	1,423	2,293	電機・電子部品販売事業における当社の販売先であり、安定的かつ継続的な取引関係を維持するため保有しております。また、関係強化のため取引先持株会に加入しております。当事業年度において、保有株式の一部を売却いたしました。	無
	1,524	2,052		
N I T T O K U株式会社	657	700	電機・電子部品販売事業における当社の販売先かつ仕入先であり、安定的かつ継続的な取引関係を維持するため保有しております。また、関係強化のため取引先持株会に加入しております。当事業年度において、保有株式の一部を売却いたしました。	無
	1,423	1,479		
長野計器株式会社	394	1,340	電機・電子部品販売事業における当社の販売先であり、安定的かつ継続的な取引関係を維持するため保有しております。また、関係強化のため取引先持株会に加入しております。当事業年度において、保有株式の一部を売却いたしました。	無
	1,070	2,563		
株式会社鈴木	200	200	電機・電子部品販売事業における当社の販売先かつ仕入先であり、安定的かつ継続的な取引関係を維持するため保有しております。	無
	535	336		
シチズン時計株式会社	286	2,167	電機・電子部品販売事業における当社の販売先かつ仕入先であり、安定的かつ継続的な取引関係を維持するため保有しております。また、関係強化のため取引先持株会に加入しております。当事業年度において、保有株式の一部を売却いたしました。	無
	477	1,933		

銘柄	当事業年度	前事業年度	保有目的、業務提携等の概要、 定量的な保有効果 及び株式数が増加した理由	当社の 株式の 保有の 有無
	株式数(株)	株式数(株)		
	貸借対照表計上額 (千円)	貸借対照表計上額 (千円)		
日精樹脂工業 株式会社	475	1,337	電機・電子部品販売事業における当社の販売先であり、安定的かつ継続的な取引関係を維持するため保有しております。また、関係強化のため取引先持株会に加入しております。当事業年度において、保有株式の一部を売却いたしました。	無
	414	1,123		
K O A 株式会 社	100	600	電機・電子部品販売事業における当社の販売先であり、安定的かつ継続的な取引関係を維持するため保有しております。当事業年度において、保有株式の一部を売却いたしました。	無
	144	561		
エヌアイシ・ オートテック 株式会社	-	10,000	当事業年度において、全株式を売却いたしました。	無
	-	7,750		

- (注) 1. 定量的な保有効果については記載が困難であります。保有の合理性は取締役会において検証しております。  
2. 「-」は、当該銘柄を保有していないことを示しております。  
3. 特定投資株式のミネベアミツミ株式会社、東京エレクトロン株式会社、日本酸素ホールディングス株式会社、住友電気工業株式会社、理研計器株式会社、アイダエンジニアリング株式会社、N I T T O K U株式会社、長野計器株式会社、株式会社鈴木、シチズン時計株式会社、日精樹脂工業株式会社、K O A 株式会社、エヌアイシ・オートテック株式会社は、貸借対照表計上額が資本金額の100分の1以下であります。上位16銘柄について記載しております。

保有目的が純投資目的である投資株式

該当事項はありません。

当事業年度に投資株式の保有目的を純投資目的から純投資目的以外の目的に変更したもの

該当事項はありません。

当事業年度の前4事業年度及び当事業年度に投資株式の保有目的を純投資目的以外の目的から純投資目的に変更したもの

該当事項はありません。

## 5 【従業員の状況等】

### (1) 【人材戦略に関する基本方針等】

#### 人材戦略について

当社は、持続的成長を支える基盤として、人材を最も重要な経営資源と位置付け、中期経営計画の実現のための重点施策のひとつに人的資本への投資を掲げ、積極的に推進しております。

当社の人材戦略は、「共育の推進」「職場環境の整備」「人材確保と定着」を3本柱とし、これらの取り組みを通じてエンゲージメントの向上を図り、個々の成長と組織の価値創出を両立させることを基本的な考え方としております。また、当社は、社憲「私たち一人ひとりのはたらきで心豊かな暮らしをつくり出し喜びあえる未来にしよう」に基づき、社員一人ひとりが能力を最大限に発揮できるよう個人を尊重し、働きがいのある職場環境の整備に取り組むとともに、会社と社員が共に成長していく経営を推進しております。さらに、上司と部下の双方が共に育つという理念のもと「共育」を実施しており、お客様満足度の向上を実現するためには、社員一人ひとりの成長が不可欠であると認識しております。そのため、適切な教育・訓練及び経験の機会を継続的に提供することで人材育成に取り組んでおります。

変化の激しい事業環境においては、社員一人ひとりが自律的に成長し、培われた知識・スキル・価値観を組織全体で共有することにより、個の成長と組織の付加価値向上を両立させ、持続的な企業価値の向上につなげてまいります。

#### 従業員の給与について

当社は、従業員の能力発揮と中長期的な企業価値向上を図るため、職務内容、役割及び責任の大きさ並びに業績への貢献度を総合的に勘案し、適正かつ公正な給与水準となるよう決定することとしております。

従業員の給与は、固定報酬である基本給与と、基本賞与に業績連動による加算金をあわせた賞与から構成されております。基本給与については、社員の資格及び職務内容に基づき定める基準により決定しており、昇給については、人事考課に基づき社員の能力及び業績を適切に評価したうえで、定期的を実施しております。また、給与水準の見直しにあたっては、会社の業績や経営環境等を踏まえ、適切に判断しております。賞与については、会社業績等を踏まえたうえで支給し、従業員の業績への貢献度を反映する仕組みとしております。

当社は、人事制度に基づき適正かつ公正な評価を行うことで、従業員の成長とエンゲージメント向上を図り、持続的な企業価値の向上につなげてまいります。

(2) 【従業員の状況】

(1) 連結会社の状況

2026年3月31日現在

セグメントの名称	従業員数(名)
電機・電子部品販売事業	220 (35)
製造事業	10 (-)
全社(共通)	106 (74)
合計	336 (109)

- (注) 1. 従業員数は就業人員数であります。  
2. 従業員数欄の(外書)は、臨時従業員の年間平均雇用人員数であります。  
3. 全社(共通)として記載されている従業員数は、特定のセグメントに区分できない管理部門に所属しているものであります。

(2) 提出会社の状況

2026年3月31日現在

従業員数(名)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(千円)	平均年間給与の対前事業年度増減率(%)
307 (138)	41.4	16.7	6,582	2.88

セグメントの名称	従業員数(名)
電機・電子部品販売事業	205 (51)
製造事業	10 (-)
全社(共通)	92 (87)
合計	307 (138)

- (注) 1. 従業員数は就業人員数であります。  
2. 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでおります。  
3. 従業員数欄の(外書)は、臨時従業員の年間平均雇用人員数であります。  
4. 全社(共通)として記載されている従業員数は、特定のセグメントに区分できない管理部門に所属しているものであります。

(3) 労働組合の状況

労働組合は結成されておりませんが、労使関係は円満に推移しております。

(4) 管理職に占める女性労働者の割合、男性労働者の育児休業取得率及び労働者の男女の賃金の差異

提出会社

当事業年度				
管理職に占める 女性労働者 の割合(%) (注1)	男性労働者の 育児休業 取得率(%) (注2)	労働者の男女の 賃金の差異(注1)		
		全労働者	正規雇用 労働者(注3)	パート・ 有期労働者(注4)
7.0	100.0	64.6	69.7	51.0

(注) 1. 「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律」(平成27年法律第64号)の規定に基づき算出したものであります。

2. 「育児休業、介護休業等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律」(平成3年法律第76号)の規定に基づき、「育児休業、介護休業等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律施行規則」(平成3年労働省令第25号)第71条の6第1号における育児休業等の取得割合を算出したものであります。
3. 管理職に占める女性社員の割合は7.0%と低く、男女の賃金格差が生じる一因となっております。当事業年度においては、女性管理職のうち2名を執行役員に登用いたしました。これにより、当該2名が管理職の集計対象から外れたことも影響し、女性の賃金割合は前事業年度と比較して低下しております。当社では、女性活躍推進の取り組みとして、キャリア支援及びマネジメント支援等を実施しており、今後においても、これらの取り組みを継続し、女性活躍の推進を図ってまいります。
4. 定年嘱託社員において、管理職を担う男性社員が多く、相対的に賃金水準が高くなっており、男女の賃金格差につながっております。(嘱託社員を除く、パート有期社員の男女の賃金の差異は117.4%)

連結子会社

連結子会社は、「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律」(平成27年法律第64号)及び「育児休業、介護休業等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律」(平成3年法律第76号)の規定による公表義務の対象ではないため、記載を省略しております。

## 第5 【経理の状況】

### 1．連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

(1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和51年大蔵省令第28号。以下「連結財務諸表規則」という。)に基づいて作成しております。

(2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」という。)に基づいて作成しております。

また、当社は、特例財務諸表提出会社に該当し、財務諸表等規則第127条の規定により財務諸表を作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度(2025年4月1日から2026年3月31日まで)の連結財務諸表及び事業年度(2025年4月1日から2026年3月31日まで)の財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人により監査を受けております。

### 3．連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組について

当社は、連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組を行っております。具体的には、会計基準等の内容を適切に把握できる体制を整備するため、公益財団法人財務会計基準機構に加入しており、会計基準等の更新情報を適時、確実に入手をするよう努めております。

## 1 【連結財務諸表等】

## (1) 【連結財務諸表】

## 【連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当連結会計年度 (2026年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	8,126,417	6,831,265
受取手形	1 512,320	1 148,823
売掛金	1 6,954,805	1 7,720,052
電子記録債権	1 3,893,128	1 3,965,604
棚卸資産	2 3,598,021	2 3,871,178
その他	286,053	394,829
貸倒引当金	1,138	1,187
流動資産合計	23,369,609	22,930,566
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	4,336,171	4,335,842
減価償却累計額	1,934,513	2,081,318
建物及び構築物（純額）	2,401,658	2,254,524
土地	1,909,493	1,909,493
リース資産	135,797	83,864
減価償却累計額	69,829	37,685
リース資産（純額）	65,968	46,179
その他	265,802	265,233
減価償却累計額	184,926	206,459
その他（純額）	80,875	58,774
有形固定資産合計	4,457,996	4,268,971
無形固定資産		
その他	128,651	103,008
無形固定資産合計	128,651	103,008
投資その他の資産		
投資有価証券	424,477	356,590
繰延税金資産	331,550	363,790
その他	422,692	358,913
貸倒引当金	30,554	30,204
投資その他の資産合計	1,148,166	1,049,090
固定資産合計	5,734,814	5,421,070
資産合計	29,104,424	28,351,637

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当連結会計年度 (2026年3月31日)
<b>負債の部</b>		
<b>流動負債</b>		
支払手形及び買掛金	3,749,034	5,239,286
電子記録債務	3,394,522	2,709,653
短期借入金	-	<sup>3</sup> 1,000,000
1年内返済予定の長期借入金	436,000	176,000
リース債務	25,911	22,075
未払法人税等	530,762	438,542
賞与引当金	366,717	372,505
役員賞与引当金	174,000	168,000
その他	<sup>1</sup> 403,131	<sup>1</sup> 369,560
流動負債合計	9,080,080	10,495,624
<b>固定負債</b>		
長期借入金	201,000	25,000
リース債務	59,518	37,443
役員株式給付引当金	134,112	137,318
退職給付に係る負債	792,350	756,693
資産除去債務	56,992	57,226
その他	86,029	83,780
固定負債合計	1,330,004	1,097,461
負債合計	10,410,085	11,593,085
<b>純資産の部</b>		
<b>株主資本</b>		
資本金	1,819,230	1,819,230
資本剰余金	1,747,057	1,527,493
利益剰余金	15,651,568	14,151,463
自己株式	664,591	894,373
株主資本合計	18,553,264	16,603,812
<b>その他の包括利益累計額</b>		
その他有価証券評価差額金	113,578	122,165
退職給付に係る調整累計額	27,496	32,574
その他の包括利益累計額合計	141,074	154,739
純資産合計	18,694,339	16,758,552
負債純資産合計	29,104,424	28,351,637

## 【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】

## 【連結損益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2024年 4月 1日 至 2025年 3月 31日)	当連結会計年度 (自 2025年 4月 1日 至 2026年 3月 31日)
売上高	1 46,631,604	1 45,902,296
売上原価	2 38,824,171	2 38,426,473
売上総利益	7,807,433	7,475,823
販売費及び一般管理費		
荷造運搬費	375,592	365,713
給料手当及び賞与	2,351,736	2,393,142
株式報酬費用	99,394	52,466
法定福利費	393,379	389,913
退職給付費用	125,016	100,798
賃借料	340,862	346,981
減価償却費	198,555	193,568
貸倒引当金繰入額	1,646	301
賞与引当金繰入額	346,496	352,284
役員賞与引当金繰入額	174,000	168,000
その他	980,760	1,041,179
販売費及び一般管理費合計	5,384,146	5,403,747
営業利益	2,423,286	2,072,075
営業外収益		
受取利息	892	3,137
受取配当金	29,437	38,409
仕入割引	191,001	197,206
為替差益	4,542	1,013
その他	17,713	41,609
営業外収益合計	243,587	281,376
営業外費用		
支払利息	5,268	8,750
手形売却損	731	1,349
株式報酬費用消滅損	953	1,544
貸倒引当金繰入額	150	-
その他	1,156	2,258
営業外費用合計	8,260	13,902
経常利益	2,658,613	2,339,548
特別利益		
投資有価証券売却益	29,739	175,248
負ののれん発生益	-	3 48,521
特別利益合計	29,739	223,769
特別損失		
固定資産除却損	4 0	4 0
投資有価証券売却損	-	287
特別損失合計	0	287
税金等調整前当期純利益	2,688,353	2,563,030
法人税、住民税及び事業税	930,049	879,726
法人税等調整額	31,600	39,595
法人税等合計	898,448	840,130
当期純利益	1,789,904	1,722,899
親会社株主に帰属する当期純利益	1,789,904	1,722,899

【連結包括利益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2024年 4月 1日 至 2025年 3月 31日)	当連結会計年度 (自 2025年 4月 1日 至 2026年 3月 31日)
当期純利益	1,789,904	1,722,899
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	106,659	8,586
退職給付に係る調整額	17,659	5,078
その他の包括利益合計	1 89,000	1 13,665
包括利益	1,700,904	1,736,564
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	1,700,904	1,736,564
非支配株主に係る包括利益	-	-

## 【連結株主資本等変動計算書】

前連結会計年度(自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)

(単位：千円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	1,819,230	1,604,463	15,357,477	543,949	18,237,221
当期変動額					
剰余金の配当			1,495,813		1,495,813
親会社株主に帰属する当期純利益			1,789,904		1,789,904
自己株式の取得				250,180	250,180
自己株式の処分		142,593		129,537	272,131
自己株式の消却					-
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)					
当期変動額合計	-	142,593	294,091	120,642	316,042
当期末残高	1,819,230	1,747,057	15,651,568	664,591	18,553,264

	その他の包括利益累計額			純資産合計
	その他有価証券評価差額金	退職給付に係る調整累計額	その他の包括利益累計額合計	
当期首残高	220,238	9,836	230,075	18,467,297
当期変動額				
剰余金の配当				1,495,813
親会社株主に帰属する当期純利益				1,789,904
自己株式の取得				250,180
自己株式の処分				272,131
自己株式の消却				-
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	106,659	17,659	89,000	89,000
当期変動額合計	106,659	17,659	89,000	227,041
当期末残高	113,578	27,496	141,074	18,694,339

当連結会計年度(自 2025年4月1日 至 2026年3月31日)

(単位：千円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	1,819,230	1,747,057	15,651,568	664,591	18,553,264
当期変動額					
剰余金の配当			1,376,811		1,376,811
親会社株主に帰属する当期純利益			1,722,899		1,722,899
自己株式の取得				2,332,761	2,332,761
自己株式の処分		10,608		26,612	37,221
自己株式の消却		230,172	1,846,193	2,076,365	-
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)					
当期変動額合計	-	219,563	1,500,105	229,782	1,949,451
当期末残高	1,819,230	1,527,493	14,151,463	894,373	16,603,812

	その他の包括利益累計額			純資産合計
	その他有価証券評価差額金	退職給付に係る調整累計額	その他の包括利益累計額合計	
当期首残高	113,578	27,496	141,074	18,694,339
当期変動額				
剰余金の配当				1,376,811
親会社株主に帰属する当期純利益				1,722,899
自己株式の取得				2,332,761
自己株式の処分				37,221
自己株式の消却				-
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	8,586	5,078	13,665	13,665
当期変動額合計	8,586	5,078	13,665	1,935,786
当期末残高	122,165	32,574	154,739	16,758,552

## 【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2024年 4月 1日 至 2025年 3月 31日)	当連結会計年度 (自 2025年 4月 1日 至 2026年 3月 31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前当期純利益	2,688,353	2,563,030
減価償却費	233,286	228,805
賞与引当金の増減額 ( は減少 )	24,842	5,788
役員賞与引当金の増減額 ( は減少 )	17,000	6,000
役員株式給付引当金の増減額 ( は減少 )	62,379	23,702
退職給付に係る負債の増減額 ( は減少 )	77,554	35,657
貸倒引当金の増減額 ( は減少 )	1,496	301
受取利息及び受取配当金	30,330	41,546
支払利息	5,268	8,750
投資有価証券売却損益 ( は益 )	29,739	174,960
有形固定資産除却損	0	0
負ののれん発生益	-	48,521
売上債権の増減額 ( は増加 )	1,038,818	474,226
棚卸資産の増減額 ( は増加 )	52,115	273,156
仕入債務の増減額 ( は減少 )	878,315	805,383
未払又は未収消費税等の増減額	141,215	30,266
その他	65,536	79,371
小計	4,516,277	2,471,451
利息及び配当金の受取額	29,968	41,037
利息の支払額	5,268	8,750
法人税等の支払額	597,577	976,648
法人税等の還付額	1,265	575
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,944,664	1,527,665
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	49,292	5,857
無形固定資産の取得による支出	-	10,557
投資有価証券の取得による支出	15,055	14,929
投資有価証券の売却による収入	43,330	288,763
敷金及び保証金の差入による支出	10,311	1,502
敷金及び保証金の回収による収入	997	59,607
定期預金の預入による支出	11,000	11,000
定期預金の払戻による収入	11,000	11,000
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	-	<sup>2</sup> 2,298,229
投資活動によるキャッシュ・フロー	30,332	1,982,704
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入れによる収入	-	1,000,000
長期借入金の返済による支出	436,000	436,000
ファイナンス・リース債務の返済による支出	29,734	25,911
自己株式の取得による支出	250,180	-
自己株式の売却による収入	250,180	-
配当金の支払額	1,495,097	1,381,223
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,960,831	843,135
現金及び現金同等物に係る換算差額	257	3,022
現金及び現金同等物の増減額 ( は減少 )	1,953,243	1,295,151
現金及び現金同等物の期首残高	6,162,174	8,115,417
現金及び現金同等物の期末残高	<sup>1</sup> 8,115,417	<sup>1</sup> 6,820,265

【注記事項】

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

1 連結の範囲に関する事項

(1) 連結子会社の数 1社

(2) 連結子会社の名称

スズデンビジネスサポート株式会社

当連結会計年度において株式取得により子会社化したベル株式会社を2025年9月30日(みなし取得日)から連結範囲に含めておりましたが、2026年1月1日付で当社を存続会社とする吸収合併により消滅したため、連結の範囲から除外しております。

2 持分法の適用に関する事項

非連結子会社及び関連会社がないため、持分法の適用はありません。

3 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社の決算日は、連結決算日と一致しております。

4 会計方針に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

有価証券

(ア)その他有価証券

市場価格のない株式等以外のもの

決算期末日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は、全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)

市場価格のない株式等

主として移動平均法による原価法

なお、投資事業有限責任組合及びそれに類する組合への出資(金融商品取引法第2条第2項により有価証券とみなされるもの)については、組合契約に規定される決算報告日に応じて入手可能な最近の決算書を基礎とし、持分相当額を純額で取り込む方法によっております。

棚卸資産

(ア)商品

在庫品.....主として移動平均法による原価法

(貸借対照表価額は、収益性の低下による簿価切下げの方法により算定)

引当品.....個別法による原価法

(貸借対照表価額は、収益性の低下による簿価切下げの方法により算定)

(イ)製品・仕掛品・原材料

総平均法による原価法

(ウ)貯蔵品

最終仕入原価法

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

有形固定資産(リース資産を除く)

定率法

ただし、1998年4月1日以降に取得した建物(建物附属設備を除く)並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については定額法

なお、主な耐用年数は、次のとおりであります。

建物及び構築物 6年～38年

その他(工具、器具及び備品) 4年～15年

無形固定資産(リース資産を除く)

定額法

なお、主な耐用年数は、次のとおりであります。

自社利用のソフトウェア 5年(社内における見込利用可能期間)

リース資産

所有権移転ファイナンス・リース取引に係るリース資産

自己所有の固定資産に適用する減価償却方法と同一の方法

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法

(3) 重要な引当金の計上基準

貸倒引当金

債権の貸倒損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

賞与引当金

従業員の賞与の支給に備えるため、支給見込額に基づき計上しております。

役員賞与引当金

役員の賞与の支給に備えるため、支給見込額に基づき計上しております。

役員株式給付引当金

役員株式給付規程に基づく取締役及び執行役員への当社株式の交付に備えるため、当連結会計年度末における株式給付債務の見込額を計上しております。

(4) 退職給付に係る会計処理の方法

退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当連結会計年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

数理計算上の差異の費用処理方法

数理計算上の差異については、その発生の翌連結会計年度において一括処理することとしております。

(5) 重要な収益及び費用の計上基準

当社グループは、電機・電子部品の販売事業及び半導体装置向けのアルミフレームの組立等を行う製造事業を主な事業としており、それぞれ商品及び製品の販売を行っております。

当該商品及び製品の販売に係る履行義務は一時点で充足されるものであるため、「収益認識に関する会計基準の適用指針」第98項に定める代替的な取扱いを適用し、顧客との契約内容並びに出荷及び配送に要する日数に照らし、商品及び製品を出荷し要件を満たしたと判断した時点で収益を認識しております。

なお、顧客に移転する財又はサービスを支配しておらずこれらを手配するサービスのみを提供している取引については、代理人取引であると判断し、純額で収益を認識しております。

(6) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりスクしか負わない取得日から3か月以内に償還期限の到来する短期的な投資からなっております。

(7) その他連結財務諸表作成のための重要な事項

資産に係る控除対象外消費税等の会計処理

資産に係る控除対象外消費税及び地方消費税は当連結会計年度の費用として処理しております。

(重要な会計上の見積り)

棚卸資産の評価

(1)当連結会計年度の連結財務諸表に計上した金額

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当連結会計年度 (2026年3月31日)
棚卸資産	3,598,021	3,871,178

(2)識別した項目に係る重要な会計上の見積りの内容に関する情報

棚卸資産の貸借対照表価額は、収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定しており、一定の営業循環過程から外れた棚卸資産については、収益性の低下の事実を反映するよう過去の販売実績等に基づき定期的に帳簿価額を切り下げております。

なお、当該見積りは、将来の不確実な市場環境等の影響を受ける場合があり、翌連結会計年度の連結財務諸表に影響を与える可能性があります。

(未適用の会計基準等)

- ・「リースに関する会計基準」(企業会計基準第34号 2024年9月13日)
- ・「リースに関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第33号 2024年9月13日)

ほか、関連する企業会計基準、企業会計基準適用指針、実務対応報告及び移管指針の改正

(1) 概要

国際的な会計基準と同様に、借手のすべてのリースについて資産・負債を計上する等の取扱いを定めるもの。

(2) 適用予定日

2028年3月期の期首より適用予定であります。

(3) 当該会計基準等の適用による影響

「リースに関する会計基準」等の適用による連結財務諸表に与える影響額については、現時点で評価中でありま

す。

(追加情報)

(株式給付信託(BBT))

取締役及び執行役員に対し中長期に至る業績向上と企業価値の増大への貢献意識を高めるため、株式報酬制度「株式給付信託(BBT)」を導入しております。

当該信託契約については、「従業員等に信託を通じて自社の株式を交付する取引に関する実務上の取扱い」(実務対応報告第30号 2015年3月26日)に基づき会計処理しております。

取引の概要

本制度は、予め当社が定めた役員株式給付規程に基づき、一定の要件を満たした当社の取締役及び執行役員に対し当社株式を給付する仕組みであります。

当社は取締役及び執行役員に対し、毎年業績に連動してポイントを付与し、退任時に当該付与ポイントに相当する当社株式を給付いたします。取締役及び執行役員に対し給付する株式については、予め信託設定した金銭により将来分も含め取得し、信託財産として分別管理するものといたします。

信託に残存する自社の株式

信託に残存する当社株式を、信託における帳簿価額(付随費用の金額を除く。)により純資産の部に自己株式として計上しております。当該自己株式の帳簿価額及び株式数は、前連結会計年度末335,581千円、232千株、当連結会計年度末319,294千円、221千株であります。

(連結貸借対照表関係)

1 受取手形、売掛金及び電子記録債権のうち、顧客との契約から生じた債権及び契約資産の金額と、流動負債その他のうち、契約負債の金額は、連結財務諸表「注記事項（収益認識関係） 3.(1) 契約資産及び契約負債の残高等」に記載しております。

2 棚卸資産の内訳

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当連結会計年度 (2026年3月31日)
商品及び製品	3,569,750千円	3,850,664千円
仕掛品	2,993千円	7,697千円
原材料	25,277千円	12,817千円

3 当座貸越契約及びコミットメントライン契約

当社は、安定的な資金調達を可能にし、緊急時の手元流動性を確保することを目的として、取引銀行2行と当座貸越契約及びコミットメントライン契約を締結しております。

連結会計年度末における当座貸越契約及びコミットメントライン契約に係る借入未実行残高等は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当連結会計年度 (2026年3月31日)
当座貸越契約及びコミットメントライン契約の総額	5,300,000千円	5,300,000千円
借入実行残高	- 千円	1,000,000千円
差引額	5,300,000千円	4,300,000千円

(連結損益計算書関係)

1 顧客との契約から生じる収益

売上高については、顧客との契約から生じる収益及びそれ以外の収益を区分して記載しておりません。顧客との契約から生じる収益の金額は、連結財務諸表「注記事項(収益認識関係) 1.顧客との契約から生じる収益を分解した情報」に記載しております。

2 期末棚卸高は収益性の低下による簿価切下後の金額であり、次の棚卸資産評価損が売上原価に含まれておりません。

前連結会計年度 (自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)	当連結会計年度 (自 2025年4月1日 至 2026年3月31日)
36,725千円	162,685千円

3 負ののれん発生益

前連結会計年度(自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 2025年4月1日 至 2026年3月31日)

負ののれん発生益48,521千円は、ベル株式会社の株を取得し、連結子会社としたことに伴うものであります。

4 固定資産除却損の内容は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)	当連結会計年度 (自 2025年4月1日 至 2026年3月31日)
建物及び構築物	- 千円	0千円
その他(有形固定資産)	0千円	0千円
計	0千円	0千円

(連結包括利益計算書関係)

1 その他の包括利益に係る組替調整額並びに法人税等及び税効果額

	前連結会計年度 (自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)	当連結会計年度 (自 2025年4月1日 至 2026年3月31日)
その他有価証券評価差額金		
当期発生額	121,638千円	188,568千円
組替調整額	29,739千円	174,960千円
法人税等及び税効果調整前	151,378千円	13,607千円
法人税等及び税効果額	44,718千円	5,020千円
その他有価証券評価差額金	106,659千円	8,586千円
退職給付に係る調整額		
当期発生額	40,140千円	47,553千円
組替調整額	14,174千円	40,140千円
法人税等及び税効果調整前	25,965千円	7,413千円
法人税等及び税効果額	8,306千円	2,335千円
退職給付に係る調整額	17,659千円	5,078千円
その他の包括利益合計	89,000千円	13,665千円

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)

1 発行済株式及び自己株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
発行済株式				
普通株式(株)	14,652,600	-	-	14,652,600
自己株式				
普通株式(株)	636,135	140,900	153,500	623,535

(注)普通株式の自己株式の当連結会計年度末株式数には、株式会社日本カストディ銀行(信託E口)が所有する株式232千株が含まれております。

(変動事由の概要)

譲渡制限付株式報酬の無償取得による増加 900株  
株式会社日本カストディ銀行(信託E口)による当社株式の追加取得による増加 140,000株  
譲渡制限付株式報酬としての自己株式の処分による減少 11,200株  
株式給付信託(BBT)の交付による減少 2,300株  
第三者割当による自己株式の処分(株式会社日本カストディ銀行(信託E口)を割当先とする第三者割当)による減少 140,000株

2 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
2024年5月22日 取締役会	普通株式	945,476	67.00	2024年3月31日	2024年6月10日
2024年11月1日 取締役会	普通株式	550,336	39.00	2024年9月30日	2024年12月6日

(注) 1. 2024年5月22日取締役会決議の配当金の総額には、株式会社日本カストディ銀行(信託E口)が所有する当社株式に対する配当金6,373千円が含まれております。

2. 2024年11月1日取締役会決議の配当金の総額には、株式会社日本カストディ銀行(信託E口)が所有する当社株式に対する配当金3,620千円が含まれております。

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
2025年5月22日 取締役会	普通株式	利益剰余金	912,761	64.00	2025年3月31日	2025年6月10日

(注) 2025年5月22日取締役会決議の配当金の総額には、株式会社日本カストディ銀行(信託E口)が所有する当社株式に対する配当金14,900千円が含まれております。

当連結会計年度(自 2025年4月1日 至 2026年3月31日)

1 発行済株式及び自己株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
発行済株式				
普通株式(株)	14,652,600	-	1,370,600	13,282,000
自己株式				
普通株式(株)	623,535	1,372,200	1,394,200	601,535

(注)普通株式の自己株式の当連結会計年度末株式数には、株式会社日本カストディ銀行(信託E口)が所有する株式221千株が含まれております。

(変動事由の概要)

譲渡制限付株式報酬の無償取得による増加	1,600株
ベル株式会社との合併に伴う自己株式継承による取得	1,370,600株
譲渡制限付株式報酬としての自己株式の処分による減少	12,300株
株式給付信託(BBT)の交付による減少	11,300株
2025年11月4日の取締役会決議に基づく自己株式の消却による減少	1,370,600株

2 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
2025年5月22日 取締役会	普通株式	912,761	64.00	2025年3月31日	2025年6月10日
2025年11月4日 取締役会	普通株式	464,050	36.00	2025年9月30日	2025年12月5日

(注)1. 2025年5月22日取締役会決議の配当金の総額には、株式会社日本カストディ銀行(信託E口)が所有する当社株式に対する配当金14,900千円が含まれております。

2. 2025年11月4日取締役会決議の配当金の総額には、株式会社日本カストディ銀行(信託E口)が所有する当社株式に対する配当金7,975千円が含まれております。

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
2026年5月21日 取締役会	普通株式	利益剰余金	974,100	75.50	2026年3月31日	2026年6月9日

(注)2026年5月21日取締役会決議の配当金の総額には、株式会社日本カストディ銀行(信託E口)が所有する当社株式に対する配当金16,725千円が含まれております。

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

1 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)	当連結会計年度 (自 2025年4月1日 至 2026年3月31日)
現金及び預金	8,126,417千円	6,831,265千円
預入期間が3か月を超える 定期預金	11,000千円	11,000千円
現金及び現金同等物	8,115,417千円	6,820,265千円

2 株式の取得により新たに連結子会社となった会社の資産及び負債の主な内訳

株式の取得により新たにベル株式会社を連結したことに伴う連結開始時の資産及び負債の内訳並びにベル株式会社株式の取得価額とベル株式会社取得のための支出(純額)との関係は次のとおりです。

流動資産	2,012,739千円
固定資産	2,332,761千円
流動負債	4,330千円
負ののれん発生益	48,521千円
株式の取得価額	4,292,648千円
現金及び現金同等物	1,994,419千円
差引：取得のための支出	2,298,229千円

(リース取引関係)

1 ファイナンス・リース取引

(借主側)

所有権移転ファイナンス・リース取引

リース資産の内容

無形固定資産

主として、ソフトウェアであります。

リース資産の減価償却の方法

連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項「4 会計方針に関する事項(2)重要な減価償却資産の減価償却の方法」に記載のとおりであります。

所有権移転外ファイナンス・リース取引

リース資産の内容

有形固定資産

主として、工具、器具及び備品であります。

無形固定資産

主として、ソフトウェアであります。

リース資産の減価償却の方法

連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項「4 会計方針に関する事項(2)重要な減価償却資産の減価償却の方法」に記載のとおりであります。

2 オペレーティング・リース取引

(借主側)

オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当連結会計年度 (2026年3月31日)
1年内	229,015千円	230,313千円
1年超	259,969千円	51,674千円
合計	488,985千円	281,988千円

(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、年次予算及び設備投資計画等に基づき、必要となる資金量について管理しております。一時的な余資は、短期的な預金等による運用に限定しております。また、当面資金調達は銀行借入による方針であります。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である受取手形及び売掛金、電子記録債権は、得意先の信用リスクに晒されております。

投資有価証券は、取引先（以下潜在的な取引先を含む）との関係強化及び取引先の情報収集を主たる目的として取得した株式であり、市場リスクに晒されております。

営業債務である支払手形及び買掛金、電子記録債務並びに未払法人税等は、通常その全件が1年以内の支払期日であります。

借入金は、長期性の借入金であり、その調達目的は主に運転資金としての調達であります。金利は原則として固定金利によるものとしております。なお、運転資金水準の調整のため短期性の借入金による調達を行う場合もあります。

ファイナンス・リース取引に係るリース債務は、主に設備投資に必要な資金の調達を目的としたものであり、償還日は決算日後、最長で3年8か月であります。

営業債務及びリース債務は流動性リスクに、借入金は流動性リスク及び金利変動リスクに晒されております。

当社グループはデリバティブ等金融派生商品は取得しない方針をとっております。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

信用リスク

営業債権が晒されている信用リスクについては当社グループの与信管理規程等に従い、得意先ごとの債権年齢管理及び残高管理を行うとともに、半年毎に主要得意先の与信限度額見直しを執行役員会で行い、また一定条件の与信限度額増加については、執行役員会の決裁を経ることとしております。上記の体制で信用状況の把握及び組織間の牽制が機能する形をとっております。

市場リスク

取引先の株式であり、定期的に把握された時価を取締役に回付し、報告しております。なお、投資有価証券については、その時価が取得原価から40%を超えて下落した場合、減損処理する社内規程を設けております。

資金調達に係る流動性リスク

当社は、各部署からの報告に基づき経理部資金課が適時に資金繰り計画を作成・更新するとともに手許流動性を当社売上高の1ヶ月を基準として維持することにより流動性リスクを管理しております。また、子会社の資金調達については、月次決算の情報を入手し、必要資金量の確認・管理を行う体制をとっております。

2. 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。

前連結会計年度(2025年3月31日)

(単位：千円)

	連結貸借対照表 計上額	時価	差額
(1) 投資有価証券 その他有価証券	369,829	369,829	-
資産計	369,829	369,829	-
(1) 長期借入金(1年内返済予定を含む)	637,000	634,110	2,889
(2) リース債務	85,429	82,658	2,770
負債計	722,429	716,769	5,660

( 1 ) 「現金及び預金」、「受取手形」、「売掛金」、「電子記録債権」、「支払手形及び買掛金」及び「電子記録債務」については、現金であること及び短期間で決済されるため時価が帳簿価額に近似するものであることから、記載を省略しております。

( 2 ) 市場価格のない株式等は、「(1) 投資有価証券」には含まれておりません。当該金融商品の連結貸借対照表計上額は以下のとおりであります。

区分	前連結会計年度(千円)
非上場株式	5,200

( 3 ) 連結貸借対照表に持分相当額を純額で計上する組合その他これに準ずる事業体への出資については記載を省略しております。当該出資の連結貸借対照表計上額は以下のとおりであります。

区分	前連結会計年度(千円)
投資事業有限責任組合に類するもの出資持分	49,448

当連結会計年度(2026年3月31日)

(単位：千円)

	連結貸借対照表 計上額	時価	差額
(1) 投資有価証券 その他有価証券	310,008	310,008	-
資産計	310,008	310,008	-
(1) 長期借入金(1年内返済予定を含む)	201,000	200,570	429
(2) リース債務	59,518	58,147	1,371
負債計	260,518	258,717	1,801

( 1 ) 「現金及び預金」、「受取手形」、「売掛金」、「電子記録債権」、「支払手形及び買掛金」、「電子記録債務」及び「短期借入金」については、現金であること及び短期間で決済されるため時価が帳簿価額に近似するものであることから、記載を省略しております。

( 2 ) 市場価格のない株式等は、「(1) 投資有価証券」には含まれておりません。当該金融商品の連結貸借対照表計上額は以下のとおりであります。

区分	当連結会計年度(千円)
非上場株式	5,200

( 3 ) 連結貸借対照表に持分相当額を純額で計上する組合その他これに準ずる事業体への出資については記載を省略しております。当該出資の連結貸借対照表計上額は以下のとおりであります。

区分	当連結会計年度(千円)
投資事業有限責任組合に類するものの出資持分	41,382

(注1) 金銭債権及び満期がある有価証券の連結決算日後の償還予定額  
前連結会計年度(2025年3月31日)

(単位：千円)

区分	1年以内	1年超 5年以内	5年超 10年以内	10年超
現金及び預金	8,126,417	-	-	-
受取手形	512,320	-	-	-
売掛金	6,954,805	-	-	-
電子記録債権	3,893,128	-	-	-
合計	19,486,672	-	-	-

当連結会計年度(2026年3月31日)

(単位：千円)

区分	1年以内	1年超 5年以内	5年超 10年以内	10年超
現金及び預金	6,830,847	-	-	-
受取手形	148,823	-	-	-
売掛金	7,720,052	-	-	-
電子記録債権	3,965,604	-	-	-
合計	18,665,746	-	-	-

(注2) 長期借入金及びリース債務の連結決算日後の返済予定額  
前連結会計年度(2025年3月31日)

(単位：千円)

区分	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超
長期借入金(1年内返済予定を含む)	436,000	176,000	25,000	-	-	-
リース債務	25,911	22,075	20,178	12,785	4,479	-
合計	461,911	198,075	45,178	12,785	4,479	-

当連結会計年度(2026年3月31日)

(単位：千円)

区分	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超
長期借入金(1年内返済予定を含む)	176,000	25,000	-	-	-	-
リース債務	22,075	20,178	12,785	4,479	-	-
合計	198,075	45,178	12,785	4,479	-	-

3. 金融商品の時価のレベルごとの内訳等に関する事項

金融商品の時価を、時価の算定に係るインプットの観察可能性及び重要性に応じて、以下の3つのレベルに分類しております。

レベル1の時価：観察可能な時価の算定に係るインプットのうち、活発な市場において形成される当該時価の算定の対象となる資産または負債に関する相場価格により算定した時価

レベル2の時価：観察可能な時価の算定に係るインプットのうち、レベル1のインプット以外の時価の算定に係るインプットを用いて算定した時価

レベル3の時価：観察できない時価の算定に係るインプットを使用して算定した時価

時価の算定に重要な影響を与えるインプットを複数使用している場合には、それらのインプットがそれぞれ属するレベルのうち、時価の算定における優先順位が最も低いレベルに時価を分類しております。

(1) 時価で連結貸借対照表に計上している金融商品

前連結会計年度(2025年3月31日)

区分	時価(千円)			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
投資有価証券 その他有価証券	369,829	-	-	369,829
資産計	369,829	-	-	369,829

当連結会計年度(2026年3月31日)

区分	時価(千円)			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
投資有価証券 その他有価証券	310,008	-	-	310,008
資産計	310,008	-	-	310,008

(2) 時価で連結貸借対照表に計上している金融商品以外の金融商品

前連結会計年度(2025年3月31日)

区分	時価(千円)			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
長期借入金(1年内返済予定を含む)	-	634,110	-	634,110
リース債務	-	82,658	-	82,658
負債計	-	716,769	-	716,769

当連結会計年度(2026年3月31日)

区分	時価(千円)			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
長期借入金(1年内返済予定を含む)	-	200,570	-	200,570
リース債務	-	58,147	-	58,147
負債計	-	258,717	-	258,717

(注)時価の算定に用いた評価技法及び時価の算定に係るインプットの説明

投資有価証券

上場株式は相場価格を用いて評価しております。上場株式は活発な市場で取引されているため、その時価をレベル1の時価に分類しております。

長期借入金及びリース債務

これらの時価は、元利金の合計額と、当該債務の残存期間及び信用リスクを加味した利率を基に、割引現在価値法により算定しており、レベル2の時価に分類しております。

(有価証券関係)

1. その他有価証券

前連結会計年度(2025年3月31日)

(単位：千円)

区分	連結貸借対照表計上額	取得原価	差額
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの			
株式	339,334	177,759	161,574
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの			
株式	30,494	35,556	5,061
合計	369,829	213,316	156,513

当連結会計年度(2026年3月31日)

(単位：千円)

区分	連結貸借対照表計上額	取得原価	差額
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの			
株式	287,848	111,195	176,653
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの			
株式	22,160	25,481	3,321
合計	310,008	136,676	173,332

2. 連結会計年度中に売却したその他有価証券

前連結会計年度(自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)

(単位：千円)

区分	売却額	売却益の合計額	売却損の合計額
株式	41,398	29,739	-

当連結会計年度(自 2025年4月1日 至 2026年3月31日)

(単位：千円)

区分	売却額	売却益の合計額	売却損の合計額
株式	266,530	175,248	287

(デリバティブ取引関係)

当社グループは、デリバティブ取引を利用していないため該当事項はありません。

(退職給付関係)

1. 採用している退職給付制度の概要

当社は、確定給付型の制度として退職一時金制度及び総合設立型の企業年金制度並びに確定拠出制度を採用しております。

当社は、複数事業主制度の東京都電機企業年金基金に加入しており、自社の拠出に対応する年金資産の額を合理的に計算することができないため、確定拠出制度と同様に会計処理しております。

2. 確定拠出制度

確定拠出制度への要拠出額は、前連結会計年度18,736千円、当連結会計年度18,472千円であります。

3. 複数事業主制度

連結財務諸表上、確定拠出制度と同様に会計処理する、複数事業主制度の企業年金制度への要拠出額は、前連結会計年度59,788千円、当連結会計年度60,824千円であります。

(1) 複数事業主制度の直近の積立状況

	(千円)	
	前連結会計年度 2024年3月31日現在	当連結会計年度 2025年3月31日現在
年金資産の額	137,074,386	134,097,378
年金財政計算上の数理債務の額と最低責任準備金の額との合計額	120,649,850	117,614,519
差引額	16,424,536	16,482,859

(2) 複数事業主制度の掛金に占める当社の割合

前連結会計年度 1.278% (2024年3月31日現在)

当連結会計年度 1.255% (2025年3月31日現在)

(3) 補足説明

上記(1)の差引額の主な要因は、年金財政計算上の過去勤務債務残高(前連結会計年度 8,451,663千円、当連結会計年度 7,078,276千円)であります。本制度における過去勤務債務の償却方法は期間20年の元利均等償却であり、当社は、連結財務諸表上、当該償却に充てられる特別掛金(前連結会計年度19,929千円、当連結会計年度 20,274千円)を費用処理しております。

なお、上記(2)の割合は当社の実際の負担割合とは一致しておりません。

4. 確定給付制度

(1) 退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表

	(千円)	
	前連結会計年度 (自 2024年 4月 1日 至 2025年 3月 31日)	当連結会計年度 (自 2025年 4月 1日 至 2026年 3月 31日)
退職給付債務の期首残高	869,905	792,350
勤務費用	56,251	52,040
利息費用	4,414	9,600
数理計算上の差異の発生額	40,140	47,553
退職給付の支払額	98,080	49,746
退職給付債務の期末残高	792,350	756,693

(2) 退職給付債務及び年金資産の期末残高と連結貸借対照表に計上された退職給付に係る負債及び退職給付に係る資産の調整表

	(千円)	
	前連結会計年度 (2025年 3月 31日)	当連結会計年度 (2026年 3月 31日)
積立型制度の退職給付債務	-	-
年金資産	-	-
非積立型制度の退職給付債務	792,350	756,693
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	792,350	756,693
退職給付に係る負債	792,350	756,693
退職給付に係る資産	-	-
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	792,350	756,693

(3) 退職給付費用及びその内訳項目の金額

	(千円)	
	前連結会計年度 (自 2024年 4月 1日 至 2025年 3月 31日)	当連結会計年度 (自 2025年 4月 1日 至 2026年 3月 31日)
勤務費用	56,251	52,040
利息費用	4,414	9,600
数理計算上の差異の費用処理額	14,174	40,140
確定給付制度に係る退職給付費用	46,491	21,501

(4) 退職給付に係る調整額

退職給付に係る調整額に計上した項目（法人税等及び税効果控除前）の内訳は次のとおりであります。

	(千円)	
	前連結会計年度 (自 2024年 4月 1日 至 2025年 3月 31日)	当連結会計年度 (自 2025年 4月 1日 至 2026年 3月 31日)
数理計算上の差異	25,965	7,413
合計	25,965	7,413

(5) 退職給付に係る調整累計額

退職給付に係る調整累計額に計上した項目（法人税等及び税効果控除前）の内訳は次のとおりであります。

	(千円)	
	前連結会計年度 (2025年 3月 31日)	当連結会計年度 (2026年 3月 31日)
未認識数理計算上の差異	40,140	47,553
合計	40,140	47,553

(6) 数理計算上の計算基礎に関する事項

主要な数理計算上の計算基礎（加重平均で表しております。）

	前連結会計年度 (自 2024年 4月 1日 至 2025年 3月 31日)	当連結会計年度 (自 2025年 4月 1日 至 2026年 3月 31日)
割引率	1.21%	2.05%
予想昇給率	2.73%	2.82%

(ストック・オプション等関係)

該当事項はありません。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当連結会計年度 (2026年3月31日)
<b>繰延税金資産</b>		
未払事業税・事業所税	33,837千円	30,681千円
その他の未払金	8,970千円	9,261千円
未払費用	23,198千円	23,904千円
賞与引当金	112,215千円	117,339千円
退職給付に係る負債	249,236千円	238,358千円
長期末払金	7,964千円	7,964千円
貸倒引当金	19,154千円	18,971千円
会員権	4,650千円	4,650千円
投資有価証券評価損	4,644千円	3,909千円
建物減損損失	4,962千円	5,074千円
土地減損損失	56,626千円	56,626千円
その他	33,397千円	79,765千円
小計	558,858千円	596,507千円
評価性引当額	99,580千円	99,968千円
合計	459,278千円	496,539千円
<b>繰延税金負債</b>		
圧縮記帳積立金	77,152千円	77,152千円
その他有価証券評価差額金	50,574千円	55,595千円
合計	127,727千円	132,748千円
繰延税金資産の純額	331,550千円	363,790千円

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当連結会計年度 (2026年3月31日)
法定実効税率	30.6%	30.6%
(調整)		
住民税均等割額	0.7%	0.7%
交際費等の一時差異でない項目	2.7%	1.3%
賃上げ促進税制による税額控除	- %	0.4%
その他	0.6%	0.6%
税効果会計適用後の法人税等の負担率	33.4%	32.8%

(企業結合等関係)

(取得による企業結合)

当社は、2025年5月22日開催の取締役会及び2025年6月25日開催の第73回定時株主総会において、ベル株式会社の株式を取得し同社を完全子会社化することについて決議し、2025年7月7日付で株式を取得いたしました。

(1) 企業結合の概要

被取得企業の名称及びその事業の内容

被取得企業の名称 ベル株式会社（以下、「ベル」といいます。）

事業の内容 有価証券の保有・管理及び売買

企業結合を行った主な理由

当社創業家の資産管理会社であるベル（2025年3月31日現在の当社株式の保有株式数は1,370,600株であり、当社発行済株式総数（自己株式を除く）14,261,893株に対する割合は9.61%となります。）の株式を当社が取得することにより、株主価値の向上に資するとともに資本効率の向上に寄与し、市場取引による場合よりも低い価格による自己株式の取得が可能になり、ベルの保有する当社株式が短期間に大量に市場売却されることにより、既存の株主に不測の不利益が生じるおそれも回避できる等の理由により、当社及び当社株主全体の利益に資すると判断し、株主の皆様のご承認を得ることを条件として本件取引を実施いたしました。

企業結合日

2025年7月7日（株式取得日）

2025年9月30日（みなし取得日）

企業結合の法的形式

現金を対価とする株式取得

結合後企業の名称

変更ありません。

取得した議決権比率

100%

取得企業を決定するに至った主な根拠

当社が現金を対価として、株式を取得したためであります。

(2) 連結損益計算書に含まれる被取得企業の業績の期間

2025年10月1日から2025年12月31日まで

なお、ベルは2026年1月1日付で当社を存続会社とする吸収合併により消滅しております。

(3) 被取得企業の取得原価及び対価の種類ごとの内訳

取得の対価	現金	4,292,648千円
取得原価		4,292,648千円

(4) 主要な取得関連費用の内容及び金額

アドバイザー費用 8,200千円

(5) 発生した負ののれん発生益の金額および発生原因

負ののれん発生益の金額

48,521千円

発生原因

取得原価が企業結合時の時価純資産を下回ったことによるものであります。

(6) 企業結合日に受け入れた資産及び引き受けた負債の額並びにその主な内訳

流動資産 2,012,739千円

固定資産 2,332,761千円

資産合計 4,345,500千円

流動負債 4,330千円

負債合計 4,330千円

(7) 企業結合が連結会計年度の開始の日に完了したと仮定した場合の当連結会計年度の連結損益計算書に及ぼす影響の概算額及びその算定方法

当連結会計年度における影響の概算額に重要性が乏しいため、記載を省略しております。

(共通支配下の取引等)

完全子会社の吸収合併

当社は、2025年10月1日開催の取締役会において、当社完全子会社であるベル株式会社（以下、「ベル」といいます。）を吸収合併することを決議し、2026年1月1日を効力発生日として吸収合併いたしました。

(1) 取引の概要

被結合企業の名称及び事業の内容

ベル株式会社（有価証券の保有・管理及び売買）

企業結合日

2026年1月1日

企業結合の方法

当社を存続会社、ベル株式会社を消滅会社とする吸収合併

結合後企業の名称

スズデン株式会社

企業結合の目的

ベルは、資産の多くの部分が当社株式であることや、資産運用を主たる事業の目的としていることから、経営資源の集約による経営効率化を目的として、この度、当社を存続会社としてベルを吸収合併し、それに伴って、当社がベルの保有する当社株式を自己株式として取得することといたしました。

(2) 実施した会計処理の概要

「企業結合に関する会計基準」（企業会計基準第21号 2019年1月16日）及び「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」（企業会計基準適用指針第10号 2019年1月16日）に基づき、共通支配下の取引として会計処理を実施しております。

(資産除去債務関係)

資産除去債務のうち連結貸借対照表に計上しているもの

(1) 当該資産除去債務の概要

本社及び営業所における建物の不動産賃貸借契約に伴う原状回復義務等であります。

(2) 当該資産除去債務の金額の算定方法

使用見込期間を取得から15年と見積り、割引率は0.27～1.09%を使用して資産除去債務の金額を計算しております。

(3) 当該資産除去債務の総額の増減

	前連結会計年度 (自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)	当連結会計年度 (自 2025年4月1日 至 2026年3月31日)
期首残高	49,057千円	56,992千円
時の経過による調整額	196千円	233千円
見積りの変更による増加額	7,738千円	-千円
期末残高	56,992千円	57,226千円

(収益認識関係)

## 1. 顧客との契約から生じる収益を分解した情報

前連結会計年度(自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)

(単位：千円)

	報告セグメント		
	電機・電子部品 販売事業	製造事業	計
F A 機器	25,845,207	-	25,845,207
情報・通信機器	4,309,431	-	4,309,431
電子・デバイス機器	6,174,099	-	6,174,099
電設資材	9,937,046	-	9,937,046
その他	-	365,818	365,818
顧客との契約から生じる収益	46,265,785	365,818	46,631,604
その他の収益	-	-	-
外部顧客への売上高	46,265,785	365,818	46,631,604

当連結会計年度(自 2025年4月1日 至 2026年3月31日)

(単位：千円)

	報告セグメント		
	電機・電子部品 販売事業	製造事業	計
F A 機器	25,078,155	-	25,078,155
情報・通信機器	4,320,558	-	4,320,558
電子・デバイス機器	5,389,404	-	5,389,404
電設資材	10,666,111	-	10,666,111
その他	-	448,066	448,066
顧客との契約から生じる収益	45,454,230	448,066	45,902,296
その他の収益	-	-	-
外部顧客への売上高	45,454,230	448,066	45,902,296

## 2. 顧客との契約から生じる収益を理解するための基礎となる情報

当社グループは、電機・電子部品の販売事業及び半導体装置向けのアルミフレームの組立等を行う製造事業を主な事業としており、それぞれ商品及び製品の販売を行っております。

履行義務の充足時点については、顧客との契約内容並びに出荷及び配送に要する日数に照らし、商品及び製品を出荷し要件を満たしたと判断した時点で収益を認識しておりますが、これは、当該時点が商品及び製品の法的所有権、物理的占有、商品の所有に伴う重大なリスク及び経済価値が顧客に移転し、顧客から取引対価の支払いを受ける権利を得ていると判断できるためであります。

履行義務を充足してから対価を受領するまでの期間は通常1年以内であるため、重要な金融要素は含んでおりません。

3. 顧客との契約に基づく履行義務の充足と当該契約から生じるキャッシュ・フローとの関係並びに当連結会計年度末において存在する顧客との契約から翌連結会計年度以降に認識すると見込まれる収益の金額及び時期に関する情報

(1) 契約資産及び契約負債の残高等

(単位：千円)

	前連結会計年度		当連結会計年度	
	期首残高	期末残高	期首残高	期末残高
顧客との契約から生じた債権				
受取手形	823,550	512,320	512,320	148,823
売掛金	6,934,997	6,954,805	6,954,805	7,720,052
電子記録債権	4,640,524	3,893,128	3,893,128	3,965,604
契約負債				
前受金	8,209	15,444	15,444	11,736

契約負債は、主に商品の引き渡し時に収益を認識する通販サイトにおける商品販売及び海外顧客への商品販売について、支払条件に基づき顧客から受け取った前受金に関するものとなります。契約負債は、収益の認識に伴い取り崩されます。

前連結会計年度に認識された収益のうち期首現在の契約負債残高に含まれていた額は、8,209千円であります。

当連結会計年度に認識された収益のうち期首現在の契約負債残高に含まれていた額は、15,444千円であります。

前受金は連結貸借対照表上、流動負債のその他に含まれております。

(2) 残存履行義務に配分した取引価格

残存履行義務に配分した取引価格の総額及び収益の認識が見込まれる期間は、以下のとおりであります。

(単位：千円)

	前連結会計年度	当連結会計年度
1年以内	8,210,020	12,357,402
1年超	51,482	62,474
合計	8,261,503	12,419,877

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1. 報告セグメントの概要

(1) 報告セグメントの決定方法

当社グループの事業セグメントは、当社の構成単位のうち分離した財務情報が入手可能であり、取締役会が経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループは、主として電機・電子部品の販売及び半導体製造装置向けアルミフレームの組立等を行っております。

したがって、当社グループは、「電機・電子部品販売事業」及び「製造事業」の2つを報告セグメントとしております。

(2) 各報告セグメントに属する製品及びサービスの種類

「電機・電子部品販売事業」は、主にFA機器、電子・デバイス機器、情報・通信機器、電設資材の販売を行っております。

「製造事業」は、主に半導体製造装置向けアルミフレームの組立等を行っております。

2. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と概ね同一であります。

報告セグメントの利益は、営業利益ベースの数値であります。

3. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報

前連結会計年度(自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)

(単位：千円)

	報告セグメント		
	電機・電子部品販売事業	製造事業	計
売上高			
外部顧客への売上高	46,265,785	365,818	46,631,604
セグメント間の内部 売上高又は振替高	-	-	-
計	46,265,785	365,818	46,631,604
セグメント利益又は損失( )	2,462,848	39,562	2,423,286
セグメント資産	28,518,877	585,546	29,104,424

(注) セグメント利益は、連結損益計算書の営業利益と一致しております。

当連結会計年度(自 2025年4月1日 至 2026年3月31日)

(単位：千円)

	報告セグメント		
	電機・電子部品販売事業	製造事業	計
売上高			
外部顧客への売上高	45,454,230	448,066	45,902,296
セグメント間の内部 売上高又は振替高	-	-	-
計	45,454,230	448,066	45,902,296
セグメント利益又は損失( )	2,087,260	15,185	2,072,075
セグメント資産	27,750,642	600,995	28,351,637

(注) セグメント利益は、連結損益計算書の営業利益と一致しております。

【関連情報】

前連結会計年度(自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)

1 製品及びサービスごとの情報

連結財務諸表「注記事項(収益認識関係)1.顧客との契約から生じる収益を分解した情報」に記載しております。

2 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

3 主要な顧客ごとの情報

顧客の名称又は氏名	売上高	関連するセグメント名
東京エレクトロン宮城株式会社	6,065,923千円	電機・電子部品販売事業 製造事業

なお、当社グループは、上記顧客のグループ会社である東京エレクトロンテクノロジーソリューションズ株式会社、東京エレクトロン九州株式会社と取引を行っており、同顧客グループの設備投資の動向や生産計画の変動等は、当社グループの経営成績及び財政状況等に影響を与える可能性があります。

当連結会計年度(自 2025年4月1日 至 2026年3月31日)

1 製品及びサービスごとの情報

連結財務諸表「注記事項(収益認識関係)1.顧客との契約から生じる収益を分解した情報」に記載しております。

2 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

3 主要な顧客ごとの情報

顧客の名称又は氏名	売上高	関連するセグメント名
東京エレクトロン宮城株式会社	4,655,158千円	電機・電子部品販売事業 製造事業

なお、当社グループは、上記顧客のグループ会社である東京エレクトロンテクノロジーソリューションズ株式会社、東京エレクトロン九州株式会社と取引を行っており、同顧客グループの設備投資の動向や生産計画の変動等は、当社グループの経営成績及び財政状況等に影響を与える可能性があります。

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前連結会計年度(自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 2025年4月1日 至 2026年3月31日)

該当事項はありません。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

前連結会計年度(自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 2025年4月1日 至 2026年3月31日)

該当事項はありません。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

前連結会計年度(自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 2025年4月1日 至 2026年3月31日)

ベル株式会社の株式を取得し、連結子会社としたことにより、負ののれん発生益48,521千円を計上しております。

## 【関連当事者情報】

## 関連当事者との取引

前連結会計年度(自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 2025年4月1日 至 2026年3月31日)

種類	会社等の名称 又は氏名	所在地	資本金 又は 出資金 (百万円)	事業の内容 又は職業	議決権等の 所有(被所有) 割合(%)	関連 当事者 との関係	取引の内容	取引 金額 (百万円)	科目	期末 残高 (百万円)
役員	鈴木 敏雄	-	-	当社代表 取締役会長	(被所有) 直接3.3	有価証券 の売買	ベル株式会社 株式の取得	1,134	-	-
役員及び その近親者	岡野 妙子	-	-	当社代表 取締役の親族	(被所有) 直接3.1	有価証券 の売買	ベル株式会社 株式の取得	552	-	-
役員及び その近親者	岡野 忠志	-	-	当社代表 取締役の親族	(被所有) 直接1.4	有価証券 の売買	ベル株式会社 株式の取得	345	-	-
役員及び その近親者	鈴木 純子	-	-	当社代表 取締役の親族	(被所有) 直接1.4	有価証券 の売買	ベル株式会社 株式の取得	307	-	-
役員及び その近親者	鈴木 達夫	-	-	当社代表 取締役の親族	(被所有) 直接2.7	有価証券 の売買	ベル株式会社 株式の取得	294	-	-
役員及び その近親者	鈴木 亜祐美	-	-	当社代表 取締役の親族	(被所有) 直接0.8	有価証券 の売買	ベル株式会社 株式の取得	271	-	-
役員及び その近親者	新本 ひとみ	-	-	当社代表 取締役の親族	(被所有) 直接0.6	有価証券 の売買	ベル株式会社 株式の取得	258	-	-
役員及び その近親者	鈴木 貴志子	-	-	当社代表 取締役の親族	(被所有) 直接0.2	有価証券 の売買	ベル株式会社 株式の取得	212	-	-
役員及び その近親者	鈴木 遼	-	-	当社代表 取締役の親族	(被所有) 直接0.6	有価証券 の売買	ベル株式会社 株式の取得	199	-	-
役員及び その近親者	鈴木 大護	-	-	当社代表 取締役の親族	(被所有) 直接0.0	有価証券 の売買	ベル株式会社 株式の取得	10	-	-

(注) 取引条件及び取引条件の決定方針等

ベル株式会社株式の取得価額は、第三者機関により、中小企業の株主価値を算出する際に最もよく利用されるコスト・アプローチに基づく時価純資産法により合理的に算定された価格に基づいて決定しております。

ベル株式会社の保有する当社株式以外の資産及び負債については第三者機関の算定した評価額を基に、当社株式については下記の通り評価して算定することとしております。

ベル株式会社の主要資産が市場価格のある投資有価証券(当社普通株式)であることから、当社株式の評価につきましては、評価アプローチ及び評価法の明確性及び客観性を重視し、基礎となる当社普通株式の適正な価格として市場株価法を採用しております。具体的には、第73回定時株主総会の前日である2025年6月24日の東京証券取引所における当社株式の最終価格に0.95を乗じた額としております。

(1株当たり情報)

	前連結会計年度 (自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)	当連結会計年度 (自 2025年4月1日 至 2026年3月31日)
1株当たり純資産額	1,332.54円	1,321.60円
1株当たり当期純利益	127.66円	129.04円

(注) 1. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2. 1株当たり当期純利益の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)	当連結会計年度 (自 2025年4月1日 至 2026年3月31日)
1株当たり当期純利益		
親会社株主に帰属する当期純利益(千円)	1,789,904	1,722,899
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する 当期純利益(千円)	1,789,904	1,722,899
普通株式の期中平均株式数(株)	14,021,410	13,351,863

3. 1株当たり純資産額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度末 (2025年3月31日)	当連結会計年度末 (2026年3月31日)
純資産の部の合計額(千円)	18,694,339	16,758,552
純資産の部の合計額から控除する金額(千円)	-	-
普通株式に係る期末の純資産額(千円)	18,694,339	16,758,552
1株当たり純資産額の算定に用いられた期末の普通株式 の数(株)	14,029,065	12,680,465

4. 株主資本において自己株式として計上されている信託に残存する自社の株式は、1株当たり純資産額の算定上、期末発行済株式総数から控除する自己株式に含めております(前連結会計年度232千株、当連結会計年度221千株)。

また、1株当たり当期純利益の算定上、期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めております(前連結会計年度144千株、当連結会計年度226千株)。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【連結附属明細表】

【社債明細表】

該当事項はありません。

【借入金等明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期末残高 (千円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	-	1,000,000	1.03	-
1年以内に返済予定の長期借入金	436,000	176,000	0.56	-
1年以内に返済予定のリース債務	25,911	22,075	-	-
長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く。)	201,000	25,000	0.59	2027年6月
リース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)	59,518	37,443	-	2027年4月～ 2029年11月
合計	722,429	1,260,518	-	-

- (注) 1. 平均利率については、期中の借入金等の増減すべてに対する加重平均利率を記載しております。  
2. 当社および国内連結子会社のリース債務の平均利率については、リース料総額に含まれる利息相当額を定額法により各連結会計年度に配分しているため、記載しておりません。  
3. 長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く。)の連結決算日後5年内における1年ごとの返済予定額は以下のとおりであります。

	1年超2年以内 (千円)	2年超3年以内 (千円)	3年超4年以内 (千円)	4年超5年以内 (千円)	5年超 (千円)
長期借入金	25,000	-	-	-	-

4. リース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)の連結決算日後5年内における1年ごとの返済予定額は以下のとおりであります。

	1年超2年以内 (千円)	2年超3年以内 (千円)	3年超4年以内 (千円)	4年超5年以内 (千円)	5年超 (千円)
リース債務	20,178	12,785	4,479	-	-

5. 手元流動性確保のため株式会社三菱UFJ銀行3,300,000千円、株式会社みずほ銀行2,000,000千円、総額5,300,000千円の当座貸越契約及びコミットメントライン契約を締結しております。なお、当期末における当該契約に基づく実行残高は、株式会社三菱UFJ銀行500,000千円、株式会社みずほ銀行500,000千円であります。

【資産除去債務明細表】

明細表に記載すべき事項が連結財務諸表規則第15条の23に規定する注記事項として記載されているため、記載を省略しております。

(2) 【その他】

当連結会計年度における半期情報等

	中間連結会計期間	当連結会計年度
売上高 (千円)	21,100,267	45,902,296
税金等調整前 中間(当期)純利益 (千円)	1,079,075	2,563,030
親会社株主に帰属する 中間(当期)純利益 (千円)	732,603	1,722,899
1株当たり 中間(当期)純利益 (円)	52.24	129.04

## 2 【財務諸表等】

## (1) 【財務諸表】

## 【貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (2025年3月31日)	当事業年度 (2026年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	8,095,465	6,791,396
受取手形	512,320	148,823
売掛金	6,954,805	7,720,052
電子記録債権	3,893,128	3,965,604
棚卸資産	<sup>1</sup> 3,598,021	<sup>1</sup> 3,871,178
貯蔵品	1,905	1,470
前払費用	140,905	123,950
未収入金	133,241	233,610
その他	7,746	33,314
貸倒引当金	1,138	1,187
流動資産合計	23,336,402	22,888,214
固定資産		
有形固定資産		
建物	2,354,468	2,213,068
構築物	47,189	41,456
機械及び装置	3,698	2,999
工具、器具及び備品	77,177	55,774
土地	1,909,493	1,909,493
リース資産	65,968	46,179
有形固定資産合計	4,457,996	4,268,971
無形固定資産		
その他	128,651	103,008
無形固定資産合計	128,651	103,008
投資その他の資産		
投資有価証券	424,477	356,590
関係会社株式	10,000	10,000
破産更生債権等	24,754	24,404
繰延税金資産	344,194	378,769
敷金及び保証金	329,241	271,339
その他	68,316	62,789
貸倒引当金	30,554	30,204
投資その他の資産合計	1,170,430	1,073,689
固定資産合計	5,757,078	5,445,670
資産合計	29,093,481	28,333,885

(単位：千円)

	前事業年度 (2025年3月31日)	当事業年度 (2026年3月31日)
<b>負債の部</b>		
<b>流動負債</b>		
支払手形	99,560	41,587
電子記録債務	3,394,522	2,709,653
買掛金	3,649,473	5,197,699
短期借入金	-	<sup>2</sup> 1,000,000
1年内返済予定の長期借入金	436,000	176,000
リース債務	25,911	22,075
未払金	171,352	149,166
未払費用	105,272	102,376
未払法人税等	530,254	437,317
前受金	15,444	11,736
賞与引当金	366,717	372,505
役員賞与引当金	174,000	168,000
その他	99,466	94,372
流動負債合計	9,067,977	10,482,491
<b>固定負債</b>		
長期借入金	201,000	25,000
リース債務	59,518	37,443
役員株式給付引当金	134,112	137,318
退職給付引当金	832,491	804,246
長期未払金	25,285	25,285
長期預り保証金	60,744	58,494
資産除去債務	56,992	57,226
固定負債合計	1,370,145	1,145,014
負債合計	10,438,122	11,627,506
<b>純資産の部</b>		
<b>株主資本</b>		
資本金	1,819,230	1,819,230
資本剰余金		
資本準備金	1,527,493	1,527,493
その他資本剰余金	219,563	-
資本剰余金合計	1,747,057	1,527,493
利益剰余金		
利益準備金	281,371	281,371
その他利益剰余金		
別途積立金	7,895,000	7,895,000
固定資産圧縮積立金	167,777	167,777
繰越利益剰余金	7,295,936	5,787,715
利益剰余金合計	15,640,084	14,131,863
自己株式	664,591	894,373
株主資本合計	18,541,780	16,584,213
<b>評価・換算差額等</b>		
その他有価証券評価差額金	113,578	122,165
評価・換算差額等合計	113,578	122,165
純資産合計	18,655,359	16,706,378
負債純資産合計	29,093,481	28,333,885

## 【損益計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 2024年 4月 1日 至 2025年 3月 31日)	当事業年度 (自 2025年 4月 1日 至 2026年 3月 31日)
売上高	46,631,604	45,902,296
売上原価	38,824,171	38,426,473
売上総利益	7,807,433	7,475,823
販売費及び一般管理費	1, 2 5,388,722	1, 2 5,404,481
営業利益	2,418,710	2,071,341
営業外収益		
受取利息及び配当金	30,317	41,467
仕入割引	191,001	197,206
為替差益	4,542	1,013
その他	17,713	41,608
営業外収益合計	243,574	281,296
営業外費用		
支払利息	5,268	8,750
手形売却損	731	1,349
株式報酬費用消滅損	953	1,544
貸倒引当金繰入額	150	-
その他	1,156	2,258
営業外費用合計	8,260	13,902
経常利益	2,654,025	2,338,734
特別利益		
投資有価証券売却益	29,739	175,248
抱合せ株式消滅差益	-	3 72,314
特別利益合計	29,739	247,563
特別損失		
固定資産除却損	4 0	4 0
投資有価証券売却損	-	287
特別損失合計	0	287
税引前当期純利益	2,683,764	2,586,010
法人税、住民税及び事業税	929,263	861,480
法人税等調整額	31,600	39,595
法人税等合計	897,662	821,884
当期純利益	1,786,102	1,764,125

【株主資本等変動計算書】

前事業年度(自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)

(単位：千円)

	株主資本						
	資本金	資本剰余金			利益剰余金		
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計	利益準備金	その他利益剰余金	
					別途積立金	固定資産圧縮積立金	
当期首残高	1,819,230	1,527,493	76,970	1,604,463	281,371	7,895,000	169,981
当期変動額							
剰余金の配当							
税率変更に伴う固定資産圧縮積立金の変動額							2,204
当期純利益							
自己株式の取得							
自己株式の処分			142,593	142,593			
自己株式の消却							
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)							
当期変動額合計	-	-	142,593	142,593	-	-	2,204
当期末残高	1,819,230	1,527,493	219,563	1,747,057	281,371	7,895,000	167,777

	株主資本				評価・換算差額等		純資産合計
	利益剰余金		自己株式	株主資本合計	その他 有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計	
	その他利益剰余金	利益剰余金 合計					
	繰越利益剰余金						
当期首残高	7,003,442	15,349,795	543,949	18,229,540	220,238	220,238	18,449,778
当期変動額							
剰余金の配当	1,495,813	1,495,813		1,495,813			1,495,813
税率変更に伴う固定資産圧縮積立金の変動額	2,204			-			-
当期純利益	1,786,102	1,786,102		1,786,102			1,786,102
自己株式の取得			250,180	250,180			250,180
自己株式の処分			129,537	272,131			272,131
自己株式の消却				-			-
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)					106,659	106,659	106,659
当期変動額合計	292,493	290,289	120,642	312,240	106,659	106,659	205,580
当期末残高	7,295,936	15,640,084	664,591	18,541,780	113,578	113,578	18,655,359

当事業年度(自 2025年4月1日 至 2026年3月31日)

(単位：千円)

	株主資本						
	資本金	資本剰余金			利益剰余金		
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計	利益準備金	その他利益剰余金	
					別途積立金	固定資産圧縮積立金	
当期首残高	1,819,230	1,527,493	219,563	1,747,057	281,371	7,895,000	167,777
当期変動額							
剰余金の配当							
税率変更に伴う固定資産圧縮積立金の変動額							
当期純利益							
自己株式の取得							
自己株式の処分			10,608	10,608			
自己株式の消却			230,172	230,172			
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)							
当期変動額合計	-	-	219,563	219,563	-	-	-
当期末残高	1,819,230	1,527,493	-	1,527,493	281,371	7,895,000	167,777

	株主資本				評価・換算差額等		純資産合計
	利益剰余金		自己株式	株主資本合計	その他 有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計	
	その他利益剰余金	利益剰余金合計					
	繰越利益剰余金						
当期首残高	7,295,936	15,640,084	664,591	18,541,780	113,578	113,578	18,655,359
当期変動額							
剰余金の配当	1,426,153	1,426,153		1,426,153			1,426,153
税率変更に伴う固定資産圧縮積立金の変動額				-			-
当期純利益	1,764,125	1,764,125		1,764,125			1,764,125
自己株式の取得			2,332,761	2,332,761			2,332,761
自己株式の処分			26,612	37,221			37,221
自己株式の消却	1,846,193	1,846,193	2,076,365	-			-
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)					8,586	8,586	8,586
当期変動額合計	1,508,221	1,508,221	229,782	1,957,567	8,586	8,586	1,948,980
当期末残高	5,787,715	14,131,863	894,373	16,584,213	122,165	122,165	16,706,378

【注記事項】

(重要な会計方針)

1 有価証券の評価基準及び評価方法

(1) 子会社株式

移動平均法による原価法

(2) その他有価証券

市場価格のない株式等以外のもの

決算期末日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は、全部純資産直入法により処理し、売却原価は、移動平均法により算定)

市場価格のない株式等

主として移動平均法による原価法

なお、投資事業有限責任組合及びそれに類する組合への出資(金融商品取引法第2条第2項により有価証券とみなされるもの)については、組合契約に規定される決算報告日に応じて入手可能な最近の決算書を基礎とし、持分相当額を純額で取り込む方法によっております。

2 棚卸資産の評価基準及び評価方法

(1) 商品

在庫品……移動平均法による原価法

(貸借対照表価額は、収益性の低下による簿価切下げの方法により算定)

引当品……個別法による原価法

(貸借対照表価額は、収益性の低下による簿価切下げの方法により算定)

(2) 製品・仕掛品・原材料

総平均法による原価法

(3) 貯蔵品

最終仕入原価法

3 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産(リース資産を除く)

主として定率法

ただし、1998年4月1日以降に取得した建物(建物附属設備を除く)並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については定額法

なお、主な耐用年数は、次のとおりであります。

建物	6年～38年
構築物	7年～20年
工具、器具及び備品	4年～15年

(2) 無形固定資産(リース資産を除く)

定額法

なお、主な耐用年数は次のとおりであります。

自社利用のソフトウェア 5年(社内における見込利用可能期間)

(3) リース資産

所有権移転ファイナンス・リース取引に係るリース資産

自己所有の固定資産に適用する減価償却方法と同一の方法

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法

#### 4 引当金の計上基準

##### (1) 貸倒引当金

債権の貸倒損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

##### (2) 賞与引当金

従業員の賞与の支給に備えるため、支給見込額に基づき計上しております。

##### (3) 役員賞与引当金

役員の賞与の支給に備えるため、支給見込額に基づき計上しております。

##### (4) 役員株式給付引当金

役員株式給付規程に基づく取締役及び執行役員への当社株式の交付に備えるため、当事業年度末における株式給付債務の見込額を計上しております。

##### (5) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務の見込額に基づき、当事業年度末において発生していると認められる額を計上しております。

退職給付引当金及び退職給付費用の処理方法は以下のとおりです。

###### 退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

###### 数理計算上の差異の費用処理方法

数理計算上の差異については、その発生の翌事業年度において一括処理することとしております。

#### 5 収益及び費用の計上基準

当社は、電機・電子部品の販売事業及び半導体装置向けのアルミフレームの組立等を行う製造事業を主な事業としており、それぞれ商品及び製品の販売を行っております。

当該商品及び製品の販売に係る履行義務は一時点で充足されるものであるため、「収益認識に関する会計基準の適用指針」第98項に定める代替的な取扱いを適用し、顧客との契約内容並びに出荷及び配送に要する日数に照らし、商品及び製品を出荷し要件を満たしたと判断した時点で収益を認識しております。

なお、顧客に移転する財又はサービスを支配しておらずこれらを手配するサービスのみを提供している取引については、代理人取引であると判断し、純額で収益を認識しております。

#### 6 その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

##### (1) 退職給付に係る会計処理

退職給付に係る未認識数理計算上の差異の貸借対照表における取扱いが連結貸借対照表と異なります。

##### (2) 資産に係る控除対象外消費税等の会計処理

資産に係る控除対象外消費税及び地方消費税は当事業年度の費用として処理しております。

(重要な会計上の見積り)

棚卸資産の評価

(1) 当事業年度の財務諸表に計上した金額

(単位：千円)

	前事業年度 (2025年3月31日)	当事業年度 (2026年3月31日)
棚卸資産	3,598,021	3,871,178

(2) 識別した項目に係る重要な会計上の見積りの内容に関する情報

連結財務諸表「注記事項(重要な会計上の見積り)」に同一の内容を記載しているため、注記を省略してあります。

(追加情報)

(株式給付信託(BBT))

取締役及び執行役員に信託を通じて自社の株式を交付する取引に関する注記については、連結財務諸表「注記事項(追加情報)」に同一の内容を記載しているため、注記を省略してあります。

(貸借対照表関係)

1 棚卸資産の内訳

	前事業年度 (2025年3月31日)	当事業年度 (2026年3月31日)
商品及び製品	3,569,750千円	3,850,664千円
仕掛品	2,993千円	7,697千円
原材料	25,277千円	12,817千円

2 当座貸越契約及びコミットメントライン契約

当社は、安定的な資金調達を可能にし、緊急時の手元流動性を確保することを目的として、取引銀行2行と当座貸越契約及びコミットメントライン契約を締結しております。

事業年度末における当座貸越契約及びコミットメントライン契約に係る借入未実行残高等は次のとおりであります。

	前事業年度 (2025年3月31日)	当事業年度 (2026年3月31日)
当座貸越契約及び コミットメントライン契約の総額	5,300,000千円	5,300,000千円
借入実行残高	-千円	1,000,000千円
差引額	5,300,000千円	4,300,000千円

(損益計算書関係)

1 関係会社との取引高

	前事業年度 (自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)	当事業年度 (自 2025年4月1日 至 2026年3月31日)
営業取引による取引高		
販売費及び一般管理費	115,535千円	140,952千円
営業取引以外の取引による取引高	- 千円	49,341千円

2 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額並びにおおよその割合は、次のとおりであります。

	前事業年度 (自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)	当事業年度 (自 2025年4月1日 至 2026年3月31日)
役員報酬	145,005千円	135,735千円
給与手当	2,385,053千円	2,434,763千円
株式報酬費用	99,394千円	52,466千円
法定福利費	378,275千円	372,824千円
退職給付費用	125,016千円	100,798千円
荷造運賃	375,592千円	365,713千円
減価償却費	198,555千円	193,568千円
貸倒引当金繰入額	1,646千円	301千円
賞与引当金繰入額	346,496千円	352,284千円
役員賞与引当金繰入額	174,000千円	168,000千円
おおよその割合		
販売費	49.12%	48.41%
一般管理費	50.88%	51.59%

3 抱合せ株式消滅差益

前事業年度(自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)

該当事項はありません。

当事業年度(自 2025年4月1日 至 2026年3月31日)

抱合せ株式消滅差益72,314千円は、ベル株式会社の吸収合併に伴うものであります。

4 固定資産除却損の内容は、次のとおりであります。

	前事業年度 (自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)	当事業年度 (自 2025年4月1日 至 2026年3月31日)
建物	- 千円	0千円
工具、器具及び備品	0千円	0千円
計	0千円	0千円

(有価証券関係)

子会社株式は、市場価格がない株式等のため、子会社株式の時価を記載しておりません。

なお、市場価格のない株式等の子会社株式の貸借対照表計上額は次のとおりです。

(単位：千円)

区分	前事業年度 (2025年3月31日)	当事業年度 (2026年3月31日)
子会社株式	10,000	10,000

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生 の主な原因別の内訳

	前事業年度 (2025年3月31日)	当事業年度 (2026年3月31日)
<b>繰延税金資産</b>		
未払事業税・事業所税	33,837千円	30,681千円
その他の未払金	8,970千円	9,261千円
未払費用	23,198千円	23,904千円
賞与引当金	112,215千円	117,339千円
退職給付引当金	261,880千円	253,337千円
長期未払金	7,964千円	7,964千円
貸倒引当金	19,154千円	18,971千円
会員権	4,650千円	4,650千円
投資有価証券評価損	4,644千円	3,909千円
建物減損損失	4,962千円	5,074千円
土地減損損失	56,626千円	56,626千円
その他	33,397千円	79,765千円
小計	571,502千円	611,487千円
評価性引当額	99,580千円	99,968千円
合計	471,922千円	511,518千円
<b>繰延税金負債</b>		
圧縮記帳積立金	77,152千円	77,152千円
その他有価証券評価差額金	50,574千円	55,595千円
合計	127,727千円	132,748千円
繰延税金資産の純額	344,194千円	378,769千円

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった  
主要な項目別の内訳

	前事業年度 (2025年3月31日)	当事業年度 (2026年3月31日)
法定実効税率	30.6%	30.6%
<b>(調整)</b>		
住民税均等割額	0.7%	0.7%
交際費等の一時差異でない項目	2.7%	1.3%
賃上げ促進税制による税額控除	- %	0.4%
その他	0.6%	0.4%
税効果会計適用後の法人税等の 負担率	33.4%	31.8%

(企業結合等関係)

(取得による企業結合)

連結財務諸表「注記事項(企業結合等関係)」に同一の内容を記載しているため、注記を省略しております。

(共通支配下の取引等)

完全子会社の吸収合併

連結財務諸表「注記事項(企業結合等関係)」に同一の内容を記載しているため、注記を省略しております。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を理解するための基礎となる情報は、連結財務諸表「注記事項(収益認識関係)」に同一の内容を記載しているため、注記を省略しております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【附属明細表】

【有形固定資産等明細表】

(単位：千円)

区分	資産の種類	当期首残高	当期増加額	当期減少額	当期償却額	当期末残高	減価償却累計額
有形 固定資産	建物	2,354,468	-	0	141,400	2,213,068	1,929,726
	構築物	47,189	-	-	5,733	41,456	151,591
	機械及び装置	3,698	-	-	698	2,999	26,564
	工具、器具及び備品	77,177	6,021	0	27,424	55,774	179,895
	土地	1,909,493	-	-	-	1,909,493	-
	リース資産	65,968	-	-	19,789	46,179	37,685
	計	4,457,996	6,021	0	195,045	4,268,971	2,325,463
無形 固定資産	その他	128,651	8,117	-	33,760	103,008	186,924
	計	128,651	8,117	-	33,760	103,008	186,924

(注) 無形固定資産の増加額の主なものは、Web通販サイトのリニューアル費用(ソフトウェア7,789千円)によるものであります。

【引当金明細表】

(単位：千円)

科目	当期首残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
貸倒引当金	31,692	1,187	1,488	31,391
賞与引当金	366,717	372,505	366,717	372,505
役員賞与引当金	174,000	168,000	174,000	168,000
役員株式給付引当金	134,112	23,702	20,497	137,318

(2) 【主な資産及び負債の内容】

連結財務諸表を作成しているため、記載を省略しております。

(3) 【その他】

該当事項はありません。

## 第6 【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	4月1日から3月31日まで
定時株主総会	6月中
基準日	3月31日
剰余金の配当の基準日	9月30日、3月31日
1単元の株式数	100株
単元未満株式の買取り・買増し	
取扱場所	(特別口座) 東京都千代田区丸の内1丁目3番3号 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部
株主名簿管理人	(特別口座) 東京都千代田区丸の内1丁目3番3号 みずほ信託銀行株式会社
取次所	
買取・買増手数料	株式の売買の委託に係る手数料相当額として別途定める金額(注)1
公告掲載方法	当会社の公告は、電子公告により行います。 ただし、電子公告によることができない事故、その他やむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載する方法で行います。 なお、電子公告は当社ホームページに掲載しており、そのアドレスは次のとおりです。 <a href="https://www.suzuden.co.jp/">https://www.suzuden.co.jp/</a>
株主に対する特典	なし

(注)1. 単元未満株式の買取または買増手数料は、以下の算式により1単元当たりの金額を算定し、これを買取りまたは買増した単元未満株式の数で按分した金額とする。

(算式)

1株当たりの買取りまたは買増し価格に1単元の株式数を乗じた合計金額のうち

100万円以下の金額につき 1.150%

100万円を超え500万円以下の金額につき 0.900%

500万円を超え1,000万円以下の金額につき 0.700%

1,000万円を超え3,000万円以下の金額につき 0.575%

3,000万円を超え5,000万円以下の金額につき 0.375%

(円未満の端数を生じた場合には切り捨てる。)

ただし、1単元当たりの算定金額が2,500円に満たない場合には、2,500円とする。

2. 当社定款の定めにより、単元未満株主は、会社法第189条第2項各号に掲げる権利、株主の有する株式数に応じて募集株式の割当て及び募集新株予約権の割当てを受ける権利及び単元未満株式の売渡請求をする権利以外の権利を有しておりません。

## 第7 【提出会社の参考情報】

### 1 【提出会社の親会社等の情報】

当社には、金融商品取引法第24条の7第1項に規定する親会社等はありません。

### 2 【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

(1) 有価証券報告書及びその添付書類並びに確認書

事業年度 第73期(自 2024年4月1日 至 2025年3月31日) 2025年6月23日関東財務局長に提出。

(2) 内部統制報告書及びその添付書類

2025年6月23日関東財務局長に提出。

(3) 半期報告書及び確認書

第74期中(自 2025年4月1日 至 2025年9月30日) 2025年11月7日関東財務局長に提出。

(4) 臨時報告書

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第8号の2(子会社取得の決定)の規定に基づく臨時報告書  
2025年5月22日関東財務局長に提出。

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2(株主総会における決議)の規定に基づく臨時報告書  
2025年6月27日関東財務局長に提出。

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

2026年6月22日

スズデン株式会社  
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

東京事務所

指定有限責任社員  
業務執行社員

公認会計士 宮 木 直 哉

指定有限責任社員  
業務執行社員

公認会計士 水 野 勝 成

### < 連結財務諸表監査 >

#### 監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられているスズデン株式会社の2025年4月1日から2026年3月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、スズデン株式会社及び連結子会社の2026年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

#### 監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「連結財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定（社会的影響度の高い事業体の財務諸表監査に適用される規定を含む。）に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査上の主要な検討事項

監査上の主要な検討事項とは、当連結会計年度の連結財務諸表の監査において、監査人が職業的専門家として特に重要であると判断した事項である。監査上の主要な検討事項は、連結財務諸表全体に対する監査の実施過程及び監査意見の形成において対応した事項であり、当監査法人は、当該事項に対して個別に意見を表明するものではない。

商品の販売に係る売上高の期間帰属の適切性	
監査上の主要な検討事項の内容及び決定理由	監査上の対応
<p>スズデン株式会社及び連結子会社は、国内メーカーより仕入れた電機・電子部品に関連する商品の顧客への販売及びそれに関連するサービスの提供を主たる事業として行っている。そのうち、当連結会計年度におけるスズデン株式会社による商品の販売は、連結売上高45,902,296千円の90%超を占めている。</p> <p>スズデン株式会社は、商品の販売について、連結財務諸表等の「【注記事項】(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)4会計方針に関する事項(5)重要な収益及び費用の計上基準」に記載のとおり、顧客との契約内容並びに出荷及び配送に要する日数に照らし、商品を出荷し要件を満たしたと判断した時点で収益を認識している。</p> <p>スズデン株式会社は、その事業の特性から、取扱商品数、顧客数及び仕入先数は多岐にわたり、配送方法も物流センターからの配送、仕入先からの直送等複数有している。また、個々の取引金額は売上高の全体に比べて少額であり、処理される年間の取引件数は膨大となっている。そのため、発生した個々の取引を適時・適切に処理して売上高を認識することは、スズデン株式会社にとって重要性が高い事項である。なお、例年、決算期末月である3月の売上高が他の月と比べ相対的に多額となっている。</p> <p>以上から、当監査法人は、商品の販売に係る売上高の期間帰属の適切性が、当連結会計年度の連結財務諸表監査において特に重要であり、「監査上の主要な検討事項」に該当すると判断した。</p>	<p>当監査法人は、商品の販売に係る売上高の期間帰属の適切性を検討するため、主に以下の監査手続を実施した。</p> <p>(1)内部統制の評価  売上高の認識に関連する内部統制の整備状況及び運用状況の有効性を評価した。評価にあたっては、特に以下に焦点を当てた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>顧客からの注文書や仕入先からの納品書等を含む取引関連情報の販売システムへの入力結果を、入力実施者以外の第三者が確認する統制</li> <li>決算期末日前に出荷された商品について、出荷データを含む取引関連情報に基づき、適切な会計期間に売上高として計上されているかどうかを確認する統制</li> </ul> <p>(2)売上高の期間帰属の適切性の検討  内部統制の評価結果を考慮のうえ、以下の監査手続を実施し売上高の期間帰属の適切性を検討した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>決算期末日前後の一定期間の売上高を母集団として統計的に抽出した取引の注文書、受領書を含む取引関連資料との照合を実施した。</li> <li>決算期末日前に売上高として計上され、決算期末日後に返品処理された取引の明細を通査した。そのうえで、一部の取引について返品に至った理由を質問するとともに、当初の売上計上取引について注文書を含む取引関連資料を閲覧し、当期の売上計上の妥当性を検討した。</li> </ul>

その他の記載内容

その他の記載内容は、有価証券報告書に含まれる情報のうち、連結財務諸表及び財務諸表並びにこれらの監査報告書以外の情報である。経営者の責任は、その他の記載内容を作成し開示することにある。また、監査等委員会の責任は、その他の記載内容の報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

当監査法人の連結財務諸表に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、当監査法人はその他の記載内容に対して意見を表明するものではない。

連結財務諸表監査における当監査法人の責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と連結財務諸表又は当監査法人が監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうかを検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの兆候があるかどうか注意を払うことにある。

当監査法人は、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、その事実を報告することが求められている。

その他の記載内容に関して、当監査法人が報告すべき事項はない。

連結財務諸表に対する経営者及び監査等委員会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査等委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

## 連結財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての連結財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、連結財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・連結財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・経営者が継続企業を前提として連結財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、連結財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。
- ・連結財務諸表に対する意見表明の基礎となる、会社及び連結子会社の財務情報に関する十分かつ適切な監査証拠を入手するために、連結財務諸表の監査を計画し実施する。監査人は、連結財務諸表の監査に関する指揮、監督及び査閲に関して責任がある。監査人は、単独で監査意見に対して責任を負う。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

監査人は、監査等委員会と協議した事項のうち、当連結会計年度の連結財務諸表の監査で特に重要であると判断した事項を監査上の主要な検討事項と決定し、監査報告書において記載する。ただし、法令等により当該事項の公表が禁止されている場合や、極めて限定的ではあるが、監査報告書において報告することにより生じる不利益が公共の利益を上回ると合理的に見込まれるため、監査人が報告すべきでないと判断した場合は、当該事項を記載しない。

### < 内部統制監査 >

#### 監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、スズデン株式会社の2026年3月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。

当監査法人は、スズデン株式会社が2026年3月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

## 監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準における当監査法人の責任は、「内部統制監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

## 内部統制報告書に対する経営者及び監査等委員会の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

監査等委員会の責任は、財務報告に係る内部統制の整備及び運用状況を監視、検証することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

## 内部統制監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した内部統制監査に基づいて、内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、内部統制監査報告書において独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための監査手続を実施する。内部統制監査の監査手続は、監査人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。
- ・財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討する。
- ・内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果に関する十分かつ適切な監査証拠を入手するために、内部統制の監査を計画し実施する。監査人は、内部統制報告書の監査に関する指揮、監督及び査閲に関して責任がある。監査人は、単独で監査意見に対して責任を負う。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した内部統制監査の範囲とその実施時期、内部統制監査の実施結果、識別した内部統制の開示すべき重要な不備、その是正結果、及び内部統制の監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

## < 報酬関連情報 >

当監査法人及び当監査法人と同一のネットワークに属する者に対する、会社及び子会社の監査証明業務に基づく報酬及び非監査業務に基づく報酬の額は、「提出会社の状況」に含まれるコーポレート・ガバナンスの状況等 (3)【監査の状況】に記載されている。

## 利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1 . 上記の監査報告書の原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。  
2 . XBRLデータは監査の対象には含まれていません。

## 独立監査人の監査報告書

2026年6月22日

スズデン株式会社  
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

東京事務所

指定有限責任社員  
業務執行社員

公認会計士 宮 木 直 哉

指定有限責任社員  
業務執行社員

公認会計士 水 野 勝 成

### < 財務諸表監査 >

#### 監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられているスズデン株式会社の2025年4月1日から2026年3月31日までの第74期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、スズデン株式会社の2026年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

#### 監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定（社会的影響度の高い事業体の財務諸表監査に適用される規定を含む。）に従って、会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

#### 監査上の主要な検討事項

監査上の主要な検討事項とは、当事業年度の財務諸表の監査において、監査人が職業的専門家として特に重要であると判断した事項である。監査上の主要な検討事項は、財務諸表全体に対する監査の実施過程及び監査意見の形成において対応した事項であり、当監査法人は、当該事項に対して個別に意見を表明するものではない。

（商品の販売に係る売上高の期間帰属の適切性）

連結財務諸表の監査報告書に記載されている監査上の主要な検討事項（商品の販売に係る売上高の期間帰属の適切性）と実質的に同一内容であるため、記載を省略している。

## その他の記載内容

その他の記載内容は、有価証券報告書に含まれる情報のうち、連結財務諸表及び財務諸表並びにこれらの監査報告書以外の情報である。経営者の責任は、その他の記載内容を作成し開示することにある。また、監査等委員会の責任は、その他の記載内容の報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

当監査法人の財務諸表に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、当監査法人はその他の記載内容に対して意見を表明するものではない。

財務諸表監査における当監査法人の責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と財務諸表又は当監査法人が監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうか検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの兆候があるかどうか注意を払うことにある。

当監査法人は、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、その事実を報告することが求められている。

その他の記載内容に関して、当監査法人が報告すべき事項はない。

## 財務諸表に対する経営者及び監査等委員会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査等委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

## 財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・経営者が継続企業を前提として財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する財務諸表の注記事項が適切でない場合は、財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた財務諸表の表示、構成及び内容、並びに財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

監査人は、監査等委員会と協議した事項のうち、当事業年度の財務諸表の監査で特に重要であると判断した事項を監査上の主要な検討事項と決定し、監査報告書において記載する。ただし、法令等により当該事項の公表が禁止されている場合や、極めて限定的ではあるが、監査報告書において報告することにより生じる不利益が公共の利益を上回ると合理的に見込まれるため、監査人が報告すべきでないと判断した場合は、当該事項を記載しない。

#### < 報酬関連情報 >

報酬関連情報は、連結財務諸表の監査報告書に記載されている。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- 
- (注) 1 . 上記の監査報告書の原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。  
2 . XBRLデータは監査の対象には含まれていません。